（当会社ノ現在資本百万円払込二十五万円ヲ其儘トシ新会社ヲ合併スルノ意）ノ要望アリタルモ斯クテハ当初資本増減ノ総領事館ノ命令条項ニ抵触スルコトトナルヲ以テ当会社ノ資本ハ現在ノ儘トシ新会社ヲ資本金五十万円払込十二万五千円ニ減資シ利益配当優先権附与ノ件ハ年八分ヲ四分トシ若シ新会社ノ承認ヲ得難キ場合ハ年五分トシ其ノ決定ハ重役ニ一任スルコトニ決議セリ然ルニ新会社ニ於テハ容易ニ当会社ノ要求ヲ容レス両者間種々折衝今日ニ至レルモノナル処当会社理事者ノ申出ニ依レハ増減問題モ餘リニ延引セルヲ以テ株主ノ利益保全上一日モ速ニ前記交渉ノ進捗ヲ期スル為昨年一月初旬当会社ヨリ理事者ヲ東京ニ派シ協議セシムルコトトセルモ若シ不幸ニシテ交渉纏マラサル場合ハ止ムヲ得ス解散等適当ノ措置ニ出ツヘキ趣ナリ

四、善後策　当会社ノ善後措置ニ関シテハ本年二月已ニ方針ヲ決定シタル処ナルモ其後当会社所期ノ目的達成モ相当ノ目安立チ次テ当会社ニ合併セラルヘキ新会社モ設立ヲ見引続キ両社ノ合併協議ニ入リタル等ノ事実ニ顧ミ当会社ノ目的達成ヲ期待シ今日ニ至レルモノナル処最近ノ情勢ヨリ推セハ前記ノ事実ハ寧ロ逆行ノ状況ニアルカ如ク看取セラルルニ至レリ

事情叙上ノ如ク此儘会社ヲ存続セシムルハ株主ノ利益ヲ益減殺シ会社自体モ之ヲ維持スヘカラサル状態ニ陥ルヘキヲ以テ前記会社理事者ノ申出ノ通少ク共明年一月下旬迄ニ任意解散ヲ実行セサルニ於テハ当館トシテハ会社資産ノ減少並営業ノ不能ヲ理由トシ営業許可ノ取消ヲナス所存ナリ（以上）

三　中ソ紛争と不戦条約関係

237　昭和4年5月31日　田中外務大臣より在ソ連田中（都吉）大使宛

当面の対ソ政策上注意すべき諸点について

（付箋一）

（編注）号

本省　5月31日　発

一、露国ノ政治及経済組織ハ他国ニ比シ特殊的ナルト隣邦露国ノ事態ハ必然的ニ我国ニ影響ヲ及ホスヘキトニ鑑ミ同国諸般ノ情報殊ニ政治、財政、経済ニ関スル情報ハ申ス迄モナキコトナカラ成ル可ク詳細頻繁且系統的ニ報告セラルル様致度殊ニ第三「インターナショナル」ノ諸外国ニ対スル策動並此等諸国ノ対策ニ付テハ貴任国駐箚ノ使臣トモ連絡ヲ執リ終始観察報告セラレ度露国共産大学等ニ於テ教育ヲ受ケツツアル本邦人ノ状況ニ付テモ注意ヲ加ヘラルル様致度シ将又露国ノ支那ニ対スル政策施設ニ付テハ不断ノ注意ヲ払ヒ殊ニ支那側ノ東支鉄道回収運動ニ対スル露国政府ノ態度ニ付テハ十分注意ヲ加ヘ随時報告セラレ度シ

（付箋二）

二、通商条約ノ締結ハ露国側ニ於テ最モ希望スル所ナラムモ日露間漁業問題ノ懸案解決セズ且共産党事件ノ始末モ未ダ終結セサル今日トシテハ之ガ締結ノ具体的商議ヲ開始スルハ時機適当ナラズト認メラルルニ付若シ先方ニ於テ強イテ希望スル場合ニハ先ツ我方トシテハ条約問題ノ具体的商議ニ先チ日露間通商関係ノ増進ヲ計ル趣旨ニ於テ例ヘハ本邦ノ対「ソ」貿易ノ片貿易ナルノ弊ヲ矯正スル為本邦ノ対露輸出商品ニ対スル一定量ノ購売最小限度ヲ設定スルコト及購売方法ノ簡易化其ノ他ノ方法ヲ講スルコトニ関シ通商条約締結ノ下準備トシテ露国側ノ意嚮ヲ問糺シ意見ノ交換ヲ行ハレ差支ナシ

三、露国ノ赤化宣伝ニ付テハ政府ニ於テ夙ニ注意ヲ加ヘ来リタル所ナルカ殊ニ日本共産党事件ト露国トノ関係如何ニ付テハ深甚ノ関心ヲ以テ該事件審理ノ成行ヲ注視シツツアリ該事件ハ目下尚豫審中ニ属シ確定的報告ニハ接シ

居ラサルモ司法当局随時ノ内報ニ徴スルニ同事件ト露国側トノ関係ハ相当注意ヲ要スルモノアルヤニ認メラル豫審ノ結果両者ノ関係分明スルニ於テハ日露国交ノ大局ニ立脚シ赤化宣伝問題ニ関シ同国政府ノ厳粛ナル反省ヲ促スノ措置ヲ講スル必要生スルコト有リ得ヘキニ付右ニ含ミ置カレ度シ

（付箋一）「本邦人」ハ朝鮮人ヲ含ムモノト了解アリ度支那学生ニ付テモ十分注意アリタシ（口頭ニテ追加）

（付箋二）「共産党事件」云々ハ露国側ニ対シ之ヲ明言スルコト適当ナラサルニ付右ニ含ミ置カレ度シ（口頭ニテ追加）

編注 写しにて電報番号なし

238 昭和4年6月3日 在ハルビン八木総領事より田中外務大臣宛 **在ハルビンソ連総領事館捜索状況の詳細について**

機密第四五三号 （6月10日接受）

昭和四年六月三日

在哈爾賓

総領事 八木 元八〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

支那官憲ノ哈爾賓労農総領事館捜査事件ニ関スル件

本件ニ関シテハ累次拙電ニヨリ概要ハ既ニ御承知ノ通リナルカ事件ノ一般状況別紙ノ通リ取纏メ茲ニ報告ス

御査閲相成度

本信写送付先 在露大使、在支公使、奉天、上海、天津青島、吉林、間島、浦塩、哈府各総領事長春、安東、斉々哈爾、満洲里各領事

（別紙）

支那官憲ノ哈爾賓労農総領事館捜査事件

目次

一、捜査ノ一般状況
二、共産党会議ノ模様及参加者
三、拘禁者ノ訊問及押収文書ノ調査
四、捜査ノ理由及動機
五、労農総領事館内ノ状況

六、捜査ニ伴ヒ警察当局ノ執レル処理
七、参考

一、捜査ノ一般状況

東省特別区警察総管理処ハ諜者ノ報告ニヨリ五月二十七日正午ヨリ午后三時ニ亘リ労農総領事館ニ於テ主トシテ東支鉄道東部線地方共産党員ノ参加セル第三「インターナショナル」会議開催サルヘキ趣ヲ知リ之カ臨検ノタメ同日午后一時第三区警察署巡警隊数十名ヲ派遣シ同隊ハ直ニ労農総領事館ニ赴キ一部ハ周囲ノ警戒ニ任シ一部ハ会合ノ場所タル同館地下室ニ向ヒタル処入口ハ堅ク閉鎖サレ居リ内部ヨリ何等ノ応答ナキニヨリ総領事館内ニ進ミ入リ右会議ニ臨検センコトヲ要求セリ然ルニ右会合ニ参加セル共産党員ハ巡警隊ノ来襲ヲ知リ早速文書其他秘密書類ノ焼棄ヲ始メタルヲ以テ各煙突ヨリハ頻リニ黒煙ヲ吐クニ至リ警察当局ハ火災ノ虞アリト称シテ直ニ消防隊ヲ出動セシムルニ至リシカ焼棄セル模様其他ノ状況ハ後日ノ証拠トシテ之ヲ写真撮影スルト共ニ警察官憲ハ館員立会ノ下ニ館内各室ノ捜査ヲ為シ多数ノ文書図書類ヲ押収シ会議出席者中領事館員ハ之カ監理ヲ総領事ニ托シ外来参加者三十九名ヲ総管理処ニ拘引シ六時四十分同総領事館ヲ引揚ケタリ

二、会議ノ模様及参加者

当日ノ会合ニハ東支鉄道東部沿線ノミナラス西部、南部沿線各地ノ地方代表者及職業組合「ソフトルグフロート」、石油「シンジケート」等各団体代表者約五十名参加セルカ如ク如斯会合ハ毎二年ニ一回宛開催スルコト、ナリ居リ各代表ノ報告ヲ聴取審議シ更ニ今後ノ党事業ニ関シ訓令指示スル所アル筈ナリシト云フ

当日ノ主ナル参加者左ノ如シ

ツイムバレウイチ	ダリゴスドルグ支配人
スタンケウィチ	東支鉄道商業部員
タラーノフ	ソフトルグフロート代表者
フイリペーワ（女）	東支鉄道管理局員
ペレモレーノフ	職工組合員
ポーラ（女）	職業同盟代表
ピネウイチ	哈爾賓ツエントロソユーズ代表
ペトロフ	石油シンジカート代表
クズネツオフ	元奉天総領事
カンドル	知多

ドロビンスキー　阿什河
コレダ（女）　一面坡
ウイギシエフ　横道河子
ゴンチヤロフ　穆稜
ガドウリヤク　窰門
ゴレシヨフ　長春
ゴルタシヨフ　安達
グリコリエフ　斉々哈爾
クレンコフ　扎蘭屯
ブリチエフ　同
コレネフ　博克図
ゴリヤーザ（女）　海拉爾
スモレウイチ　満洲里
トウロフスキー
パリノフ
クウイコフ
アレクサンドロフ
其他

以上ノ内「ツイムバレウイチ」、「スタンケウイチ」及「タラノフ」ノ三名ハ有力ナル党員ニシテ党執行委員ナリ常ニ総領事館ヨリ発給セル証明書ヲ所持シ之ニヨリテ全ク商人ヲ装ヒ支那官憲ノ目ヲ晦マシ居タルモノヽ如ク其他ノ者モ亦総テ一九二二年前ノ党員ニシテ地方ニ於ケル指導者ナリト云フ

三、拘禁者ノ訊問及押収文書ノ調査

支那側官憲ハ臨検当日巡警隊ノ現場到着前既ニ労農総領事館ニ於テ文書ノ焼棄ヲ開始シ居タルニ徴シ警察署内ニ内通スルモノアルヤヲ疑ヒ本事件拘禁者及押収文書ノ調査ハ特別区行政長官ノ命令ニヨリ警察官憲ト別個ニ調査委員会ヲ組織シ嘗テ北京ニ於ケル労農大使館臨検事件当時同事件調査委員長タリシ現教育庁長張國忱ヲ委員長トシ同ジク北京事件ノ調査ニ携ハリタル行政長官公署薛外交部長其他露語ニ堪能ナル者ヲ各官衙ヨリ選抜シ二十七日午後九時ヨリ即日鋭意調査ヲ開始セリ

張教育庁長ハ北京事件ノ際ニ於ケル経験アリ本件臨検ノ際モ自ラ総領事館ニ臨場シ指揮ニ当リタルモノヽ如ク焼棄防止ノ為消防隊ヲ出シ各室ヲ写真撮影スル等用意周到ナル処置ヲ為シタルハ之カ為ナリト云フ

押収文書ノ調査ハ着々進行シ居ルモノヽ如ク其ノ一部ハ三十日発行ノ新聞ヨリ発表シ始メ同日ノ紙上ニ於テハ今夏ニ於テ為スヘキ共産党ノ事業計画ヲ暴露セリ

押収文書ノ内閲及必要ノ部分ノ写真撮影方ニ関シテハ目下当館ヨリ支那側当局ニ対シ交渉中ナリ

被拘禁者ニ対シテハ支那側ノ発表スル所ニヨレハ大イニ優遇シ居リ訊問ノ際モ自由ニ椅子ヲ与ヘ喫煙ヲ許シ茶ヲ給シ又寝具、敷布、石鹸、手拭等ヲモ支給シ食事モ洋食ヲ態々露西亜料理店ヨリ取寄セ支給シ居レリト云フ

尚情報ニ依レハ三十九名ノ拘禁者中現在ニ於テハ十三名ノミヲ残シ他ハ釈放セラレ前記首領株三名モ其ノ内ニ在リ尤モ保釈金数万元ヲ納メタリト云フ必スヤ労農側ヨリ手ヲ廻シ種々ノ運動行ハル、コト、ナルヘク調査ノ結果ハ遂ニ龍頭蛇尾ニ終ル無キヲ保セス之レ支那ニ於ケル此種事件ノ例ナレハナリ

四、捜査ノ理由及動機

南支ニ於ケル「ボロジン」ノ共産運動遂ニ失敗ニ帰シ次テ一九二七年北京ニ於ケル大使館又張作霖ノ為メ捜査ヲ受クルニ及ヒ外交関係断絶スルノ已ムナキニ至リ北京及天津ニハ尚領事館ノ存在スルアリト雖モ其ノ活動ハ極限セラレテ積極的宣伝ノ挙ニ出ヅル能ハス僅カニ北満地方ニ於テハ東支鉄道ヲ利用シテ之ヲ主義宣伝ノ根拠トナシ哈爾賓総領事ヲ其ノ指導機関トシテ専ラ主義上ノ勢力ヲ張リ居リシカ奉天官憲トシテハ従来ヨリ其ノ取締ハ腐心スル所アリ屢々労農領事館ノ閉鎖問題伝ヘラレタルコトアリシカ今回突然奇襲シテ捜査ヲ断行セル其ノ動機ニ関シテハ種々ノ説アリ其ノ一、二ヲ挙クレハ

(イ)、馮玉祥トノ聯絡防止ノ為メ

警察側責任者ノ当総領事館員ニ語ル所ニヨレハ同日ノ会合ハ主トシテ馮ト因縁アル者ノ集マリニシテ之ヲ見逃サンカ時局柄恐ルヘキ結果ヲ見ルニ至ルヘキヲ以テナリト云フ

又他ノ情報ニヨレハ蔣介石及馮玉祥間ノ関係漸ク険悪ナラムトスルノ徴アリシ約一ケ月前蔣ハ両者ノ軋轢ヲ利用シテ或種ノ陰謀ヲ企ツルノ虞アル労農側機関ノ閉鎖命令ヲ奉天側ニ発シ居タル趣ニテ其ノ当時ヨリ既ニ何等カノ処置ニ出ツヘク時機ヲ窺ヒ居タルモノナリトモ伝ヘラル

(ロ)、東支鉄道問題解決ノ手段

支那側ノ東支鉄道回収熱ハ奉露協定以来日一日ト熾トナリ最近ニ於テハ管理局長ノ権限縮少、支那人副理事長ノ権限増加、各部局ノ廃合、重要部局課長ニ支那人任命等幾多ノ要求ヲ労農側ニ提出シ従来ニ於テハ結局支那側ノ要求ニ聴従シ来リシ労農側カ今回ハ容易ニ譲ラス五月七日以来屢々開カレシ協議会ニ於テモ何等纏ル所ナキ情況ナリシニヨリ此際赤化宣伝ニ対スル取締ヲ名トシテ労農側策動ノ根拠地ヲ襲ヒ以テ行詰リノ状態ニアル本件係争問題ノ打開ヲ図ラムトセルモノナリト観察スル向アリ

(ハ)、東支機密費使途穿鑿ノ目的

東支鉄道会計検査ノ際支那側検査員カ蘇支折半機密費各十万円ノ労農側ノ使途明瞭ヲ欠キ単ニ「ドルコム」（鉄道従業員組合）渡シトナリ居リ其ノ使用ハ労農総領事「メリニコフ」ノ自由ニ委シアルカ如キヲ発見シ鉄道ノ機密費ヲ以テ必スヤ赤化宣伝ニ使用シアルヘシトナシ其ノ証拠ヲ挙ケンカ為ナリトモ伝ヘラル

(ニ)、労農側態度ニ対スル反感

東支鉄道理事長呂榮寰ハ従来対労農態度比較的温和主義ニシテ奉天官辺ノ東支回収ニ関スル態度強硬ナル間ニ在リテ緩和ニ努メ来リタル処最近ニ於ケル労農側ノ態度硬化ノ徴アリ何等誠意ヲ示サス殊ニ最近哈爾賓ニ於ケル電話局ノ状況視察ニ来レル電政局長蔣賦(嘉カ)ニ対シ其ノ視察ヲ拒絶セルノ事実アリ又浦塩ニ於テハ支那副領事ヲ不法監禁（事実無根）セルヤノ噂アリ其他労農国内ニ在ル支那人ノ圧迫等ニ対スル報復手段ナリト見ルモノアリ

以上ヲ綜合シテ観察スルニ苟モ領事館ニ手入レスルニ当リテハ相当ノ決心ヲ要スル次第ニシテ場合ニ依リテハ本事件ヲ動機トシテ両国間ニ如何ナル事端ノ発生スルナキヤヲ保シ難ク其ノ危険ヲ冒シテ本事件ヲ敢行スルニハ之カ代償タルヘキ利益ナカルヘカラス

惟フニ馮ノ行動疑ハシキモノアリ労農側ト何等カ策謀スルノ虞アルヲ以テ蔣ハ或ハ張學良ニ対シ労農領事館ノ捜査ヲ為シ連絡ヲ絶タシムヘク命シタルコトハ有リ得ヘキ次第ニシテ張學良ハ右ノ命令ヲ受クルト雖モ中部支那ノ形勢未タ逆睹スヘカラサルモノアリ且又上記ノ危険アルヲ以テ直ニ之ニ応スルコトヲ為サス時機ヲ窺ヒ居リシ処東支鉄道問題紛糾ヲ告ケ其ノ打開策トシテハ強圧的態度ニ出ツルヲ有利ト思考シツヽアリシ際偶々共産党員会合ノ諜報ヲ得共産党ノ検挙ハ何レノ方面ニ対シテモ最モ理由付ケ易キヲ以テ時機ヲ逸セス本事件ヲ敢行シタルモノナランカト思考セラル

五、労農総領事館内ノ状況

支那側警官ノ来着ヤル際ニハ既ニ各煙突ヨリ黒煙ヲ上ケ居リタルヲ見レハ既ニ機密文書ノ焼却ヲ始メ居タルカ如ク諜報ニ依リ警察官ノ来着前既ニ其ノ事ヲ知リ居タル模様ナリ新聞紙ノ報スル所ニヨレハ各室ニハ焼却用暖炉及石油等用意シアリタルノミナラス発信、受信用無線電信機モ調着ケアリシト云フ又三階屋根裏ニハ秘密室ノ設アリ

当日警察官ノ臨検アルヲ知ルヤ「メリニコフ」総領事ハ館員「トツパ」ヲシテ重要書類ヲ右秘密室ニ於テ一時ヨリ五時ニ亘リ焼棄セシメタルヲ以テ目星シキ書類ハ押収シ得サル筈ナリト云フ

金庫ノ開扉ハ之ヲ拒ミシニヨリ巡警ハ之ニ封印ヲナシ又巡警ハ総領事ノ不可侵権ハ何等侵害スルコトナカリシトノ文書ヲ調作シ之ニ署名ヲ求メタルカ総領事及館員ハ何レモ之ヲ拒絶セリト云フ

同総領事館ハ一階ヲ事務所トシ階上ヲ総領事ノ官邸トナシ居レリ

六、捜査ニ伴ヒ警察当局ノ執レル処置

当日支那側警察官憲ハ捜査ノ為巡警隊ヲ派遣スルト共ニ東支鉄道労農側代表副理事長「チルキン」等労農側要人自宅ニ対シ巡警ヲ派シ警戒スル所アリ又当二十七日午后九時ヨリ翌二十八日正午迄労農側各機関及幹部ノ事務所及自宅用電話ノ通話ヲ遮断シ同二十八日ハ朝ヨリ一般公衆電話ニ対シ校閲ヲ開始シ又新聞記者ニ対シテモ極端ナル干渉ノ手ヲ加ヘ労農側機関紙「ノーヴオスチジーズニ」紙ニ対シ二十八日午前一時ヨリ六時ニ亘リ臨検ヲ為シタルモ拘引押収ヲ為スニ至ラス

七、参考

労農総領事館ハ翌二十八日ヨリ平常通リ開館執務シ居リ又本件捜査ト同時ニ在「ポクラニーチナヤ」労農領事館モ亦捜査ヲ受ケタル旨新聞紙ニヨリ報セラレタルカ右ハ全然虚報ナルコト判明セリ

239　昭和4年6月6日　田中外務大臣より在南京岡本領事宛（電報）

在ハルビンソ連総領事館の捜索は国民政府の

命令によるものか確認方訓令

本　省　6月6日　発

第一〇三号

諸般ノ状況ヲ綜合スルニ在哈蘇聯総領事館ノ捜索ハ国民政府豫テノ命令ニ基キテ行ヒタルヤニ認メラルル処本大臣宛奉天発電報第三五六号王樹翰ノ談話ニ依レハ全然東三省当局ノ発意ニ基ク趣ナルニ付テハ此ノ辺ノ事情可然方法ニテ御確メノ上回電アリタシ

奉天、哈爾賓ニ転電セリ

240　昭和4年6月7日　在奉天林総領事より田中外務大臣宛（電報）

在ハルビンソ連総領事館の捜査は突発事件との張学良談話について

奉　天　6月7日前発

本　省　6月7日後着

第三六二号

六日澤田参事官張學良ト会見ノ際哈爾賓労農領事館捜査事件ニ対スル措置及東支鉄道問題ニ関係ノ有無ヲ質問セルニ學良ハ捜査事件ハ臨時勃発事件ニシテ鉄道問題ハ多年ノ懸案ナレハ自ラ別個ノ問題ナリ鉄道問題ニ関シテハ目下鋭意研究中ニシテ今後北満ニ於ケル人種問題ニ対シテ執ルヘキ措置ニ付テハ目下中央政府ト協議中ナリト答ヘタリ御参考迄

上海ヨリ南京ヘ転電アリタシ

北平、上海、哈爾賓ヘ転電セリ

241　昭和4年6月7日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

在ハルビンソ連総領事館の捜索は張景恵の独断行為と認められる旨報告

南　京　6月7日前発

本　省　6月7日後着

第六三七号

貴電第一〇三号ニ関シ

外交部、総司令部、国民政府等ニ就キ取調ヘタル処左ノ通

一、今回ノ措置ハ哈爾賓行政長官張景恵ノ独断的所為ニシテ外交部ハ固ヨリ総司令部方面ヨリモ命令シタルコト無

シ尤モ其ノ以前一般的命令トシテ馮玉祥ト赤露トノ関係ニ付探査スヘキヲ命シアリ現ニ北平ニ於テハ右命令ニ基キ客月十九日ヨリ始メ月末ニ至ル間ニ北平露国大使館残留者ヨリ本国其ノ他ヘ発シタル電報二十三通ヲ押収シ目下調査中ナリ即チ張景恵ニ於テ前記一般的命令ニ基キ恰モ第三「インターナショナル」ノ秘密会合ヲ探知シタルヲ以テ当然中央ノ意志ニ副フモノト思料シ断行シタル次第ナリ

一、露国側ヨリハ当初頗ル簡単ナル本件捜査ノ不法ヲ詰問セル抗議電報アリ外交部ヨリハ逆捻的ニ第三「インターナショナル」ノ会合ヲ指摘シテ抗議ヲ提出シタル処右ニ対シ赤露ヨリ頗ル長文（本官モ一見シタルカ漢訳セルモノ我十二行罫紙二十五枚ヲ数ヘタリ）ノ反駁的抗議アリ事件ノ詳細ヲ認メ北平大使館、東支鉄道ニ対スル不法行為ニ加フルニ今亦斯ノ如キ蛮挙ヲ繰返シ国際法上認メラレタル領事館ノ権利ヲ侵害セル以上支那大使館員及領事館員ニ対スル治外法権ヲモ認ムル能ハス但シ一般支那国民ニ対シテハ従来通充分ノ保護ヲ加フ云々トアリ次テ重ネテ電報ヲ以テ本件ノ重大性ヲ述ヘテ支那側ノ回答ヲ促シ来リ居レリ

一、右二通ノ抗議ニ対シ支那側ヨリハ未タ何等ノ回答ヲ発シ居ラス王正廷昨六日発上海ニ赴ケル様ノ状態ナルヲ以テ本件ハ有耶無耶ノ間ニ葬ラントスルモノノ如キ処今回ハ露国側ニ於テ果シテ前回ノ如ク放任スルヤ否ヤ頗ル疑問ナリト支那側ニ於テモ観測シ居レリ

一、尚満洲里ニ於テ逮捕セラレタル露国総領事一行ニ付テモ厳重抗議アリ外交部ハ張學良ニ対シ早々取調方ヲ命シタルノミニテ未タ釈放等ノ訓令ヲ発シ居ラサル趣ナリ

支、上海、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

242　昭和4年6月14日　在奉天林総領事より田中外務大臣宛（電報）

呂栄寰中東鉄道督辨の時局観について

奉　天　6月14日後発

本　省　6月14日後着

第三七三号

十三日滞奉中ノ呂榮寰ノ深澤ニ対スル談左ノ通

一、哈爾賓労農領事館押収文書ノ多クハ白系露人ノ偽作ニ

係リ以前ヨリ支那官憲ノ手中ニアリタルモノナリトノ説ハ信スルヲ得ス

二、平津地方ヲ東北省軍ニテ接収シ張景惠衛戍司令タルヘシトノ説ハ新聞辞令ナルヘク未タ聞知セス

三、高紀毅ノ南下ハ南京ニ於ケル鉄路会議参列ノ為ナリ

四、深澤ヨリ労農領事館捜索事件ヲ機会ニ一気ニ東支鉄道ノ回収ヲ期セントスル支那側ノ腹ナルヤト問ヒタルニ対シ呂ハ之ヲ肯定セサルト共ニ敢テ否定モセス該鉄道ノ将来ニ対スル支那側トシテノ観念ハ同事件ノ有無ニ拘ラス同様ナリト答ヘタル由

五、次テ深澤ヨリ露支関係切迫説伝ハル処支那側ニテハ露国ハ何等有力ナル手段ヲ執リ得スト高ヲ括リ居ル次第ナリヤト問ヒタルニ呂ハ露国ノ厳重抗議ハ国際間ノ恒例ニ過キス支那側トシテハ本件ニ付至当ト認ムル理由アル以上唯夫レ丈ノ話ナルヘク別ニ重大ナル危局ヲ生スルモノトモ思ハス尤モ対露関係ニ付テハ中央政府ニ於テ適当ノ処置ニ出ツヘシト語レル由

上海ヨリ南京ヘ転電アリタシ

支、上海、哈爾賓ヘ転電セリ

243

昭和4年7月12日　在奉天林総領事より幣原外務大臣宛（電報）

中国側エムシャーノフ管理局長ほかロシア人幹部を罷免し中東鉄道の実権回収について

奉　天　7月12日後発

本　省　7月12日後着

第四〇九号

上海ヘ転電アリ度シ

哈爾賓発外務大臣宛電報第一七九号

往電第一七八号ニ関シ

支那側ハ引続キ本十一日東支鉄道管理局ニ手ヲ下シ督弁呂榮寰ノ名ヲ以テ宣言書ヲ発シ支那側ハ従来北平及奉露両協定ニ準拠シ管理局長権限其ノ他ニ関シ「ソ」聯側ト折衝是努メタルモ「ソ」聯側ハ何等誠意ヲ示スコトナク各懸案ハ今尚解決スルニ至ラス斯ノ如キハ当方ノ忍フ能ハサルニ最近「ソ」聯側ノ不信ハ実ニ其ノ極ニ達シ過般「ソ」聯総領事館ニ於ケル会合ノ如キハ東支従業員タル多数ノ共産党宣伝員ノ参加セルヲ発見セル等「ソ」聯側ハ両国協定ヲ侵犯

セルノミナラス国家ノ安寧ヲ紊スモノナリトス依テ職責上国権ヲ擁護シ鉄道ノ利益ヲ防衛セムカ為政府命令ノ下ニ必要ナル手段ヲ講スルノ已ムナキニ至レリ云々ト述フルト共ニ管理局長「エムシャノーフ」ヲ罷免シ臨時副管理局長范其光ヲ更ニ局長代理ニ命シ尚同局内ニ於テハ副管理局長「エイスイモンド」ノ外商業、会計、営業、運輸等重要ナル局課ノ露西亜人課長ヲ免職シ支那人ヲ以テ之ニ代ヘ殊ニ会計課ハ全ク之ヲ支那側ノ手ニ収メタリ支那側東支従業員三百三十名餘ヲ罷免シ明日中位ニ国外ニ放逐スルコトトナリ居ル趣ナリ労農総領事ハ本十一日支那側ノ措置ニ対シ厳重ナル抗議ヲナセル趣ナルモ内容判明セス

前電通転電及暗送セリ

244

昭和4年7月14日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛（電報）

中国の中東鉄道回収に対しソ連期限付要求ノートを交付について

モスクワ　7月14日後発

本　省　7月16日前着

第三二一号

十四日諸新聞ハ当国政府ハ支那ノ東支鉄道乗取事件ニ関シ十三日夜在当地支那代理大使ニ対シ長文ノ「ノート」ヲ交附シタル旨発表セリ右「ノート」ハ今回ノ鉄道乗取事件ノ顚末ノ外支那側カ国境ニ軍隊ヲ配備シタル情報アルコトヲ記述シタル後上記事実ハ両国間ノ現行条約ニ反セルモノナリトテ該鉄道ノ組織管理並ニ鉄道ニ関スル争議調停支那ノ鉄道買収権ニ関スル北京及奉露協定ノ当該条文ヲ引用且説明シテ右条約違反ニ対シ奉天及南京政府ニ厳重ナル抗議ヲ提議スルト共ニ其ノ注意ヲ喚起スル旨ヲ述ヘ更ニ当国ノ支那ニ対スル従来ノ具体的交渉ニ言及シ同国カ他国ニ先ンシテ不平等条約ヲ廃棄シ各種ノ特権ヲ抛棄シテ友好的態度ヲ示シ居ルニ鑑ミ該鉄道ノ管理「ソ」側職員ノ行為乃至前記諸協定ノ有効期間若クハ鉄道買収期限ノ短縮ニ付支那側ニ於テ何等要求アラハ合法的ニ之ヲ申出ツヘキモノナリ「ソ」側ハ本年二月二日附「ノート」ヲ以テ奉天政府ニ対シ鉄橋ノ管理其ノ他ニ関スル懸案解決ニ付商議開始方提議セルニ拘ラス支那側ハ何等回答ヲ与ヘス又七月十二日右商議ニ付交通委員部参与会員「セレブリヤコフ」ヲ派遣スル

ノ用意アルコトヲ通知シテ電照シタルモ何等回答ナシ以上ハ懸案解決ニ対スル支那側努力カ無駄ナリトスル督辦ノ言辞ヲ裏切ルモノナリ支那側カ「ソ」側ノ友好的態度ヲ以テ当国ノ国是ニ出ツルヨリモ寧ロ国力衰退ニ出ツルモノト解シ暴虐手段ヲ加フルモノナラン仍テ「ソ」側ハ如何ナル圧迫ニ対シテモ国民ノ合法的権利ヲ擁護スルニ足ルヘキ実力ヲ有スルモノナルコトヲ支那官憲ニ知ラシムル必要有リト思考ス然レトモ「ソ」側ハ平和政策ヲ愛スル餘リ今一度鉄道ニ関スル諸懸案ニ付商議スルノ用意アルコトヲ表明ス尤モ右商議開始不法行為ノ停止ヲ条件シ以テ「ソ」側ハ左ノ提議ヲナス

一、鉄道ニ関スル懸案解決ノ為直ニ商議ヲ開始スルコト

二、支那官憲ハ鉄道ニ関シ不法行為ヲ停止スルコト

三、支那官憲ハ拘禁中ノ「ソ」聯邦人民ヲ釈放シ該人民及「ソ」側ノ公ノ機関ニ対シ迫害ヲ加ヘサルコト「ソ」側ハ支那側カ右提議拒絶ノ為招来スヘキ重大結果ヲ考慮センコトヲ求ムルト共ニ右ニ対スル回答ニ付三日間ノ期限ヲ附シ且満足的回答ニ接セサル場合ハ「ソ」聯邦ノ合法的権利擁護ノ為他ノ手段ヲ採ルノ已ムヲ得サルヘキコトヲ豫告スト結ヘリ

哈爾賓ニ転電

245　昭和4年7月(18)日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛（電報）

中東鉄道問題に関しソ連の忍耐にも限度があるとのカラハンの談話について

モスクワ　発

本　省　7月18日前着

第三二四号

貴電第二四五号ニ関シ

十六日「カラハン」ニ会見支那カ「ソ」聯邦ノ提議ヲ拒絶スルカ又ハ期限内ニ回答セサル場合ノ決意ヲ確メル為談シタル処「カ」ノ陳述要点左ノ如シ

回答期限ノ点ニ付テ当地支那大使館ヨリノ発電遅延ノ事情ヲ顧慮シ十七日夜迄待ツコトトセリ夫レ迄ニハ尚一日半ノ餘裕アリ事態進展アルヘク種々ノ材料モ集ルヘキニ付尚最後ノ決意ヲ確定スルニ至リ難シ併シ「ソ」政府ハ飽迄平和的ニ解決シ極東地方ニ何等ノ紛糾ヲ生セサラレシメンコト

ヲ念トス之カ為支那ニ送リタル今回ノ公文中ニ列挙セル条件モ成ル可ク先方ノ応諾シ易キ様ニ斟酌セルモノニシテ普通此ノ種ノ要求ニ必ス伴フヘキ責任者ノ処罰又ハ損害ノ賠償等ニ言及シ居ラス尤モ茲ニ率直ニ述ヘタキハ東部西比利亜駐屯軍隊ノ一部ヲ満洲里及「ボグラニーチヤナ」ニ集中スル命令ヲ発シタルコトナリ這ハ支那側カ露支国境ニ軍隊ヲ増派セル事実ニ鑑ミ全ク自衛豫防ノ手段ヲ採リタルニ過キスシテ何等直接行動ニ出ツルノ意思アルニ非ス只我忍耐力ニ限度アリ従来一再ナラス支那ノ暴挙ヲ寛容セルモ此ノ上支那ノ態度如何ニ依リテハ我方トシテモ大イニ考慮セサルヲ得ス尚従来支那政府ハ「セレブリヤコフ」ノ旅券査証ヲ与ヘサリシモ本日査証スヘキ旨申入アルモ本件未決ノ今日「セ」ヲ無論出発セシメス

「カ」ノ口吻ヨリ察スルニ只管支那カ提議ニ応センコトヲ期待シ仮令応セサル場合ト雖直ニ武力ニ訴フルカ如キ決心ナク更ニ手ヲ変ヘ交渉ノ端緒ヲ得ントスルニ非サルカト思ハル元来当国ノ現状ヨリシテ外国ノ領土ニ兵力ヲ割クハ一体ニ甚タ困難ナルノミナラス支那領土殊ニ満洲ニ対シテハ諸般ノ影響上容易ニ手ヲ下シ難シト認ム

尚貴電御下命ノ新聞電報真偽ニ付テハ往電第三二一号ニテ御承知アリタク又貴電末尾ノ点ニ付テハ全国重要都市ニ於テ会合決議行列等運動連リニ行ハレ居ルモ右ハ例ノ通官憲ノ指シ金ニ依ルモノニシテ民衆ハ今回ノ事件ニ多少ノ憤懣ヲ感シ居ルナラムモ数千哩ノ遠方ノ事ニシテ而モ自国領土ニ関係ナキ事ナルヲ以テ左シタル熱情ヲ興シ居ルモノト認メ難シ現ニ当市ニ於テ大行列アリタルモ之ニ加ハラサル路傍ノ一般市民ハ格別ノ感興ヲ表ハシ居ラス

編注　「支那今回ノ措置ニ関シ」との書込みあり。

246　昭和4年7月18日　在米国出淵大使より幣原外務大臣宛（電報）

米国国務長官が不戦条約の効力発生と関連して中ソ紛争に憂慮表明について

ワシントン　7月18日後発

本　省　7月18日後着

第二六〇号

七月十八日求メニ依リ国務長官ヲ往訪シタル処長官ハ先ツ

東支鉄道ニ関スル露支関係ニ言及シ米国出先官憲ヨリハ何等ノ報道ニ接セサルモ昨今ノ新聞電報ニ依レハ両国ノ関係著シク緊張シ居ルモノノ如シ米国政府トシテハ来ル二十四日不戦条約効力発生ニ際シ「セレモニー」ヲ行ハント計画シ居ル矢先万一露支両国間ニ衝突起ルカ如キコトトモナラハ真ニ工合悪シキ次第ト考ヘ居リ問題自体カ元来法律事項タルニ鑑ミ速ニ互譲妥協平和的解決ヲ見ルニ至ラムコトヲ切望シ居ル次第ナルカ本件ニ関シ何等カ報道ニ接シ居ルヤト語リタルニ付本使ヨリ最近二三電報ニ接シ居ルモ（貴電合第四〇九号十七日接到）右ニ依レハ事態ハ左迄急迫シ居ルモノトモ見ヘス日本政府トシテハ満洲ニ於テ重大ナル利害関係ヲ有スル立場上固ヨリ時局ノ推移ヲ注意シ居ルコト信スルモ果シテ如何ナル措置ニ出テムトスルヤ未タ何等通報ニ接シ居ラスト答ヘ米国政府ニ於テ何等カ措置ヲ採ラムトスル意嚮ナリヤト反問シタル処長官ハ未タ出先官憲ヨリ的確ナル報道ニ接シ居ラサルコト只今申上ケタル通ニシテ従テ何等一定ノ考アル次第ニ非ス唯新聞紙ノ報道ニ依リ事態相当重大ナリト認メ不取敢貴国並英仏両国ト所見ヲ交換スル方然ルヘシト認メタル次第ナリト語リタルニ付本使ヨリ長官御心配ノ次第ハ早速本国政府ニ電報シ事件其ノ後ノ経過並之ニ対スル帝国政府ノ意嚮ヲ問合セ追テ何分ノ儀申述フヘシト告ケ置キタリ何分ノ儀御回電ヲ請フ

英ニ転電シ、英ヨリ仏、露ニ転電セシム

247　昭和4年7月18日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛（電報）

ソ連が中国に国交断絶を通告について

モスクワ　7月18日後発
本　省　7月21日前着

第三三〇号

十八日外務部発表ニ依レハ同部ハ十七日夏支那代理大使ヨリ別電内容国民政府回答ヲ受領セルヲ以テ之ニ対シ同日夜同代理大使ニ対シ左記要領ノ断交通告ヲ発セリト

蘇政府ハ支那国民政府ノ回答ヲ以テ内容不満足ロ調鉄面皮的ト認ム蘇政府ハ蘇支両国ノ相互関係ヲ合理的基礎ニ復旧セムトシ十三日附公文ヲ以テ最少限度ノ極メテ穏和ナル抗議ヲ為セルニ拘ラス支那政府ハ事実ニ於テ前記提議ヲ拒否セリ支那政府ハ其ノ官憲カ敢テセル蘇支協定ノ一方的廃棄

ヲ是認シ両国ノ平常関係ヲ不可能ナラシメ蘇人民蘇機関ニ対スル不法ノ圧迫ヲ是認シ之ヲ以テ蘇側カ支那人ニ対シ圧迫ヲ加ヘタル為ナリト弁解セムトス支那政府ハ総テノ繋争事項調整ノ為ニスル会議ヲ回避ス支那政府カ同国官憲ノ敢テセル不法行為ノ理由トシテ引用セル宣伝ハ虚偽且鉄面皮的ナリ支那政府ニシテ真ニ其ノ領土ニ於テ宣伝ヲ防遏セントセハ東支ヲ掠奪シ又ハ蘇支間ニ現存スル条約関係ヲ断絶セストモ之ヲ行ヒ得ルニ非スヤ真意ハ新聞紙ニ公表セラレタル蔣介石ノ声明ニ見テ益々明瞭ナリ（トテ東支ヲ自己ノ手ニ収メントスル吾人ノ措置ハ何等意外トスルニ足ラス吾人ハ先ツ東支ヲ自己ノ手ニ収メ然ル後其ノ他ノ審議ニ移ラントスルモノナリトノ国民党中央委員会ニ於ケル蔣ノ対蘇関係演説ヲ引用セリ）茲ニ於テ蘇政府ハ東支ニ関スル繋争事項及紛争ヲ協議ノ方法ニ依リ解決スル為必要ナル総ユル方法尽キタルモノト認メ左記ノ措置ニ出ツルノ已ムナキニ至レリ而シテ右措置ノ齎ス結果ニ対スル全責任ハ支那政府ニ在リ

一、支那ニ駐在スル総テノ蘇聯邦外交領事通商代表ヲ引揚クル事

二、蘇政府ノ任命セル総テノ東支役員ヲ支那ヨリ引揚クル事

三、蘇支両国間ノ総ユル鉄道連絡ヲ絶ツ事

四、在蘇聯邦支那外交領事代表ニ対シ即時引揚ヲ求ムル事

尚蘇政府ハ一九二四年ノ北京及奉天協定ヨリ生スル総テノ権利ヲ留保スル事ヲ声明ス

哈爾賓ニ転電セリ

248　昭和4年7月19日　幣原外務大臣トロヤノフスキーソ連大使　会談

幣原外相が中ソ紛争の平和的解決に積極的意向表明について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣在本邦「ソヴィエト」聯邦大使会談要録

昭和四年七月十九日在本邦「ソ」聯邦大使幣原大臣ヲ来訪シ今般「ソヴィエト」聯邦ハ支那トノ関係ヲ断絶シタルカ「ソ」聯邦ハ今日迄支那屢次ノ「プロヴォケーション」ニ

対シ隠忍ニ隠忍ヲ重ネ力メテ控目ノ態度ヲ持シ来リタル処支那ハ之ヲ以テ却テ「ソ」聯邦ノ弱味ト為シ暴戻ノ態度ニ出テ其間何等問題ヲ解決スル誠意ナキモノト認メラレタルヲ以テ支那ト外交関係ヲ持続スルハ全ク無用ナルヲ知リ茲ニ已ムナク断交スルニ至リタル次第ナルカ右ハ必スシモ「ソ」聯邦カ直ニ戦争ニ訴ヘントスルモノナルコトヲ意味スルモノニハアラザル旨述ヘタリ

依テ大臣ハ今後支那側ニ於テ武力ヲ用ヒサル場合ニ於テハ「ソ」聯邦側ハ黙シテ我慢スル考ナリヤト問ヒタル処大使ハ支那ハ白系露人ト共ニ国境ヲ侵犯シ居ルモノノ如ク現ニ白系露人大佐ハ「ボグラニーチナヤ」国境ヲ侵シ七名ノ白系露人ト共ニ死セリトノ報アリ「ソ」聯邦ハ支那側ノ斯ノ如キ不法行為ニ対シ備フルノ必要アルヘク旁々戦争ノ意ハナキモ支那側ノ態度ニ依リテハ戦争ノ可能性絶無ニハアラストノ旨ヲ答ヘタリ

次ニ大臣ハ「ソ」聯邦ノ対支「ノート」ノ要求事項中最重要点ハ露支交渉ノ即開ニ在リタルヤニ考フル処果シテ然リトセハ支那ハ其ノ回答ニ於テ之ヲ受諾シ居レルニ拘ラス「ソ」聯邦ニ於テ交渉ヲ開始セントセス却テ支那ニ対シ断交シタルハ如何ナル訳ナリヤト質シタル処大使ハ支那ハ交渉ノ即開ニ同意シタルニ非ス唯駐露代理大使朱紹陽ヲシテ其ノ帰任ノ途次実地ノ状況ヲ調査セシメタル上帰任後「ソ」聯邦当局ト論議セシムヘキ旨通告シタルニ過キス我方ノ要求スル所ハ不法行為ニ対スル原状（Status quo ante）ノ回復ニ在リ支那カ事実ノ調査ニ名ヲ藉リテ交渉ヲ遷延スルハ露国ノ忍ヒ難キ所ナリト答ヘタリ

大臣ハ「ソ」聯邦カ支那ニ要求セルハ不法行為ノ停止ナリヤ又ハ取消ナリヤ若シ取消ナリトセハ支那側ノ行動ノ不当ナルコトヲ断定スルモノニシテ陳謝、賠償等ノ問題ヲ生スヘク停止トハ異ナリ重大ナル性質ヲ有スヘシト指摘シ且「ソ」聯邦ノ対支「ノート」ハ何語ニテ書カレタルモノナリヤト問ヒタルニ大使ハ「ソ」聯邦ノ求ムル所ハ不法行為ノ取消ニアリト答ヘ尚右「ノート」ハ露西亜語ヲ以テ之ヲ記載シ支那語訳文ヲ添附シアルカ別ニ英訳文モアルニ付御送付致スヘシト答ヘタリ

依テ大臣ハ貴大使ハ貴国ノ政策ハ支那ノ不法行為ニ対スル原状ノ回復ニ在リト謂ハルル処右政策実行ノ為兵力ヲ使用スルニ於テ之ト不戦条約トノ関係ハ如何ニ調和セラルヘキヤト問ヒタル処大使ハ支那側ハ兵力ヲ使用シテ多数露国人ヲ拘禁又ハ追放シ侵略的行動ニ出テタル次第ニシテ之ニ対シ「ソ」聯邦カ権利ヲ擁護スル為ニ執ル行動ハ防禦戦争タルヘク従テ不戦条約ニ抵触スルモノニ非スト述ヘタリ大臣ハ右ニ対シ支那側ノ露国人ヲ拘禁シ又ハ追放スルコトハ戦争行為ニ非ス従テ報復セムカ為「ソ」聯邦カ直ニ兵力ヲ使用スルコトハ如何ニシテ不戦条約ノ条項ト両立スルヤ疑問ト思ハレタルニ付貴見ヲ尋ネタル次第ナリト述ヘ置キタリ

次テ大使ハ「ソ」聯邦ノ東支鉄道ニ対スル関係ハ日本ノ満鉄ニ対スル関係ト同様ナリトノ所見ヲ述ヘタルニ付大臣ハ露支奉露両協定ニ依リ東支鉄道ニ於ケル露支ノ地位ハ対等ナルモ支那ハ満鉄ニ付テハ何等ノ権利ヲ有セス且帝国ハ満鉄ノ警備権ヲ有スルヲ以テ支那側カ同鉄道ヲ回収セムトセハ勢ヒ日本ノ軍隊ヲ駆逐スル為先ツ軍事行動ヲ採ルノ外ナカルヘク之ニ対スル帝国ノ自衛的措置ハ明ニ不戦条約ニ違反スルモノニ非スト説明セル処大使ハ之ヲ首肯セリ

茲ニ於テ大臣ハ日本ハ東洋ノ平和維持ニ深キ利害ヲ感スルモノニシテ露支両国間ノ紛争カ両国間ニ平和的解決ヲ見ムコトヲ切望セサルヲ得ス固ヨリ問題ノ内容ニ立入リ何等ノ批評ヲ加フルノ地位ニ在ラスト雖若シ私見ヲ附加スルヲ許サルルニ於テハ「ソ」聯邦側カ此上共隠忍自重シテ本紛争ノ和平解決ニ努力スルニ於テハ世界ノ輿論ノ前ニ於ケル同

（欄外記入）

聯邦ノ地位鞏固トナルトモ弱クハナラサルヘシ兎ニ角今回ノ断交ハ露支両国今後ノ交渉ノ橋ヲ切断スルモノニシテ本件解決上極メテ不幸ナリ右ハ英露復交ノ為両国ガ第三国ノ斡旋ヲ必要トシ居ルニ徴スルモ明ナリト述ヘタル処大使ハ之ヲ首肯シ英露ハ目下諾威ヲ介シテ復交交渉中ナルカ日本ニ於テ諾威同様ノ役ヲ務メラルルノ意ナキヤト問ヘリ

依テ大臣ハ右ハ重大問題ナルヲ以テ之ニ対シ即答シ兼ヌルモ帝国ハ平和ノ為ノ「サーヴィス」ハ之ヲ辞スルモノニ非スト答ヘ今日事態ハ極メテ切迫シ居ルモ露支両国ニ於テ尚平和的解決ノ途ヲ講セラレムコトヲ切望スル旨述ヘタルニ対シ大使ハ露国側ニ於テモ之ヲ希望スルモノナリト応答セリ

尚大使ハ別ニ臨ミ「セレブリアコフ」氏ハ目下「イルクーツク」ニ在ル旨内話シタルニ付大臣ハ同氏ハ嘗テ来朝シ本大臣モ同氏ヲ存シ居ルガ彼ハ諾否明確ニシテ信頼シ得ル良キ人物ナリト述ヘタル処大使ハ之ヲ感謝シ辞去セリ

（欄外記入）
尚大臣ハ「メルニコフ」ハ尚未満洲ヲ去ラサルモノノ如ク又莫斯科ニハ支那代理大使尚滞留シ居ル様ナルカ此等ヲ通シ開談（会カ）ノ餘地ナキヤト問ハレタル処大使ハ支那代理大使ハ若輩ニテ事ヲ談スルニ足ラスト述ヘタルニ付大臣ハ若シ支那カ「メ」ニ何等申入ヲ為スニ於テハ「ソ」聯邦ハ之ヲ取上クヘキヤト問ハレタル処大使ハ私見トシテ之ヲ拒絶スルコトナカルヘシト答ヘタリ

249　昭和4年7月19日　幣原外務大臣　汪（栄宝）中国公使　会談

幣原外相中ソ紛争解決に仲介的役割を辞さずと言明について

露支紛争ニ関スル幣原大臣在本邦支那公使会談要録

昭和四年七月十九日午後七時頃在本邦支那公使幣原大臣ヲ来訪シ本国政府ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ過般在哈爾賓「ソ」聯邦総領事館捜査ノ結果「ソ」聯邦カ東支鉄道ヲ赤化宣伝機関ニ利用シ居リタル事実明確ニシテ動カスヘカラサル証拠ヲ得タル処右「ソ」聯邦ノ行為ハ支那ノ国家組織ヲ破壊セムトスルモノニシテ支那トシテ黙過シ難キ所ナリ又「ソ」聯邦側ハ露支及奉露両協定ヲ誠実ニ実行スルノ意ナク支那側屢次ノ正当ナル要求ニ対シテモ徒ラニ遷延ヲ重ネ何等誠意ノ見ルヘキモノナシ此両事実ニ鑑ミ支那ハ已ムヲ得ス今回ノ挙ニ出テタル次第ナルカ「ソ」聯邦側ハ突如国交断絶ヲ以テ之ニ酬ヒタリ支那ノ行動ハ国家組織ノ破壊ニ対スル防衛ニシテ譲歩スルヲ得サル所ナルカ然リトテ戦争ノ意思ハ毛頭無ク事件ノ和平的解決ヲ希望スル次第ニシテ若シ「ソ」聯邦側ニ於テ挑戦スルコトアラハ其ノ責彼ニ在リテ我ニ在ラス本国政府ノ訓令ニ依リ以上ノ事実ヲ貴国政府ニ通報シ右ニ対スル貴大臣ノ御意見ヲ承リ度シト述ヘタリ

依テ大臣ハ問題ノ内容ニ立入リテ何等意見ヲ述フルノ地位ニ在ラサルモ事実ヲ明ニスル為二三ノ点ニ付伺ヒ置度シ先ニ貴公使ハ「ソ」聯邦側ノ赤化宣伝ニ付動カスヘカラサル証拠ヲ握ラレタル様謂ハレタル処之ニ付莫斯科政府ト交渉セラレタル事実アリヤ莫斯科政府ニ於テ右交渉ニ応セス又ハ不誠意ノ態度アリタル結果支那カ今回ノ断乎タル処置ニ

出テタルナラハ支那側ノ行動容易ニ輿論ノ了解スル所トナルヘキモ突然今回ノ行動ニ出テタルニ於テハ輿論ノ承服ヲ得ルコト困難ナルヘシ

尤モ右ハ本大臣ノ意見ヲ述ヘタル次第ニハアラス只事実ヲ明ニスル為伺ヒタル迄ナリト述ヘラレタル処公使ハ適確ニ承知セサルモ支那政府トシテハ恐ラク右様ノ交渉ヲ為シタルモノト承知スル旨答ヘタリ

次テ大臣ハ実ハ先刻「ソ」聯邦大使来訪ノ際同大使ニモ質問シタル所ナルカ支那カ武力ヲ以テ露人ヲ追出スコトト不戦条約トノ関係ハ如何ニ調和セラルヘキヤ此ノ点問題ナルヘシ尚又「ソ」聯邦ノ対支断交ハ両国交渉ノ最後ノ橋ヲ切断シタル訳ナルカ斯クナリタル今日ニ於テハ支那カ如何ニ問題ノ平和的解決ヲ希望スルトスルモ英露両国カ復交ノ為諸威ヲ通シテ交渉ヲ進メ居ル如ク第三国ヲ介シテ交渉ヲ試ムル外露支両国間ニ直接意思交換ノ途無キカト思ハルト述（欄外記入）ヘラレタル処公使ハ此際日本ニ於テ諸威同様ノ役割ヲ勤メラルルノ意ナキヤト問ヒタルニ依リ大臣ハ問題甚タ複雑ニシテ第三国ノ介入ヲ許ササルモノアルヲ以テ日本トシテ本紛争ノ内容ニ立入リ是非曲直ノ判定者トナルコトハ出来難シ唯我両友邦タル露支ノ相争フコトハ東洋平和ノ為不幸トスル所ニシテ速ニ紛争ノ平和的解決ヲ見ンコトヲ希望スルモノナリ然シナカラ露支両国交渉ノ橋渡シト為リ両国ノ意見ヲ取次ク役目ヲ為スコトハ趣旨ニ依リテハ考量スルモ可ナリト答ヘラレタル処公使ハ日本カ厳正ナル立場ニ於テ露支間ヲ斡旋セラルルヲ知リ大ニ安心セリト述ヘタルニ付大臣ハ受諾シタルニ非ス考量スルモ可ナリト謂ヘルノミナリト答ヘラレタル処公使ハ謝意ヲ表シ辞去セリ

帝国政府ハ今次東支鉄道ニ関スル露支両国ノ紛争ニツキ其ノ内容ニ立入リ当事国ノ立場ノ当否ヲ判定セムトスルノ意思無キハ勿論当初ヨリ当事国ノ自制ニ信頼シ問題カ和平的ニ解決セラルヘキヲ期待シ居リタル次第ナルカ本件最近ノ発展ヲ見ルニ不幸ニシテ和平解決ノ望少ナキニ至リタル感アルノミナラス勢ノ赴クトコロ或ハ満洲ノ治安ニ影響ヲ及ホシ惹テ極東ノ平和ヲ擾スノ因ヲ為スコト無シトセサルカ如シ

右ノ如キ事態ノ発生ハ伝統的ニ極東ノ和平ヲ念トシ満洲ノ治安ニ特殊ノ利害関係ヲ有スル帝国政府ノ極力防止セムトスルトコロニシテ紛争ヲ平和的ニ解決セムトスル諸国ノ又

正ニ感ヲ同ウスルトコロナルヘシト信ス
帝国政府ト露支両国政府カ以上ノ事態ヲ諒解シ本件ノ和平解決ノ為メニ更ニ一段ノ努力ヲ加ヘラレムコトヲ希望シテ止マス

（欄外記入）
尚大臣ハ「ソ」聯邦大使来訪ノ際若シ支那ニ於テ「メルニコフ」ニ何等申入ヲ為スニ於テハ「ソ」聯邦ハ之ヲ取上クヘキヤト問ヒタル同大使（ママ）ハ私見トシテ之ヲ取上クヘシト答ヘタルカ支那ニ於テ右様ノ意アルニ於テハ「メ」ハ近ク哈爾賓ヲ引揚クヘキニ付速ニ開談（会カ）スルコト然ルヘシト支那公使ニ告ケラレタリ

250 昭和4年7月21日 在長春永井領事より幣原外務大臣宛（電報）

関東軍側は中ソ紛争に中立と称し中国軍付属内通過並びに輸送禁止の方針であるが吉林軍軍需品の中東鉄道への輸送承認方意見具申

長春 7月21日後発
本省 7月21日後着

第二八号
二十日当地交渉員ヨリ吉林ヨリノ軍需品ハ満鉄長春駅通過寛城子駅ニ至リテ東支線ニ積ミ換エ北行シ度キニ付承諾アリタキ旨願出アリタリ然ル処支那軍隊及軍需品ノ満鉄附属地通過輸送ノ問題ニ付関東庁ニテハ目下本省ニ電照攻究中ナル趣ニテ又関東軍ニテハ参謀長ヨリ当地聯隊長ニ対シ軍ニ於テハ目下露支国交断絶ニ当リ不取敢全然中立的態度ヲ以テ成行ヲ注視シ徐ロニ策ヲ決スルヲ有利ナリトシ支那軍側カ附属地内ヲ通過移動又ハ輸送スルコトヲ許ササルコトトセリ但シ日本カ支那側ノ行動ヲ妨害シ露西亜ニ有利ナラシムル意思ニ非サルコトヲ諒解セシムルコト必要ニ付然ルヘク処理アリタキ旨指示アリタル趣ノ処
露支両国ハ厳格ナル意味ニ於テ未タ交戦状態ニ入ラス従テ我国ニ中立ノ義務発生シ居ラサル今日附属地ニ於ケル支那軍隊ノ行動及軍需品ノ輸送ニ対シ突然平常ノ場合ト異リタル処置ニ出テ之ヲ禁遏スルハ如何カト懸念セラレ殊ニ当地方ノ如ク附属地及鉄道ノ一部ヲ利用シ得サルコトニ於テ支

那側ハ多大ノ不便ヲ感シ近ク行ハルヘキ南嶺残留砲兵隊ノ出動ノ如キ当地我軍側ノ観測ニ依レハ之カ為殆ント不可能ニ陥ルヘキ情勢ナル趣ナレハ此ノ際殊更支那側ニ一大苦痛弾圧ヲ加ヘ置ク必要アリトノ特殊理由ナキ限リ我国ニ中立ノ義務発生スル時機迄平常通リノ取扱ヲ続ケ差当リ右吉林軍ノ軍需品輸送ヲ承認スル方得策至当ナリト思考セラル関東庁宛御訓電ノ際ハ其ノ内容当方ヘモ電報ヲ請フ
北平、奉天、吉林ニ暗送セリ

251 昭和4年7月23日 幣原外務大臣 汪中国公使 会談

幣原外相が中ソ紛争に関し交渉の早期開催を勧告について

露支紛争ニ関スル幣原大臣在本邦汪支那公使会談
要録
昭和四年七月二十三日汪支那公使幣原大臣ヲ来訪本国政府ノ訓令ニ依リ伝達スルモノナルコトヲ前置シ別紙（省略）ノ如キ国民政府宣言（電報ヲ翻訳セルモノニシテ多少精確ヲ缺ク個所アルヤモ知レストノコト）ヲ手交シ且本国政府電報中前回会見ノ際ノ大臣ノ所言ニ関シ大臣ノ忠言ハ国民政府ノ至当トスル所ニシテ（公使ハ「至当」トハ極メテ適切ノ意味ナリト説明セリ）国民政府ハ右忠言ニ依リ和平解決ニ努力スルコトトナリタルニ付其ノ趣ヲ大臣ニ告ケ謝意ヲ伝達スヘキ旨附言シアリタリト述ヘタルニ付
大臣ハ右宣言ハ熟読セサル故内容ヲ詳カニセサルモ其ノ中ニ「ソ」聯政府ヲ難詰スル如キ激烈ナル文句無キヤト尋ネラレタル処
公使ハ多少之無キニアラスト答ヘタルヲ以テ
大臣ハ然ラハ個人トシテ友人タル汪氏ニ一言スヘシト前置シ若シ支那カ激烈ナル文句ヲ以テ「ソ」聯政府ヲ難詰スル如キコトトナラハ「ソ」聯政府亦必スヤ更ニ激烈ナル文書ヲ以テ応酬スヘク斯クノ如クンハ和平解決ニハ遠サカルノミナリト述ヘラレタルニ
公使ハ同感ノ意ヲ表シテ本宣言ハ発表ヲ見合スヘキヤト述ヘタルヲ以テ
大臣ハ新聞電報ニ依ルニ既ニ南京ニ於テハ之カ発表ヲ見タル模様ナルカ果シテ然ラハ当地ニ於テ之カ発表ヲ見合スモ

結局ハ外部ニ知レ渡ルコト故無意味ナルヘク要ハ若シ支那政府ニシテ真ニ和平解決ヲ希望セラルルナラハ将来不必要ニ「ソヴイエト」聯邦国民ノ感情ヲ刺戟スル如キ字句ヲ避ケラルルコト得策ト思ハルト述ヘラレタルニ公使ハ全然同感ノ意ヲ表シ御意見ノ次第ハ早速国民政府ニモ申送ルヘキ旨答ヘタリ

次イテ大臣ハ「ソ」支両国共現在ノ如キ状態ヲ持続シテ互ニ宣言ノ発表ヲ事トシ荏苒時日ヲ空費スルヨリモ速カニ交渉開始ノ方向ニ進ム様努力スルヲ得策ト思考スル旨述ヘラレタルニ

公使ハ両国間交渉ノ橋渡シヲ為スコトニ関スル大臣ノ決意如何ト反問シタルヲ以テ

大臣ハ自分ノ態度ハ前回述ヘタル通ニテ激烈ナル語調ヲ含メル如キモノノ取次ハ為シ得サルモ和平解決ニ資スヘキ伝言ナラハ露支何レノ一方ヨリ託セラルルモ之ヲ他方ニ伝ヘ以テ交渉ノ橋渡シヲ為スコトハ之ヲ考量シテ差支ナシトノ意ナリ尤モ自分ハ橋渡シヲ日本ニ依頼セヨトノ趣旨ニ非ス何レノ国カ之ニ当ルモ何等差支ナキ理ニシテ要ハ一日モ速カニ開談ノ方向ニ進ムニ在リト述ヘ尚橋渡シノ意義ニ付誤解ナカランコトヲ希望セラレタル処

公使ハ支那語ニモ居間説合ナル語有リテ日本語ノ橋渡シニ相当シ何等誤解スル所ナシト述ヘタリ

尚大臣ヨリ支那ハ本問題ヲ聯盟ニ持出スヤノ新聞報アル処如何ト尋ネラレタルニ

公使ハ右ハ承知セサルモ自分ハ国民政府トシテ右様ノ措置ニ出ツヘシトハ思考セスト答ヘタル上進テ日英米仏四国ノ調停ノ報アル処如何ト尋ネタルヲ以テ

大臣ヨリ米国国務長官ト出淵大使トノ会談仏外相ノ態度等ニ付説明シ此以上四国共同シテ両国ニ臨ム如キコトハ或ハ両国ノ自負心ヲ傷クルノ虞ナキニ非サルヘク尚篤ト考量ヲ要スル旨述ヘ置カレタリ

252　昭和4年7月23日　吉田外務次官　ドブレル仏国臨時代理大使　会談

幣原外相は中ソ紛争の平和的解決を希望するが干渉の意向なき旨伝達について

露支紛争ニ関スル吉田次官在本邦仏国代理大使会談要録

昭和四年七月二十三日在本邦仏国代理大使幣原大臣ヲ来訪シタルカ大臣御差支アリタル為吉田次官ニ於テ代テ会見セラレタル処

同代理大使ハ幣原大臣ノ御話ニ拠レハ日本ハ露支両国間ノ橋渡シトナルヲ辞セストノコトナルカ若シ露支両国トモ幣原大臣折角ノ御厚意ヲ空シクスルカ如キコトアル場合ニハ列強共同シテ本紛争ニ干渉スルト謂フカ如キ具体的措置ニ付考ヘ居ラルル次第ナリヤ承リ度シト思出(ママ)テタルニ付

次官ハ幣原大臣ハ唯露支両国ヲシテ戦争ニ訴フコトナク和平的ニ本紛争ヲ解決スルコトヲ得セシメント考ヘ居ラルルノミニシテ夫以上進ンテ本紛争ニ干渉スルカ如キ考ハ有セラレサル様承知スル旨答ヘ置キタリ

253　昭和4年7月24日　幣原外務大臣　トロヤノフスキーソ連大使　会談

幣原外相が中国は面目を維持しつつ平和交渉を導きたき意向とソ連大使に談話について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣在本邦「ソヴィエト」聯邦大使会談要録

昭和四年七月二十四日在本邦「ソヴィエト」聯邦大使幣原大臣ヲ来訪シ今回「ソヴィエト」聯邦政府ガ「ブリアン」外相ノ調停申出ヲ拒絶シタル理由ヲ説明シ右ハ「ソヴィエト」聯邦トシテハ支那トノ談判再開ニ付テハ原状ノ回復ヲ先決条件トスルモノナルニ拘ラス「ブリアン」ノ提議ハ何等此ノ点ニ触ルル所ナキ為ニシテ無条件ニテ談判ヲ開始スルコトハ「ソヴィエト」聯邦ノ到底承諾スルヲ得サル所ナリト述ヘタルニ付幣原大臣ハ「ソヴィエト」聯邦ニ於テ右申出ヲ拒絶スルニ先チ何故ニ「ブリアン」ニ対シ「ソヴィエト」聯邦ノ立場ヲ説明シ「ブリアン」提議ノ趣旨ヲ確メサリシヤ自分ノ了解ニ苦シム所ナリト謂ハレタル処大使ハ其辺ノ内情ニ至リテハ報道ニ接セスト答ヘタリ

依テ幣原大臣ハ「ブリアン」ハ平和愛好ノ精神ヨリ此際戦争ヲ避クル必要ニ付「ソヴィエト」聯邦政府ノ注意ヲ喚起シタルニ止マルモノナルカ如ク自分ハ新聞ニテ「ソ」聯邦拒絶ノ報ヲ読ミタルトキ「ソヴィエト」聯邦側ニ於テ或ハ平和的解決ノ意ナキニアラサルカト意外ノ感ニ打タレタリ

ト述ヘラレタル処
大使ハ毛頭然ルコトナシト弁解セリ
次ニ幣原大臣ハ昨日支那公使来訪ノ際同公使ハ全然一場ノ私話トシテ更ニ諸威ノ英露間ニ於ケル仲介ノ事実ニ言及シ日本ニ於テ諸威ノ役割ヲ演スル意思ナキヤト問ヒタルニ依リ「ソヴィエト」聯邦側ヲ激昂セシムル如キ「メッセージ」ヲ伝フルコトハ出来サルモ平和的解決ニ貢献スル「メッセージ」ナラハ之ヲ取次ク様考慮スルモ可ナリト考フル旨答ヘ置キタルカ若シ今日支那カ何等カ申出ヲ為シ「ソヴィエト」聯邦ニ伝達方依頼シ来リタリトセバ之ヲ受理スルコトヲモ拒絶セラルル考ヘナリヤト問ハレタル処
大使ハ自分一個ノ考ニテハ多分拒絶セサルヘシ然シ原状ノ回復ハ「ソヴィエト」聯邦ノ重キヲ置ク所ナリト繰返シ述ヘタリ
依テ幣原大臣ハ然ラハ原状ノ回復トハ具体的ニハ何ヲ意味スル次第ナリヤト質問セラレタル処
大使ハ自分ノ了解スル所ニテハ「エムシャーノフ」其ノ他ノ東支鉄道「ソ」側幹部ノ解職命令ヲ取消シ東支従業員ニシテ逮捕サレ居ルモノヲ解放シ且支那カ勝手ニ取上ケ居ル東支附属工場ヲ返還スルコトヲ意味スト述ヘタリ
幣原大臣ハ自分ノ得タル報道ニ拠レハ支那ハ事態ノ重大ナルコトヲ了解スルト共ニ徐々ニ温和ノ態度ニ変リツツアリ尠クトモ支那ノ方ヨリ軍事行動ヲ起シ露領内ニ侵入スルカ如キコトナカルヘシト推測セラル支那ハ其ノ軍隊ニ対シ命令ナキ限リ決シテ発砲スヘカラストノ訓令ヲ与ヘタリトノ情報ニスラ接シ居レリ果シテ然ラハ戦争ノ可能性ハ無クナリタルモノト見テ可ナリヤト問ハレタル処
大使ハ支那ノ方ヨリ軍事的行動ニ出ツルコトナク且白系露人ヲ暗ニ使嗾シテ事ヲ起シ国境ニ進撃セシムルコトナクバ差当リ戦争ノ可能性ハ絶無トナリタルモノト考フ白系露人ハ相当ノ武器及資金ヲ有シ居リ何人カ之ヲ後援スルモノアルハ疑ヲ容レス若シ支那ニ於テ之レカ後押シヲナシ露領内ニ侵入セシムルカ如キコトアラハ「ソ」聯邦トシテモ之ニ対シ軍事行動ニ出ツルノ外ナシ又支那兵ハ規律ナキ故訓令ノ如何ニ関ラス何ヲ仕出スヤ量リ難シト答ヘタルニ付
幣原大臣ハ仮令支那兵ニシテ訓令ニ拘ラス発砲スルモノアリトスルモ右ハ規律ナキ結果ニシテ支那政府ノ命令ニ出ツル次第ニアラサルヘク比較的小問題ニ止マルヘシト述ヘラレタル処
大使ハ支那カ挑発的ノ行動ニ出テサル限リ差当リ戦争ノ可能性ハナクナリタルモ然リトテ何時迄モ現状ノ儘ニテ解決ノ遷延スルヲ待ツ訳ニハ行カスト述ヘ居リタリ
尚大使ハ新聞電報ニ依レハ米国国務長官ハ「ソ」聯邦カ原状回復ヲ談判再開ノ先決条件トスルハ当然ナリトノ旨ヲ述ヘタル趣ナルカ右ニ付何等カ報道ニ接セラレタリヤト問ヘルニ付幣原大臣ハ自分モ新聞ニテ見タルコトアリト軽ク応酬シ置カレタリ
終リニ臨ミ幣原大臣ハ支那ハ何トカシテ自己ノ面目ヲ維持シツツ和平友好的談判ヲ開キ得ル途ヲ見出サントシツツアルヤノ印象ヲ有スト述ヘラレタル処
大使ハ繰リ返シ日本政府カ平和ノ為尽ス友誼ニ感謝ノ意ヲ表シタリ

254　カラハンが仏国の中ソ紛争調停申出を拒否と言明について

昭和4年7月24日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛（電報）

モスクワ　7月24日後発
本　省　7月25日後着

第三五六号
往電第三四七号ニ関シ
在仏大使発閣下宛電報第二六一号ニ依ルモ当地仏国大使館側ヨリ聴取リタル説明ニ依ルモ仏国政府ハ何等仲介ノ意味ヲ提議シタルニ非ルカ如ク蘇政府ノ発表ト齟齬シ居ルニ依リ二十四日「カラハン」ニ会見ノ上確カメタルニ「カ」ハ「ブリアン」カ我大使ニ対スル陳述及在当地仏国大使カ自分ニ対スル陳述ニ依リ仏国政府ハ今回ノ紛争ノ平和的解決ヲ希望シ之カ為ニ露支両国間ニ仲介ノ労ヲ執リタキ旨ヲ公式ニ決議シタルニ依リ蘇政府ハ其ノ好意ヲ謝スルト共ニ之ヲ拒絶シ其ノ旨直ニ新聞ニ発表シタルモノナリト答ヘタリ
即チ仏露何レカニ誤解アルモノノ如シ
尚「カ」ハ其ノ節仏国大使ニ対シ右提議ハ支那ノ依頼ニ依ルモノナリヤヲ確カメタルニ大使ハ何等依頼ニ依ルモノニアラサルモ米国モ同様平和解決ヲ望ムナルヘシト答ヘ其ノ間何等カ細工アリシモノノ如シト述ヘタリ
更ニ本使ハ右新聞発表中ニ所謂法律上ノ基礎回復トハ如何

ナル意味ナリヤト質シタルニ「カ」ハ右ハ彼我条約ノ規定ヲ実行スルコトヲ指スモノナリト答ヘタルニ依リ然ラハ既ニ追放サレタル東支職員ヲ其ノ儘復職セシムル意味ナリヤト聞キタルニ然リト答ヘタリ

在欧米各大使ヘ転電セリ

255　昭和4年7月(25)日　在米国出淵大使より幣原外務大臣宛（電報）

米国国務長官列国代表による委員会を組織し中ソ紛争の調停にあたる案に関し日本側の意向打診について

ワシントン　発
本　省　7月25日後着

第二七四号

往電第二七〇号ニ関シ

七月二十四日不戦条約御批准書寄託ヲ了シタル後国務長官ヨリ東支鉄道問題ニ関シ其ノ後何等報道無キヤト尋ネタルニ付本使ヨリ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ露支兵カ衝突ノ事実無キノミナラス両国共ニ和平解決ノ底意ヲ有スルコト明カナリトテ貴電合第四二七号冒頭汪公使申出ノ趣旨ヲ告ケ右様ノ次第ナルニ付前回モ御話シタル通暫ク事態ノ推移ヲ注視スルコト然ルヘシト述ヘタルニ長官ハ露支兵力カ衝突ノ事実無キコトハ幸トスル処ナルモ事態ヲ此ノ儘放置シ置キ果シテ円満解決ノ運ニ至ルヘキヤ心許無ク感セラルル処自分一己ノ考ニ依レハ関係列国ノ代表者ヨリ成ル一ノ委員会ヲ組織シテ同委員会ヲシテ事実調査ノ上仲裁セシムルコト一策カト思考セラル貴大使ノ意見如何ト述ヘタルニ付本使ハ即座ニ前述ノ通支那側ニ和平解決ノ考アリ又露国側ニ於テモ支那トノ直接談判ニ依リ本件解決ヲ計ラントスル模様アル一方東支鉄道問題ノ如ク機微且複雑ナル事件ヲ捉ヘ仲裁ヲ試ムルカ如キコトハ餘程慎重ナル考慮ヲ要スル次第ニテ旁此ノ際ハ暫ク形勢ヲ監視スル方時宜ニ適スヘシト答ヘタル処長官ハ右ハ露支両国ヨリ当国ニ向テ其ノ仲裁ヲ依頼シタル節其ノ執ルヘキ態度ニ付自分当座ノ思付キヲ御話シタル迄ニテ両国間ニ直接ノ談合付カハ是ニ越シタルコト無キハ勿論ナリト述ヘ居リタリ（当日午後長官ヨリ二十五日午前重ネテ会見シ度キ旨申越シタリ）

英ニ転電シ、英ヲシテ仏、露ニ転電セシメ、又独、白、伊

及聯盟事務局ヘハ往電第二六〇号ト共ニ英ヨリ転電セシム

256　昭和4年7月25日　在中国堀内臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

中ソ国交断絶後の両国利益保護は独国が当る旨在中国独公使談話について

北　平　7月25日後発
本　省　7月26日前着

第八一五号

往電[1]第八一三号ニ関シ

二十三日独逸公使ヲ往訪露支問題ニ付会談シタルカ其ノ要領左ノ通

㈠同公使ハ当地露国総領事ハ支那地方官憲ヨリ旅券ノ査証ヲ与ヘラレ出国ニ差支ナキコトトナリタルニ付今明日中ニ当地ヲ引揚クル筈ナルカ同公使ハ支那側ノ了解ヲ得テ露国人通訳官一名ヲ残シ同公使ヲ助ケシムル事トセリ又他地方ノ露国領事館等モ数日中ニハ皆引揚ヲ終ルコトトナルヘシ其ノ上ハ独逸側ニテ在支露国人保護ノ責任ヲ完全ニ引受クル事トナル次第ナリ一方露国国内ニ於ケル支那国民ノ利益保護方ニ付テハ本国政府ヨリノ電報最近延着勝ニテ未タ公電ニ接セサルモ非公式ニハ同様独逸ニ於テ引受ケタル由ノ報道ニ接シ居レリト語レリ

㈡本官ヨリ今回ノ東支問題ニ関シテハ露支両国トモ戦意ナキモノト思考スルカ貴見如何ト尋ネタルニ同公使ハ自分モ同様ノ見方ヲ為シ居レリ露国側ハ此ノ際兵ヲ以テ東支鉄道ヲ奪回スルコト必スシモ不可能ニ非サルヘキモ仮ニ奪回スルモ支那側カ従来ノ遣口ヲ以テ徒ニ此ノ儘事態ヲ遷延セシムルニ於テハ露国ハ永ク占領状態ヲ継続シ難ク結局却テ窮地ニ陥ルコトトナルヘキカ故ニ斯ル措置ニ出ツルコトハナカルヘシト思考ス

サ[2]リトテ両国トモ目下ノ如ク互ニ自説ヲ固持シ双方トモ代表者ヲ引揚ケ居ル情勢ニアリテハ相互ノ面目上ヨリスルモ第三国ノ介入ヲ待ツニ非サレハ平和的解決ヲ為ス事難カルヘシト述ヘタルニ付本官ハ例ヘハ独逸ノ如キハ両国間ノ調停ニ立ツ事ヲ欲セサルヘキヤト問ヒタルニ同公使ハ独逸ハ露支両国内ニ於ケル夫々ノ利益ノ保護ヲ引受ケタル関係モアリ又有効ナル調停ヲ為スカ為ニハ露支両国ニ対シ威望ヲ有スル第三国ニ非サレハ成功シ難カルヘシト述フルト共ニ

同公使ハ国際聯盟ニ於テハ本件ニ付何等発動ヲ為ス模様無キヤト尋ネタルニ付本官ハ斯ル報道ニ接セサルモ何分聯盟ニハ露国加入シ居ラサルカ故ニ此ノ種事件ノ処理上困難アルヘシト思ハルト答ヘタル処同公使ハ結局ハ不戦条約ノ関係ニ於テアル第三国（例ヘハ米国）カ之ニ当ル事最モ適当ナルヤニ思考スト語レリ㈢尚同公使ハ「ブリアン」ノ露支両国ニ対スル勧告ハ華府ニ於テ国務長官ト仏国大使トノ話合ニ基クモノト思考セラレ此ノ点ハ米国公使モ同様観測シ居レル旨語リ居リタリ

尚「スピルワネツキ」ハ二十三日午後四時天津ニ向ケ当地ヲ出発シ「スレパツキ」ハ当地「ダリバンク」ニ転居セリ

上海、南京、奉天、哈爾賓、吉林ヘ転電セリ

257　昭和4年7月25日　在米国出淵大使より幣原外務大臣宛（電報）

米国国務長官が各国代表を召集し列国による和協委員会の中ソ紛争解決斡旋を提議について

別電一　七月二十六日着在米国出淵大使より幣原外務大臣宛第二八三号

中ソ両国の同意のもとで組織する和協委員会による事態の平和的解決に関し列国の意向打診について

二　七月二十六日着在米国出淵大使より幣原外務大臣宛第二八四号

中ソの承認する中立国人のもとでの中東鉄道運輸回復案について

ワシントン　7月25日後発
本　省　7月26日後着

第二八二号（至急）

往電第二七四号ニ関シ

国務長官ハ二十五日本使及英、仏、伊、独各代表者ノ列席ヲ求メ東支鉄道問題ニ付テハ過日来腹蔵ナキ意見ノ交換ヲ行ヒタルカ各位ノ代表セラルル政府ハ露支ニ対シ適当ノ措置ヲ執ラレタルコトハ自分ノ深ク感謝スル処ナリ然ルニ時局ニシテ幾分緩和ノ模様アルモ何分両国国交断絶シ居ル関係上如何ニシテ問題ノ収マリヲ付クヘキヤ甚タ心許ナク感セラルルニ付篤ト考究ヲ遂ケタル結果自分ハ曩ニ「ボリビヤ」「パラグアイ」国境争議ニ関スル南米諸国ノ執リタル

措置ニ倣ヒ関係列国側ヨリ露支ニ対シ Commission of Conciliation ニ依リ本問題ノ解決ヲ計ルコトヲ勧告シタシト考フル次第ナリ右ニ付テハ口頭ヲ以テ御話スル積リナリシモ御参考ノ為ト存シ「エード、メモアール」ニ認メタルカ右「エード、メモアール」末尾ノ如キハ二十四日東京発A、P、通信ヲ見テ大急キニテ書キ加ヘタル様ノ次第ニ付堅苦シキ覚書ニアラサルコト特ニ御諒解願ヒタシト断リ別電第二八三号ヲ朗読シ次テ別電第二八四号委員会案ヲ朗読セリ右終ルヤ仏国大使ハ長官ノ御意見ハ至極結構トハ存スルモ之迄関係列国カ露支側ニ対シ執リタル措置ハ相当ノ効果アリタルモノト認メラレ現ニ今朝接受セル在南京仏国公使ノ電報ニ依レハ支那ハ多少態度ヲ緩和シ来リ露国ト直接話合ヲ為サムトスルヤノ模様ナリト述ヘ暗ニ今少シク形勢ノ推移ヲ観ルコト適当ナラスヤトノ意ヲ諷スルモノナルカ如ク認メラレタリ次ニ本使ヨリ長官ノ御話ハ早速本国政府ニ伝達スヘキカ自分当座ノ思付ヲ申上クレハ露支方面ヨリノ最近ノ電報ヲ綜合スルニ両国共直接談判ニ依リ事件ノ解決ヲ計リタキ考相当ニ切ナルモノアルカ如ク一方長官御示シノ案ハ案其ノモノノ趣旨ハ結構ナルヤモ知レサルモ御承知ノ通露支何レモ一種特殊ノ国柄ナルニ顧ミ果シテ右様ノ案実行可能ナルヤ自分トシテハ多少ノ懸念ナキ能ハス兎ニ角両国折角直接話合ノ意図ヲ示シ居リ又事実ノ真偽ハ知リ難キモ満洲ニ於テ露支官憲会談セリトノ新聞電報モアル位ナルニ付旁此ノ際暫ク形勢ヲ監視スルコト適当ナルヘシト思考スト述ヘタル処長官ハ我々カ話合ヲ為シ居ル間ニ両国カ直接談判ニ依リ事件解決ノ端緒ヲ見出ス運トナラハ固ヨリ之ニ越シタルコトナク兎ニ角本件貴国政府ヘ御伝達ノ上何分ノ御返事ヲ得ハ幸ナリト述ヘタリ

最後ニ英国大使ハ本案ハ至極結構ト存スル処万一新聞紙等ニ洩ルルニ於テハ甚タ面白カラサル結果ヲ生スル虞アルニ付右厳秘ニ附スルコト適当ナルヘシト述ヘタルニ長官始メ一同之ニ同感ノ意ヲ表シ尚英国大使カ本件ニ付テハ自然関係列国相互間ニモ意見ノ交換ヲ為スコトトナルヘシトロ走リタルニ長官ハ夫レニテハ餘リニ時日ヲ要スヘシ兎ニ角至急各国政府ノ返事ヲ得タシト述ヘタリ

別電ト共ニ英ニ転電シ、英ヲシテ仏、伊、白、独、露及聯盟事務局ニ転電セシム

（別電Ⅰ）

発　ワシントン

7月26日後着　本　省

第一八三号（至急）

Washington,

Rec'd., July 26th, p. m. 1929.

Gaimudaijin, Tokio.

No. 283 (Urgent)

(1) Aide mémoire

A week ago when the issues which had arisen in Manchuria between China and Russia were causing anxiety throughout the world, I took the liberty of pointing out, through you to your governments, the immeasurable harm which would be done to the cause of world peace should a clash between those great nations occur at the very moment when the nations of the world were assembling to celebrate a solemn covenant between themselves never to resort to war but to settle all disputes by pacific means. I suggested that inasmuch as both Russia and China had signed this covenant, it could not be inappropriate to bring to their attention on the seriousness of this situation and to urge upon them that they find some way of settling their disputes by pacific means. The response of your governments has been most cordial and unanimous. Friendly representations have been made to both China and Russia and each of these nations have averred that it did not intend to resort to War. Unfortunately, the situation between them still remains difficult and gives rise to much apprehension in respect to an ultimate peaceful solution of their controversy. Diplomatic relations having been severed, the normal bridge by which they might approach each other for that purpose no longer exists. Popular feelings of intensity upon each side have been excited and an ill-considered act of even a subordinate commander upon either side of the boundary might easily precipitate a situation brought with serious consequences to the entire world. Under these circumstances, if a road with honor out of their difficulties can be suggested to the sister nations who have joined with us in this solemn compact of peace and who have just signified their desire to maintain it, even in the perplexities which confront them at the present time, it seems that it should be done.

(2) I do not suggest meditation by any nation or group of nations. Such a course would have its difficulties and might excite unfounded suspicion. I suggest a way by which Russia and China themselves in the exercise of their own sovereign action may create the machinery for conciliation and thus bring about an ultimate settlement of their present dispute, based upon the only foundation upon which such a lasting settlement can constructed, namely, a full and impartial investigation of the facts. It is not a new suggestion. Even today two of our sister nation of South America are in that way working out their own solution of a serious controversy into which they drifted nearly two years ago. In their case this method of solution was suggested to them by a conference of American nations meeting under the auspices of the Pan-American Union.

I have, therefore, taken the liberty of putting into writing a suggestion of such a step for Russia and China. I should be glad if you would refer it to your Governments. If, after carefully considering it and suggesting any criticisms, they will join with my Government in suggesting it to China and Russia as a possible way in which they may start on the road to settlement by themselves of their own difficulties, I should be most happy.

The press despatches this morning have reported a meeting between consular representatives of China and Russia which it is hoped may possibly lead to a resumption of diplomatic relations between them. I hope sincerely that these reports may prove to be correct. But until such a solution is more definitely hopeful, I venture to present these suggestions for your consideration,

since I am sure that the nations which you represent, all earnestly desirous of peace, will wish to be prepared to take any helpful initiative should this prove necessary in the maintenance of peace between China and Russia.

Debuchi.

（別電二）

ワシントン　発
本　省　7月26日後着

第二八四号（至急）

Washington,
Rec'd, July 26th p. m. 1929.

Gaimudaijin, Tokio.
No. 284 (Betsuden Daini) Urgent.

Suggestion for a commission of conciliation.

Pending the investigation mentioned below both countries agree to commit no act of hostility against the other country or its nationals and to prevent their armed forces from crossing the boundaries of their respective countries.

Pending such investigation the regular operation of the Chinese Eastern Railway will be restored and carried and the interests of both Russia and China in said Railway being guarded by the appointment as President and General manager with full powers, of a prominent national of some neutral country approved by both China and Russia, and by the recognition and continuance in their respective positions as directors under the agreement of May 31, 1924 of the five Russian and the five Chinese appointees.

Pending such investigation the obligations upon both China and Russia of the Treaty of 1924, including particularly the obligation of the mutual convenants contained in said treaty--"not to permit within their respective territories, the existence and/or or activities of any organization or groups whose aim is to struggle by acts of violence against the governments of either contracting party" and "not to engage in propaganda directed

against the political and social systems of either contracting party" will continue in full force and effect.

The grievances and claims of both countries shall be investigated by an impartial commission of conciliation the membership of which shall be agreed upon by Russia and China and which shall have full power to investigate all the facts concerning such grievances and claims and to render to both countries and make public its conclusions both as to the facts and as to any suggested remedies for the future.

Debuchi.

258　昭和4年7月26日　幣原外務大臣より在中国堀内臨時代理公使宛（電報）

我国の中東鉄道に関する権利について

本　省　7月26日後7時35分発

第二四六号

貴電第七九七号ニ関シ

東支及西比利亜両鉄道ノ共同管理開始ニ伴ヒ聯合諸国ハ右両鉄道ニ対シ相当ナル財政上ノ援助ヲ与フルノ必要ヲ認メ最初二千万弗ヲ日英米仏伊五ケ国ニテ均等分担支出セントシタルモ仏伊両国ノ反対及英国ノ躊躇ニ依リ成立ヲ見サリシ為日米両国ニテ各百万弗ヲ支出シ（支那モ五十万弗ヲ支出ス）タルガ其後米国ハ更ニ三百万弗ヲ支出シタルヲ以テ我国モ亦更ニ三百万弗ヲ支出セリ即チ結局ニ於テ我国カ鉄道援助資金トシテ支出シタル額ハ約八百九十万円（数字ハ多少変ルコトアルヘシ）ナリ尤モ右金額ハ両鉄道ニ対スルモノニシテ其内東支ニ対スル部分ノミヲ区別スルコト困難ナリ其他満鉄ノ売掛代金（八十万円）及朝鮮正金両銀行ノ貸付金（二十万円）アリ

（欄外記入）

東支ニ関スル我国ノ権利トシテハ右金銭債権ノ外一例ヲ挙クレハ東支満鉄接続ニ関スル権利ノ如キモノアリ尤モ帝国政府ハ従来東支ニ関スル権利ノ留保ニ際シテハ個別的且具体的ニ権益ノ内容ヲ表示スルコトナク一般的概括的ニ之ヲ留保スルノ態度ヲ持シ来リタル次第ナルニ付此点特ニ含ミ置カレ度シ尚今回ノ露支紛争ニ関スル帝国ノ態度ニ付テハ本大臣発在南京領事宛電報合第四二四号及合第四二五号並在上海総領事代理宛第四一一号及合第四二七号ニ依リ承知

セラレ度
奉天哈爾賓吉林上海南京ヘ転電アリ度シ
（欄外記入）
本金額大蔵省及陸軍省ニ付確カメ済
大蔵省賀屋事務官　陸軍省原田少佐

259　昭和4年7月(28)日　在米国出淵大使より幣原外務大臣宛（電報）

中ソ紛争解決斡旋に関する米国提案には深入せざるをよしとする意見具申

ワシントン　発
本　省　7月28日　着

第二九二号*

露支紛争解決ニ関スル米国新提案ニ対シ他(何カ)等御参考迄ニ左ニ卑見開陳ス

一、今回ノ露支紛争ニ付テハ我利害関係就中満洲ニ於ケル我地位ニ及ホス事アルヘキ影響ニ顧ミ之カ処理ヲ為スニ当リ極メテ慎重ナル考慮ヲ払フノ必要アル事今更申ス迄モナキ処ナルカ差当リノ措置トシテ問題ノ審査乃至解決ノ為第三者ノ介入ヲ防キ以テ事態ノ紛糾ヲ避クルト共ニ又若シ露支両国ヨリ我方ニ依頼アリトスルモ将来南満洲鉄道問題ニ及ホスヘキ影響ニモ顧ミ此ノ際我ニ於テ具体的調停等餘リ深入リセサル事適当ナルヘク列国ト協調ヲ保チツツ所謂橋渡シノ提度(程カ)ヲ越エサル方法ニ依リ直接交渉促進ノ機会ヲ作ル事最時宜ニ適スト存ス閣下カ過日来在本邦露支代表者ヲ指導セラレツツアル御趣旨モ畢竟之ニ外ナラサルヘシト拝察シ本使ニ於テモ其ノ意味合ニテ国務長官及仏支代表者ト応酬セル事屢次貴聞ニ達シ置キタル通ナリ而シテ露支直接交渉ノ結果東支鉄道ニ対スル両国ノ勢力関係如何様ニ動揺スルトモ其ノ我国ニ及ホスヘキ影響ハ第三国ノ介入ニ依リ当然起ルヘキ紛糾ニ比シ蓋シ同日ノ論ニ非サルヘシ

二、今次ノ米国ノ措置ハ先般ノ和平勧告ト云ヒ又最近ノ提案ト云ヒ其ノ動機ハ不戦条約ヲ擁護スルト共ニ世界平和ノ主動者ヲ以テ任セントスルニ存スルモノナルカ如ク往年ノ「ノックス」提訴等ノ如キ底意ヲ有スル複雑性ハ無之モノト本使ニ於テハ観察シ居レリ

三、我方対米回答ノ骨子ハ米国新提案ノ精神ニ対シ差支ナキ程度ノ讃辞ヲ述ヘタル上露支両国共ニ直接交渉ヲ希望シ且差当リ事態悪化ノ模様ナキニ顧ミ暫ク形勢ヲ注視スルニ止ムル方然ルヘキ旨申入ルルコトトシ尚前記米国民ノ自尊心ヲ傷付ケサル形式ニ依リ出来得ル限リ「アンフロック」ニ其ノ提案ヲ葬リ去ル様力ムルコト最時宜ニ適スヘシ但シ今後更ニ時局ノ険悪ヲ加フル等万一右案ノ実行困難ナル事態発生ノ場合ニハ六国ノ名ニ於テ露支両国ニ対シ和平解決就中速ニ鉄道運行ノ弁法ヲ講シ国際交通ヲ阻害セサル様努力スヘキコトヲ勧告スル程度ノ列国共同措置ハ之ヲ考慮スルノ餘地アルヘシト思考ス

260　昭和4年7月30日　幣原外務大臣より在米国出淵大使宛（電報）

中ソ紛争に関する米国国務長官提案に対する我方態度表明について

別　電　七月三十日発幣原外務大臣より在米国出淵大使宛第二九七号
中ソ紛争に関する米提案の実現性に疑義表明について

本　省　7月30日後7時30分発

第二九六号（至急）

貴電第二八二号及至第二八四号ニ関シ

貴官ハ至急米国国務長官ニ会見シ同長官提案ニ対スル帝国政府ノ回答トシテ別電第二九七号ヲ朗読セラレ度ク必要アラハ「エイド・メモアール」ニ認メ同長官ニ提出セラレ差支ナシ尚口頭ヲ以テ我方ノ有スル情報ニ拠レハ米国提案ヲ受諾セサルヘシト思ハルルモノハ主トシテ「ソヴイエト」聯邦側ナルカ同聯邦ニモセヨ支那ニモセヨ該提案ヲ拒絶スルニ於テハ関係列国ノ威信損セラルルニ至ルヘキヲ虞ルル旨補足的ニ説明シ置カレ度シ

別電ト共ニ英ニ転電シ英ヲシテ仏伊白独露及聯盟事務局ヘ転電セシメラレ度シ

（別　電）

本　省　7月30日発

第二九七号（至急）

The Japanese Government highly appreciate the

suggestion made by the Secretary of State with a view to bringing about an amicable solution of the pending controversy between China and the Soviet Union. They are sincerely willing to co-operate with the United States and other interested Powers in any move that may lead to the desired end. It only remains for them to consider whether the suggested plan of a Commission of Conciliation may be reasonably expected to secure acceptance by the two parties in dispute.

All official and unofficial reports which have been reaching Tokyo from various sources tend to strengthen the impression that both China and the Soviet Union are anxious to compose their differences relating to the Chinese Eastern Railway by direct negotiations between themselves. If the Japanese Government are correctly informed, neither side is likely to welcome any initiative of a third Power or of a group of the third Powers, — still less any participation by the Governments or nationals of such Powers, — in the settlement of the present difficulty. It is particularly apprehended that the plan under which a national of a third Power is to be appointed, however temporarily, as President and General Manager of the Chinese Eastern Railway, or to take part in the machinery for conciliation, will be resented both in China and in the Soviet Union.

Should the plan in question be rejected by either or both of the two contending parties, the Powers will find themselves in a peculiarly embarrassing position. It is presumed that none of the Powers has any intention of exercising material and effective pressure upon the unwilling parties to force acceptance of the plan. The Japanese Government, while deeply impressed with the fair and disintersted motives of the suggestion made by the Secretary of State, are unable to dismiss from their mind the possibility of unfavourable reaction which the proposed measure of the Powers may produce in China and in the Soviet Union. In this situation, they desire to be informed whether the reports in the possession of the American Government are of such a nature as to set at rest the apprehension now entertained by the Japanese Government, and what further action the Secretary of State has in contemplation, in the event of the plan under review being rejected by either or both of the two parties.

The Japanese Government, most directly interested in the preservation of peace in the Far East, have been watching with profound anxiety the development of the issues between China and the Soviet Union. Fortunately recent reports to hand are more reassuring, and the actual situation does not seem to call for any immediate action on the part of the Powers.

261　昭和4年7月30日　在英国松平（恒雄）大使宛（電報）　弊原外務大臣より

米国提案等に対する我が方態度を英国大使に談話について

本省　7月30日発

第二九七号（至急）

往[1]電第二九六号ニ関シ

三十日国務長官ニ面会シ御訓令ヲ執行スルト共ニ先方ノ希望ニ依リ貴電第二九七号写ヲ手交シタル処長官ハ日本政府ニ於テ淡白且友好的態度ヲ以テ斯ク鄭重ナル回答ヲ寄セラ

第二八三号

二十九日在本邦英国大使本大臣ヲ来訪シ露支紛争ニ関スル米国国務長官ノ提案ニ付英国政府ニ於テ回答スルニ先チ帝国政府ノ意見ヲ承至（知ル）致シ度ク来訪セル旨述ベタルニ付在米大使宛電報第二九六号ノ趣旨ヲ告ケタル処同大使ハ同感ノ意ヲ表シ右ノ趣直ニ本国政府ニ電報スベキ旨述ベタリ

米仏伊白独露及聯盟事務局長ヘ転電アリ度シ

262　昭和4年7月30日　在米国出淵大使より弊原外務大臣宛（電報）

米国国務長官は日本の静観方針を了承し同国の関心は不戦条約擁護にあると談話について

ワシントン　7月30日後発

本省　7月31日後着

レタルコトハ自分ノ深ク感謝スル処ナリ右ノ次第幣原外務大臣ニ伝達方特ニ御依頼スト挨拶シ次テ日本側回答ニ対シテハ茲ニ口頭ヲ以テ御答スルコトトスヘシトテ左記要旨ヲ述ヘタリ

㈠自分モ日本側御見込ノ如ク露支間ノ直接交渉ニ依リ本問題円満解決ノ運トナルナラハ之ニ越シタルコトナシトノ意見ニテ右ハ自分ヨリ既ニ貴大使ニ御話シタルノミナラス二十四日手交ノ「エードメモアール」末段ニ露支両国官憲ノ会見ニ関スル新聞電報ノコトヲ態々附加ヘタルニ依リテモ御諒察ニ難カラサル儀ト存ス

㈡又貴大使ヨリ累次御話ノ如ク事態ノ推移ヲ監視スルコトハ自分ニ於テモ全然同感ニシテ幸ヒ其ノ後支那ノ態度次第ニ緩和シ来レルハ好都合ト考ヘ居ルモ一方露国側カ又復強硬トナリツツアルカ如キ感アルハ甚タ心外ナリ要スルニ自分ノ憂慮スル処ハ事態ヲ此ノ儘放置シ置キ問題解決ノ運ニ至ラサル際ノコトニシテ先日ノ提案ハ右ノ場合列国側トシテ為スヘキ一ノ考案ヲ関係国ノ御参考旁文書ニ認メ其ノ意見ヲ問ハムトシタル迄ナリ此ノ際形勢ノ如何ニ拘ラス之ヲ行ハムトノ趣旨ニハアラス

㈢提案第二節中「プレジデント」及「ゼネラル、マネージアー」トシテ第三国人選任ノコトヲ記載セルハ米国側ヨリ人ヲ推ス意思又ハ列国相談ノ上之ヲ推薦セムトスルニアラスシテ露支合意ノ上ニテ適任者ヲ選ハシメムトノ意味合ニ外ナラス此ノ点特ニ御諒解ヲ願ヒタシ

尚[2]貴電第二九七号後段ノ趣旨ニ依リ貴方ニ於テ露支側カ心好ク米国提案ニ応スヘシト認メラルル何等情報ニ接シ居ラルル次第ナリヤ又露支側カ之ヲ応諾セサル場合ノ措置如何ト問ヒタル処長官ハ苦笑シ乍ラ謂渋リ居リタルニ付本使ハ軽ク応酬シ置キタリ

前記会談中長官ハ米国側ノ本問題ニ付関心スル処不戦条約ノ擁護ニ外ナラサルコトヲ屢々繰返シ尚米国トシテ此ノ機会ヲ利用シ何等カ利益ヲ計ラムトスルカ如キ考ハ毛頭モ無之其ノ庶幾スル処ハ一ニ平和ノ維持ニ存スル次第ナリト述ヘタルニ付本使ハ米国側ノ真意ハ貴長官トノ累次ノ会談ニ依リ自分ノ充分ニ承知シ居レル処ニシテ此ノ点日本政府ニ於テモ何等誤解ナシト切言シ置キタリ次テ本使ハ御訓令ノ次第ヲ敷衍スル趣旨ヲ以テ長春ニ於テ張作相「メリニコフ」会見ニテハ餘リ立入リタル話ナカリシ模様ナルモ最近

入手セル情報ニ依レハ三十一日満洲里ニ於テ露支代表者ノ会見行ハルル事トナリ「メリニコフ」ハ態々「チタ」ヨリ引返シ参会スヘシトノコトナリトテ貴電合第四四三号ノ次第ヲ告ケ重ネテ事態監視ノ時宜ニ適スコトヲ述ヘタル後此ノ際米国トシテハ如何ナル態度ヲ執ル御考ナリヤ又米国提案ニ対シ他ノ関係国側ヨリ回答ニ接セラレタリヤト問ヒタルニ長官ハ未タ何レヨリモ返事ナシ只「ブリアン」ヨリ個人トシテノ意見ヲ表示シ来レルカ仏国ハ目下組閣ノ途中ニモアリ確定的ノ態度ヲ表示スル訳ニハ行カサルヘシト認メラル旁右「ブリアン」ノ私見ヲ御披露スルコトハ差控フル方可然ト思考ス兎ニ角米国政府トシテハ日本側御申出ノ次第ニモ顧ミ暫ク形勢ヲ見送ルコトト致スヘシト述ヘタリ依テ本使ヨリ今後万一形勢再ヒ悪化スルカ如キ場合米国側トシテ執ルヘキ措置ニ付テハ改メテ本使ニ御話アル儀ト心得居リ可然哉ト問ヒタルニ長官ハ必ス御相談致スヘシト答ヘタリ

英ニ転電シ英ヲシテ仏、伊、白、独、露及聯盟ニ転電セシム

263　昭和4年7月31日　在奉天林総領事より幣原外務大臣宛(電報)

東三省側は中ソ紛争に際し日本の野心を警戒の模様なる旨報告

奉　天　7月31日後発
本　省　7月31日後着

第四七三号

当[1]地ニ於ケル支那要人連トノ会談及情報等ヲ綜合スルニ今回ノ東支鉄道回収ハ元ヨリ豫テノ計画ニ従ヒ熟慮断行セルモノニシテ東三省ニ於テ計画シ国民政府ノ賛同ヲ得タルモノナル事疑無ク只七月十一日以来ノ事件ノ発展カ多少豫想外ノ度ニ進ミ之カ為海外ニ於ケル輿論亦支那側ニ不利トナリシ為支那側諸機関ニ於テハ之等海外ノ輿論緩和ノ必要ヲ認メ支那側ニ於テハ何時タリトモ露西亜代表ト商議ヲ開ク用意アルコトヲ示スニ汲々タルモノアリ張作相ト「メリニコフ」トノ会見哈爾賓交渉員蔡運升ノ活動、朱紹陽ノ来満等皆其ノ目的ニ副ヘルモノノ如シ然レトモ彼等ノ内心ニ於テハ元ヨリ蘇聯政府ニ於テ国境ヲ越ヘテ戦争ヲ開始スルノ用意ト決意無キ事ヲ見縊リ居リ万一国境内ニ侵入シ攻撃ヲ

開始スルニ於テハ支那側ハ出来得ル丈消極的態度ニ出テ不戦条約ヲ盾ニ執リ一斉ニ宣伝戦ヲ開始スルト同時ニ白露人ヲ使用シ後方攪乱等ヲ行ハントスルモノノ如シ

只[2]大体ノ形勢トシテハ此ノ儘睨ミ合ノ状態ヲ継続スル中ニ蘇聯側ハ現在ノ断交状態ヲ継続スルカ為蒙ル経済的不利ヲ忍ヒ得サルニ至リ支那側トテモ素ヨリ東支鉄道ト露西亜側鉄道トノ聯絡ヲ極メテ必要トスルカ為或ハ先ツ最初ニ局部的ニ鉄道聯絡ヲ開始スルコトトナリ更ニ徐ニ東支鉄道ノ根本解決ニ関スル折衝トナルコトアルヘク若シ斯ノ如ク事態カ進行スルニ於テハ是素ヨリ支那側ノ豫期セル処ニシテ其ノ外交的勝利ト見ルヲ得ヘキモ支那側内部関係ニ於テハ本問題ノ発生ヲ機トシテ国民政府ハ出来得ル丈其ノ勢力ヲ東三省ニ伸ヘント試ミ之ニ反シテ東三省側ハ極力之ヲ防クニ腐心スヘシ今春来幾度カ伝ヘラレタル処ノ東三省外交ノ国民政府移管問題ハ奉天側ニ於テハ素ヨリ表面上之ニ反対シ居ラス外国側ニ対シテモ必要ノ場合ニ之ヲ遁口上トシテ利用スルコトヲ常ニ忘レサルヘキモ東三省ハ飽ク迄東三省ノ実際上ノ独立ヲ保存シ行クコトニ努ムル為表面南京政府ノ外交的活動ヲ見ツツアル間ニ

裏面[3]ニ於テハ出来得ル丈東三省ニ於テ地方的ニ本問題ヲ片附ケムト欲スルモノノ如ク尚本件発生以来支那側ハ東三省ニ対スル日本ノ態度ニ甚大ノ注意ヲ払ヒ露支葛藤ノ機ニ乗シ日本ヲシテ何等漁夫ノ利ヲ占メシムルコトナカラシメムト腐心シ居ルコトハ要人連ノ本邦人ニ対スル態度ニ明カニ現ハレ居リ特ニ当初日本側ヨリ出テタル通信カ頻リニ開戦ヲ報シ針小棒大的通信ヲナセルハ皆為ニスル処アリテナシタルモノノ如ク解釈シ当地方漢字新聞ハ挙ツテ此ノ点ニ関シ日本ノ恐ルヘキ野心ニ注意セヨト叫ヒ我カ政府ノ方針ハ最近ニ至リテ一部要人間ニハ漸次諒解セラルルニ至リタルモ尚一般ハ我国ヲ以テ虎視眈々トシテ野心ヲ包蔵スルモノトシテ疑ヒ居レリ右東支鉄道問題ニ関スル差当リテノ感想何等御参考迄電報ス

（上海ヨリ南京ヘ転電アリタシ）

北平、哈爾賓、上海ヘ転電セリ

264　昭和4年8月(5)日　在中国堀内臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

在中国仏公使の中東鉄道現状維持に関する日

英米仏四国共同申入れ提議について

北京　発
本省　8月5日後着

第八八八号（至急極秘）

五日仏国公使ハ本官ニ対シ御通知ノ通東支鉄道ニ関スル協定成立直前仏国ハ一九二四年五月七日附ヲ以テ支那政府ニ対シ華府会議決議第一三ノ趣旨ヲ引用シ支那政府ハ東支鉄道ニ関スル他国ノ利益ニ関スル「トラステイー」トシテノ責任ヲ有スル次第ナルコトヲ告ケテ注意ヲ喚起スルト共ニ関係国ハ同鉄道ノ現状維持ニ利害ヲ有スル次第ナルコトヲ申入レ英米両国亦当時右ノ趣旨ニテ申入ヲ為シタルコトアリシカ（当館記録ニハ英国側ノ本件申入ノ事実見当ラス）

今回仏国政府ハ日英米仏四国ニ於テ此ノ際支那側ニ対シ再ヒ右ト同趣旨ノ申入ヲ為シ度キ意向ナリトテ自分ニ対シ関係国公使ト協議スヘキ旨ヲ申越シ来リタルカ右ニ対スル日本側ノ意向ヲ承知シ度シト述ヘタルニ付本官ハ露支協定成立後日本単独ニテ同鉄道ニ対スル日本側ノ権益留保ヲ露支両国ニ申入レタルコトハ承知スルモ此ノ際四国協同ニテ右様ノ処置ヲ執ルヘキヤ否ヤニ付テハ未タ日本政府ノ意見ヲ承知シ居ラサルニ付早速請訓スルコトトスヘシト答ヘ尚右ニ付テハ英米公使トハ貴公使ヨリ既ニ話合アリタリヤト尋ネタルニ「マルテル」ハ実ハ唯今右電訓ヲ接受シタル計リニテ本官ニ対シテ始メテ御話スル次第ナリト答ヘタリ

就テハ右ニ対スル御意見至急御回電アリタシ

上海、南京、奉天、哈爾賓ニ転電セリ

265　昭和4年8月7日　幣原外務大臣より在中国堀内臨時代理公使宛（電報）

仏国提案の中東鉄道に関する共同申入れ不同意について

本省　8月7日後6時15分発

第二六〇号（極秘）

貴電第八八八号ニ関シ

仏国今回ノ申出ハ一ニ東支鉄道ニ対スル関係国ノ権益ヲ擁護セントスル趣旨ニ出ツルモノト思料セラルル処露支協定カ前記権益ニ及ホスヘキ影響ニ関シテハ当時既ニ関係国ヨリ支那又ハ「ソ」聯邦ニ対シ夫々申入レ置キタル次第アリ従テ露支両国ニ於テ紛争ヲ平和的ニ解決スル為メ折角努力

中ナル今日仏国提案ノ如ク関係国ニ於テ協同申入ヲ為スコトハ露支両国ヲシテ列国ニ於テ何等カ圧迫ヲ加ヘントスルモノナルヤノ感ヲ懐カシメ事態ヲ紛糾セシムルノ虞アルヘシ就テハ暫ク事件ノ推移ヲ注視シ今後事態ガ関係国ニ於テ其ノ権益ノ擁護ニ関シ此種ノ措置ヲ執ルノ必要ヲ感セシムルニ至ラハ其ノ際適当ナル対策ニ付協議スルコト然ルヘシト思考ス貴官ハ右ノ趣旨ヲ以テ仏国公使ニ対シ可然応酬セラレタシ

上海、南京、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

266 昭和4年8月7日 在中国堀内臨時代理公使より幣原外務大臣宛(電報)

中東鉄道紛争につき日本は中ソ直接交渉による解決を希望する旨公表すると共に米国提案よりも仏国提案に考慮を払うべき旨上申について

北平 8月7日前発
本省 8月7日前着

第八九二号(至急、極秘)
往電第八八八号ニ関シ[1]

一、東支問題ハ言フ迄モ無ク満洲ニ於ケル我権益ニ重大ナル関係ヲ有スルカ故ニ之カ解決如何ノ南満ニ及ホス影響ヲモ慎重ニ考慮シ苟モ満洲問題ニ関シ当事国以外ノ干渉ヲ許スカ如キ事例ヲ貽ササル必要アル処元来東支問題ニ付テハ華府会議ニ於テ列国間ニ決議ヲ見タルカ日本ハ満洲ニ対シテハ事実特殊ノ利害関係ヲ有スルカ故ニ今回ノ問題ニ対シテモ列国トノ協調ニ注意スルト同時ニ我特殊ノ利益擁護ニ力ムル必要アリ

二、今回ノ問題ニ付テハ露支間ニ直接交渉ニ依リ解決ヲ計ラシムルコト我方ニ取リ最良策トスヘキカ故ニ日本ノ利害関係ヲ毀損セサル限リハ右直接解決ニ委セ然ルヘシト思ハルルモ露支交渉ノ前途ニハ幾多ノ困難横ハリ今後種々ノ曲折ヲ経ヘク其ノ間外国ニ対シ今次米国提案ノ如キ列国干渉ノ口実ヲ与フル機会ヲ造ルヤモ計ラレサル処日本トシテハ米国提案ノ如キ干渉的措置ハ努メテ排除スル必要アルヘキヲ以テ右成立ノ機会ナカラシムル為先ツ露支両国ニ対シ直接交渉ノ進捗ヲ慫慂スルヲ適当トスルト同時ニ米仏両国ニ於テ既ニ此ノ際何等カノ措置ニ出テントスル意向アルニ対シ正面ヨリ之ニ反対スルニ於テハ

協調上面白カラサル影響ヲ貽ス虞アルヘキニ顧ミ列国トノ交渉ヲ計ル意味ニ於テ大体仏国ノ提案ニ付考慮ヲ払フコト然ルヘク而シテ是一ニハ米国案ヲ排除スルノ目的ニ副フ所以ナリト思考ス

三、列国ハ華府会議決議ニ於テ支那ヲ「トラステイ」ノ地位ニ置キタルカ其ノ後露支協定成ルヤ日本ハ露支両国ニ対シ東支鉄道ニ関シ帝国政府及国民ノ保有スル権益ノ留保ヲ申入レ

又[2]米仏両国ハ露支協定直前支那ニ対シ華府決議ヲ引用シ同鉄道ノ「トラステイ」トシテノ支那ノ責任ニ対シ注意ヲ喚起シ且同鉄道ニ対スル利害関係者ノ権益ヲ保護スル為適当ノ方法ヲ講セサル限リ同鉄道ノ「ステイタス、クオ」変更ニ賛成シ得サル旨申入ヲ為シタルカ右等申入ノ半面ニハ各国ハ其ノ権益ヲ侵害セラレサル限リ露支協定ヲ認メタルモノトモ解釈セラレサルニ非ス従テ今回日本其ノ他ノ三国カ仏国提案ノ如ク支那ニ対シ再ヒ通告ヲ発スルコトモ亦一九二四年通告ノ行懸リ上ノ当然ノ措置トモ看做シ得ヘシ

四、仏国側ハ右通告ヲ発スルニ当リ共同申入方ヲ提議シ居レル処今回ハ一九二四年仏国側ノ主唱ニ依リ共同申入カ問題トナリタル当時ノ事情(大正一三年往電第三二三号後段ノ諸理由)ハ消滅シタリトハ雖現在ノ事態ニ於テモ日本ノ特殊ナル地位ニ鑑ミ寧ロ単独措置ヲ執ルコト時宜ニ適スヘク尚前回日本ノ申入ハ協定成立後ナリシモ今回ハ露支交渉中通告ノ措置ニ出ツルコト然ルヘク而シテ通告ノ内容ニ関シテハ前回ハ権益ノ留保ニ止マリタルニ今回ハ事件発生以来支那側ニ於テ兎角日本ノ態度ニ種々ノ揣摩臆測ヲ加ヘ頻リニ宣伝ヲ為シツツアル実情ナルノミナラス日本政府ハ未タ外部ニ於テ露支直接交渉ヲ希望スル旨ノ公然ノ声明ヲ為シ居ラサルコトニモアリ旁此ノ際通告中ニ於テ先ツ両当事国ノ直接交渉ニ依リ速ニ事件ノ平和的解決ニ達セムコトヲ希望スル旨ヲ述ヘタル上我権益ノ留保ヲ明記スルコトトシ同時ニ之ヲ公表スルコト然ルヘキヤニ存セラル

五、「マクマレー」ハ五日帰平シタルニ付仏国公使ハ何レ本問題ニ付「マ」トモ協議スヘク「ランプソン」亦最近帰平スルヤモ計ラレス自然関係国公使集合ノ機会モ近ク実現スヘキヤニ認メラルルニ付テハ政府ノ御意向至急御

回電アリタシ

上海、南京、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

267　昭和4年8月8日　幣原外務大臣　トロヤノフスキーソ連大使　会談

ソ連大使が米国の調停委員会提案を遺憾とし、中東鉄道管理局長の新規任命問題に対するソ連の方針表明について

露支紛争ニ関スル幣原大臣在本邦「ソヴイエト」聯邦大使会談要録

昭和四年八月八日在本邦「ソヴイエト」聯邦大使幣原大臣ヲ来訪シ近来種々ノ風説ハアルモ露、支直接交渉ハ何等進行シ居ラス「メリニコフ」カ蔡交渉員ト会談シタルハ一回ニ過キス其後張學良ヨリ「カラハン」ニ対シ電報ニテ申出ノ次第アリタルカ右電報ニ拠レハ張ハ蔡ノ言ヲ取消シ「エムシヤーノフ」ノ復職及被拘禁東支従業員ノ釈放ヲ承諾シ居ラス元来「ソ」聯邦カ露支交渉再開ノ先決条件トシテ主張スル原状回復ノ要求中「エ」ノ復職及被拘禁露人ノ解放ハ最少限度ノ要求ニシテ支那側ニ於テ之ヲ認メサル限リ露支直接交渉ナルモノハ考量ノ餘地ナシ想フニ張ハ南京政府ノ意ヲ承ケ「エ」ノ復職ヲ拒絶スルモノナルヘシ兎ニ角事態ハ寧ロ逆転シ何等進捗ノ跡ナク危険ノ状態依然存続スル次第ナリ尚「ソ」聯邦側ノ情報ニ依レハ米国国務長官ヨリ調停委員会ノ設立ヲ六箇国ニ提議シタル趣ナルカ之ハ甚タ奇怪ナルコトニシテ「ソ」聯邦国民ハ之ニ対シ甚シク激昂シ居レリ恐ラク米国国務長官ノ提案ハ南京ニ在ル米国人鉄道顧問ノ意見ニ基キタルモノト察セラルル処少クトモ米人顧問カ之ヲ承知シ居リタルコトハ確ナル事実ナリト述ヘタリ仍テ幣原大臣ハ蔡交渉員ハ「エムシヤーノフ」ノ復職ヲ云々セリトノ御話ナルカ自分ノ印象ニ依レハ支那側ハ既ニ「エ」カ赤化宣伝ヲ行ヘルコトヲ指摘シ之ヲ中外ニ声明シタル行懸リ上其ノ所謂赤化宣伝ノ張本人タル「エ」ノ復職ヲ承認スルコトハ体面ヲ重ンスル支那ノ難シトスル所ナルハ推察ニ難カラス尤モ「エ」以外ノ露人ヲ管理局長ノ地位ニ置クト謂フコトナラハ支那側ヨリ申出スル可能性アリト考ヘラルル処若シ支那側ヨリ右ノ案ヲ持出シタル場合ニハ露国側ハ如何ナル態度ヲ取ルヘキヤト尋ネラレタル処大使

ハ確タル報道ヲ有スル次第ニハアラサルモ露国政府ノ最重キヲ措ク所ハ千九百二十四年ノ協定ノ実行ニ在リテ「エ」個人ノ問題ニ非サルヲ以テ自分一個ノ考ニテハ「エ」以外ノ「ソ」聯邦人ヲ管理局長ニ任命スル案ニテモ多分異議ナカルヘシト思考スト述ヘタリ

次ニ幣原大臣ハ目下拘禁セラレ居ル露国人ハ幾人程ナルヤト問ハレタル処大使ハ約二百人ナリト答ヘタルニ依リ幣原大臣ハ更ニ露国ニ於テ支那人ヲ拘禁シタルモノアリヤト問ハレタル処大使ハ十日程前ノ報道ニ依レハ密輸入婦人ニ関スル犯罪等ノ普通犯ニ因ルモノハアラムモ東支問題ニ関聯シテ拘禁シタルモノハ一人モナシ尤モ其後「ソ」聯邦側ニ於テ或ハ報復手段トシテ若干ノ支那人ヲ拘禁シタルモノアルヤモ測ラレサルモ支那カ右露国人ヲ釈放スル以上露国ニ於テモ報復的ニ拘禁シタル支那人ヲ釈放スルコトハ勿論異議ナカルヘシト考フト述ヘタリ終リニ幣原大臣ハ貴大使ハ米国ノ提案ニ付言及セラレタルカ米ノ意中ニ如何ナル案ヲ抱蔵スルヤニ付テハ固ヨリ自分ニ於テ何等ノ意見ヲ述ヘ難キ所ナルカ日本ノ態度ハ既ニ貴大使ニ明言セル通本件ノ平和的解決ハ露支間ノ直接交渉ニ依ルコト最望マシキ筋途トハ考ヘ居ルモノニシテ之ハ支那公使ヘモ伝ヘ置キタル所ナルカ自分ノ此ノ考ハ今日モ尚変ラサル所ナリト述ヘラレタルニ大使ハ右ノ態度ハ莫斯科政府ニ於テモ充分了解シ居リ深ク深ク多トシ居ル所ナリト述ヘタリ

268　昭和4年8月8日　幣原外務大臣より在中国堀内臨時代理公使宛（電報）

中東鉄道中ソ紛争に関し暫く事態観望の方針について

本　省　8月8日後7時50分発

第二六四号（極秘）

貴電第八九二号ニ関シ

同電ハ往電第二六〇号ト行違ヒタルモノト認メラルル処当方トシテハ既ニ露支両国カ直接交渉ニ依リ本件紛争ヲ和平解決セントスルノ気運ニアル今日仏国側提案ノ如キ申入ヲ為スコトハ事態ヲ複雑ナラシムル虞アリ且ツ貴見ノ措置ニ出ツルトスルモ果シテ米国側提案ヲ排除スルノ目的ニ副ヒ得ベキヤ疑ハシト思考シ居ル次第ニ付右往電申進ノ通暫ク事態ノ推移ヲ注視スルコトトシ若シ将来事件ノ発展ニ伴ヒ

我権益ノ擁護上何等カ処置ヲ為ス必要ヲ現実ニ感知スルニ至ラハ其際改メテ適当ナル措置ニ付考量スルコト然ルヘシト思惟ス

就テハ右ノ含ミニテ貴地関係国代表者ト応酬相成度シ

上海、奉天、南京、哈爾賓ヘ転電セリ

269　昭和4年8月(8)日　在中国堀内臨時代理公使より幣原外務大臣宛(電報)

在本邦仏国公使に中東鉄道問題に関する四国共同申入れ提案不同意を回答について

北平　発

本省　8月8日後着

第九〇七号（極秘）

貴電第二六〇号ニ関シ

八日仏国公使ヲ訪問シ右貴電ノ御趣旨ヲ申入レタルニ同公使ハ日本政府ノ意ノアル処ハヨク了解セリ自分ハ或ハ斯ル趣旨ノ御回答ニ接スヘキカト想像シ居リタル次第ナリト挨拶セリ尚本官ノ問ニ対シ英米両公使ヘモ同様ノ申入レヲ為シタルカ未タ回答ニ接セス何レニシテモ英米ヨリノ回答ニ接シ且本国政府ヨリ訓令アル迄ハ自分ニ於テハ勿論何等措置ヲ執ラサル考ヘナリト述ヘ実ハ自分一己トシテハ支那側ニ対シ抗議又ハ通告等ヲ為スモ果シテ幾許ノ実際的効果アリヤ疑ハシト考ヘ居リ殊ニ仏国単独ニテ支那側ニ申入レヲ為スカ如キコトハ餘リ効果ナカルヘシト思考スト述ヘ居タリ

尚公使ハ十日ヨリ約二週間北戴河ニ避暑スヘキ旨語レリ

上海、南京、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

270　昭和4年8月9日　幣原外務大臣　汪中国公使　会談

幣原外相がソ連の中東鉄道正副管理局長任命は一九二四年協定によるものにて中国側の不承諾は理解困難と談話について

露支紛争ニ関スル幣原大臣汪支那公使会談要録

昭和四年八月九日幣原大臣汪支那公使ノ来訪ヲ求メラレ八月八日露国大使トノ会談ノ内容ヲ伝ヘ支那国政府ノ参考トシテ内話スル次第ナル旨ヲ告ケラレタル処支那公使ハ自分

ノ有スル報道ニ依レハ右露国大使ノ談話ニハ事実不精確ノ点アリ蔡交渉員ト「メリニコフ」総領事トノ間ニハ一応左ノ四項ニ付話合ヒ纏リタルモノナリ

(一)両国ヨリ商議ノ為代表者ヲ任命スルコト

(二)東支鉄道正副管理局長ニ新タニ蘇聯邦人ヲ任命スルコト

(三)東支争議ニ関スル一切ノ問題ハ第一項ノ代表者ノ会議ニ附議スルコト

(四)露支両国人ノ拘禁者ヲ互ニ釈放スルコト

仍テ此協定ヲ南京政府ニ転達シ訓令ヲ求メタル処第一項第三項及第四項ニ付テハ異議ナキモ第二項ノ正副局長任命ノ件ハ第三項ノ会議ノ結果トシテ実行スルコトトスヘキ旨回訓アリタルニ依リ其ノ趣旨ニテ露国側ニ回答シタルモノナリ即チ意見不一致ノ点ハ正副局長ノ任命ヲ会議ノ前ニスルカ後ニスルカニ在リ会議前ニ任命スルコトハ支那側トシテ体面上承諾シ難キ所ナリト弁明シタルニ付幣原大臣ハ露国側ニ於テモ原状回復ヲ交渉開始ノ先決条件トスルコトハ既ニ公然宣明シタル所ナリ若シ露国大使カ私見トシテ述ヘタル如ク今日露国側ニ於テ「エムシヤーノフ」ノ復職要求ヲ固執セス他ノ露国人カ正副局長ニ任命セラルルコトニ満足スル意嚮ナルニ拘ハラス支那カ其ノ任命問題ヲモ会議ノ結果ニ譲ルヘキコトヲ主張スルニ於テハ露国側トシテモ体面上商議開始ニ同意シ得サルコトトナルヘシ正副局長ニ蘇聯邦人ヲ任命スルコトハ一九二四年露支協定ニ明定スル所ナル以上支那側ニテ直ニ此条件ヲ認ムルコトニ躊躇スルハ如何ナル理由ニ出ツルモノナルヘキカヲ問ハレタル処支那公使ハ貴意ノ存スル所ハ良ク了解セリト答ヘタリ尚公使ハ今回支那政府ハ在米公使伍朝樞ヲシテ国務長官ニ事件ノ経緯ヲ説明セシメ同時ニ本問題ニ対シ支那政府ハ不戦条約ノ精神ヲ以テ平和ノ保持ニ努力スヘキ旨ノ宣言文ヲ認メタル通牒ヲ手交シ同条約加盟国全部ニ伝達方依頼シタルニ由リ追テ日本政府ヘモ米国政府ヨリ転達アルヘシト思考スルニ付右豫メ貴聞ニ達シ御参考ニ供スル次第ナリト申述ヘタリ

271　昭和4年8月16日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛(電報)

カラハン、スチムソン米国国務長官の提案に不快表明について

モスクワ　8月16日後発
本　省　8月17日後着

第四一五号

東支鉄道問題ニ関シ近頃当地新聞紙上ニ頻リニ哈爾賓方面ニ於ケル支那官憲ノ迫害行為並ニ露国各地ニ於ケル民衆ノ激越ナル決議等ヲ掲載シ極東司令官ノ任命及若干軍隊移動ノ風説等相待チテ何トナク不穏ノ空気アリ当地外交団中ニモ前途ヲ非観スル者鮮カラス依テ十六日本使カ「カラハン」ト会見ノ節之等ノ点ニ触レ何等カ方針ノ変化ナキヤヲ探リタルモ「カ」ノ言明ハ従来ト同様ニシテ蘇側トシテハ国境各地ニ於ケル支那側ノ侵略行為ニ対シテ充分ナル警戒ヲ加ヘ国防上万全ヲ期スルノ外何等他意ナキヲ述ヘ現下ノ沈滞セシ状態ハ甚タ不愉快ナルモ今暫ク形勢ヲ静観スルノ外ナシトスルト同時ニ局面ノ進展ノ妙案ナキニ大イニ困惑セルモノノ如シ尚其ノ際同氏ノ所言中注意スヘキ点左ノ通

一、往電第四一二号「カラハン」ノ発表ニ関シ日本人ハ自然東支鉄道ト種々ノ関係アルニ付東支奪取後ノ取引等ヲ認メサル点ヲ関係者ニ徹底セシメラレン事ヲ希望ス

一、往電第四一〇号関係ニ付テハ右在独支那公使ハ今回「リトビノフ」カ帰国ノ途次伯林ニ立寄リタル際会談ヲ求メテ拒絶セラレタリ又同公使ハ独逸外務省ニ対シ此ノ紛争ヲ如何ニセハ宜カルヘキヤニ付助言ヲ求メタル由同政府ヨリ蘇政府ニ内報アリタルモ蘇政府トシテハ今漫然独逸政府ヲ介シ接触ヲ試ミル時ハ直ニ新聞等ニ現ハレ蘇政府ハ従来ノ主張ヲ棄テ無条件ニ交渉ヲ開始シタリト思ハレ我カ立場ニ影響スヘキニ付恰モ本日在独露国大使ニ電訓シ斯ル調停アルモ一切受付ケ難キ旨ヲ明ニシ置ケリ

一、朱紹陽ハ満洲里ヨリ三度迄自分ニ電報ヲ寄セ頻リニ直接商議ヲ求メタルモ最後ノ二回ハ回答ヲモ与ヘサリシモ朱ハ自分ノ十年来ノ知人ナルヲ以テ南京政府ハ朱ナラハ「カラハン」ハ受付ケルナルヘシト考ヘタルナランモ公務ト私交トハ別物ナリ

尚「カ」ハ「スチムソン」ノ提議ニ言及シ最早之ハ終焉ヲ告ケタルモ元来南京政府カ奉天以上ニ強硬ナル態度ヲ持スルハ一方米国ノ尻押アル為ナリ即チ右「スチムソン」ノ提議及「マルテル」ノ計画ノ如キ又ハ米国資本家ノ傀儡タル孫科カ曩ニ満洲里ニ赴キタルカ如キ皆其ノ例証ナリトテ頻リニ反米熱ヲ吹込ミタルカ本使然ルヘク聞流シ置ケリ

在欧米各大使ニ転電セリ

272　昭和4年8月17日　在南京岡本領事より幣原外務大臣宛（電報）

中ソ紛争を利用して日本が吉会鉄道問題の解決を図らんとしている旨の中国外交部入手情報について

南　京　8月17日後発
本　省　8月17日後着

第八九九号

十七日周龍光ヨリ外交部ノ入手セル情報ニ依レハ㈠日本側ハ露支関係ノ紛糾セル今日ノ機会ニ乗シ吉会鉄道ヲ完成スヘク多量ノ材料ヲ元山ヨリ清津ニ鉄路輸送シツツアリ又㈡琿春地方ニハ日本人ノ外多数ノ朝鮮人在留シ居ル処今後露支関係悪化ノ場合同地方ニ露人ヲ誘キ入レ何等事端ヲ構ヘタル後居留民保護ヲ名トシテ琿春ニ出兵スル計画アリ現ニ羅南ニアル司令部ハ右出兵準備ノ命令ヲ発セル趣ナルカ右ハ日本側ヲ充分諒解シ現内閣ノ外交方針ヲ承知シ居ル自分トシテ固ヨリ軽々ニ信シ得サル処ナルモ最近此ノ種日本側ニ不利益ナル情報頻々トシテ伝ヘラルルニ付為念一応伺ヒタシト申出タリ就テハ往電第八八八号ト共ニ応酬振御回示アリタシ

支、上海、奉天ヘ転電セリ

273　昭和4年8月20日　幣原外務大臣汪中国公使　会談

幣原外相が中東鉄道紛争についての中国側の対応に疑義表明ならびに第三国の干与問題に関し談話について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣汪支那公使会談要録

昭和四年八月二十日汪支那公使幣原大臣ヲ来訪シ

一、十六日以来国境方面ニ於テ時々露軍ノ攻撃アリ露軍ハ十六日「ジヤライノール」ヲ攻撃シタルカ右ハ同地ヲ占領シ「ハイラル」、満洲里ノ連絡ヲ遮断セムトシタルモノノ如シ攻撃ハ同日午後三時半ヨリ七時半迄継続シ此間支那側ノ小隊長一名兵卒二十五名戦死シ中隊長小隊長各一名兵卒二十四名負傷シタリ露軍ハ十七日午前三時半頃

再ビ「ジヤライノール」ノ煤窯附近ノ攻撃ヲ開始シ朝迄継続セリ南京政府ハ張學良ニ対シ自衛権ノ範囲内ニ於テ沈静ノ態度ヲ持スヘキ旨ヲ電訓セリ国境ニハ六万ノ軍隊ヲ配置シタルモ右ハ専ラ自衛ノ為メニシテ支那側ニ於テ何等挑戦ノ意アル次第ニ非ス

二、露国側ニ於テハ支那側カ蔡運升、「メリニコフ」間ノ約束ヲ覆セリト謂ヒ居ルモ所謂蔡、「メ」間ノ話合四ケ条ハ「メ」カ蔡ニ対シ此ノ四ケ条ヲ張學良ヨリ「カラハン」ヘ電報スル様勧告シ右様ノ電報アラハ莫斯科政府ハ之ニ対シ好意的ニ回答スルナラントノ私見ヲ述ヘタルニ過キス之ニ対シテハ国民政府ニ於テ承認ヲ与ヘサリシモノナルカ故ニ約束ヲ破レリト謂フカ如キコトハアリ得サル所ナリ本来管理局長ニ露人ヲ任命スルコトハ支那側トシテ到底譲歩シ難キコトニ属ス本日ハ右ノ次第ヲ帝国政府ヘ通報ノ為来訪シタル次第ナリト述ヘタリ

幣原大臣ハ㈠ニ付先ツ露軍ハ砲撃シタルノミナリヤ将又国境ヲ越ヘテ侵入シタリモノナリヤト問ハレタル処汪公使ハ露軍カ侵入セムトシタルニ依リ之ヲ撃退シタルモノニシテ侵入ハセサリシモノト思ハルト答ヘタリ

幣原大臣ハ自分一己ノ考トシテ疑問トスルトコロヲ腹蔵ナク申述ヘムニ「ジヤライノール」ニ於ケルカ如キ事件繰返サルルニ於テハ列国ハ不安ノ念ヲ懐キ本紛争ノ解決ヲ露、支両国ニ放任シ置クコトヲ得スト為スニ至リ遂ニ干渉ノ気運ヲ醸成スル虞アル処支那トシテハ第三国ノ干渉ヲ歓迎スルモノナリヤ否ヤ自分ハ従来支那政府当局累次ノ声明ニ徴シ支那カ第三国ノ干渉ヲ好マサルモノト了解シ居ルモノナルカ此ノ了解ハ誤リ居ルヤ此点ニ付支那公使ノ所見ヲ承知シ度シ又㈡ニ付支那政府ハ千九百二十四年ノ露支及奉露協定ヲ失効シタルモノト認メ居ル次第ナリヤ若シ有効ナリトセハ管理局長ノ任命ハ協定中ニ規定シアルコトナレハ露人ヲ之ニ任命スルコトヲ承諾スルモ別ニ支那側ノ譲歩ト謂フ訳ニハ非ルヘシ「エムシヤーノフ」ハ宣伝ヲ行ヘリトノコトナレハ同人ノ復職ハ認メ難シトスルモ他ノ適当ノ露人ヲ局長ニ任命スルコトハ全ク協定ノ明文ヲ其儘実行スルニ過キサルヘシ然レトモ若シ支那政府ニ於テ協定ヲ無効ト見ルナラハ果シテ如何ナル理由ニ依ルモノナルヘキカ或ハ露国カ宣伝禁止条項ニ違反ノ行為アリタルカ故ニ支那ハ最早之ニ拘束セラレスト見ラルルモノナルヘキカ若シ支那側ニ於

テ此ノ理由ニ依リ協約ヲ無効トスルナラハ豫メ先ツ露国政府ニ対シ条約違反ノ事実ヲ指摘シテ抗議ヲ申入レ論議ヲ尽スコト普通ノ順序ナルヘク単ニ露国側ニ違反行為アリタリトスル一方的ノ認定ヲ以テ当然協約ノ効力ヲ否認スルハ支那側ノ意思ニ非ルヘシ又今日迄支那カ右否認ヲ宣言セルコトモナシト了解セラルル処此ノ自分ノ了解ハ当レリヤ否ヤ此点ニ付テモ本大臣一己ノ心得迄ニ支那公使ノ所見ヲ承知シ度シト述ヘラレタル処汪公使ハ国民政府ヘ問合セタル上ニテ何分ノ儀更ニ意見ヲ申述フヘシト答ヘタリ

（会談要録補足）

㈠「ジヤライノール」事件ニ関聯シ列国干渉ノ気運ヲ醸成スル虞アル旨幣原大臣ヨリ説キタル際支那公使ハ私人タル汪ト幣原トノ会話トシテ聞カレ度シト断ハリタル上一体外国ノ干渉ト云フコトハ良シカラヌ事ナルヘキカト反問シタリ仍テ幣原大臣ハ自分ハ第三国ノ干渉ニ付テ其ノ善悪ヲ言ハントセルモノニアラス唯タ体面論ヨリスルモ支那ハ第三国ノ干渉ヲ好マサルモノト了解シ居ル処若シ然カラスシテ支那カ之ヲ歓迎スルモノナラハ自分ノ了解ハ誤リ居ルモノナルカ故ニ考ヘ直スコトヲ要スヘシト述ヘラレタルニ汪公使ハ他ニ解決方法無キ場合ニハ第三国ノ干渉モ亦已ムヲ得サルニアラスヤト云ヘルニ依リ幣原大臣ヨリ夫レハ自暴自棄ノ言ナリ管理局長ノ任命ヲ商議ノ前ニスルカ後ニスルカト云フカ如キハ微々タル問題ナルヲ以テ支那政府ニシテ斯カル小事ニ拘泥セス思ヒ切ツテ事件ノ解決ヲ図ラハ之レニ成功スルコト疑ナシト信スト述ヘラレタルニ汪公使ハ之ヲ首肯セリ

㈡露支及露奉協定ノ効力問題ニ関聯シ幣原大臣ヨリ支那政府ハ本事件ニ付露支、露奉協定ヲ有効ト認ムル以上局長ノ任命問題ノ如キハ解決容易ナル筈ナリ然ルニ支那政府ハ何故本問題ニ付堅クナリ居ルモノナリヤト言ハレタルニ汪公使ハ協定ノ明文ニ反シテ宣伝ヲ行ヘルモノハ労農政府ニシテ責任ハ労農側ニ在リ既ニ労農側ニ協定違反行為アル以上協定ハ失効セルモノト考フト答ヘタルニ依リ幣原大臣ハ例之日英通商条約ノ規定ニ対シ日本側ニ於テ違反行為アリタリト仮定シ之ヲ理由トシテ英国側ニ於テ何等ノ談判ヲ行フコトナク同条約ハ当然失効シタルモノト認ムルカ如キコトアリトセハ如何支那ニ就テモ同様ナルヘシ即チ支那ノ有スル条約ニ対シ支那側ニ違反行為ア

リタリトテ相手国ニ於テ支那側ニ何等交渉スルコトナク突然其ノ条約ノ失効ヲ宣言セハ南京政府ハ恐ラク之ヲ認諾スルコト能ハサルヘシ東支問題ニ関シ尽スヘキ所ヲ尽サスシテ露支露奉協定ノ無効ヲ主張セラルトセハ列国ニ対スル支那ノ立場ハ悪ルクナルヘシ自分ハ列国ノ使臣ニ対シテモ嘗(編注)テ支那側ノ行動ヲ弁解シ来タレルモノナルカ若シ支那政府ニ於テ前述ノ如ク条約ヲ無効トスル態度ヲ執ラルルニ於テハ最早之レヲ弁解スルコト能ハサルニ至ルヘシト告ケラレタルニ汪公使ハ非常ニ感動セル模様ニテ貴大臣ノ懇情アル態度ニ衷心ヨリ感謝シ居リ何トカシテ日本ニ対スル国民政府ノ感情ヲ善クセムコトニ苦心ヲ重ネ努力ヲ費シ居ルモノナルカ南京政府ニ対シ貴大臣ノ貴意ヲ良ク了解セシムルコトハ非常ノ難事ニシテ従来貴大臣カ本使ニ語ラレタル所モ若シ其ノ儘之ヲ本国政府ニ通達スルトセハ却ツテ誤解ヲ抱カシムル虞アルヲ以テ自分ノ意見トシテ之ヲ報告シ居ル次第ナリト内話セルニ依リ幣原大臣ハ今日迄数回貴公使ト話シタル所ハ何ツレモ問題ノ内容ニ立入リ之レニ意見ヲ加フルコトヲ避ケ唯タ疑問トスル所ヲ質問スルニ止メタル次第ナルヲ以テ南京政府ニ転達セラルルモ別ニ不都合ヲ生セサルヘシト考フト述ヘラレタルニ汪公使ハ御趣旨ニ依リ質問ノ点ヲ本国政府ニ転達スルヘシト答ヘタリ

編注 「常ニ」との訂正書き込みあり。

274 昭和4年8月22日 在奉天林総領事より幣原外務大臣宛(電報)

張学良が芳澤公使に対ソ軍事行動は張が裁決し外交交渉は中央が担当と談話について

奉天 8月22日後発
本省 8月22日後着

第五一一号

芳澤公使ヨリ左ノ通

本二十二日本使張學良ニ会見ノ序ヲ以テ露支交渉ニ関スル支那側軍隊ノ移動及南軍ノ東三省応援其ノ他ニ関シ質問ヲ為シタルニ対シ學良ハ昨今既ニ当方面ヨリ二個軍団（第一軍長王樹常第二軍長胡毓坤）ヲ吉林及黒龍ニ向ケ輸送中ニテ前線ニ於ケル配置及軍事行動ニ関シテハ右両軍長ニ於テ

吉黒両省当局ト協議裁量スル事トナリ居ルト同時ニ関内南軍ノ増派ニ関シテハ南京側ノ希望アルモ現ニ東三省ニ於テ国境警備ニ使用スル軍隊ハ僅ニ全兵力ノ五分ノ一ニ過キサルノミナラス今尚関内ニハ于學忠、湯玉麟ノ指揮ニ属スル奉軍六個旅団駐屯シ居レルヲ以テ今後時局悪化シ奉天側ヨリ国民政府ニ請求ヲ為ス迄ハ南軍ハ関外ニ出動セサル事トナリ居レリ又過般来国境ニ於テ露軍屢々侵入支那軍隊ト衝突シ一昨日モ「ジャライノウル」ニ於テ六時間ニ亘リ両軍兵火ヲ交ヘ露軍退却支那側死傷一百露国側死傷一百五十ニ達セルモ正式戦争ト称スヘキ程度ノモノニ非スシテ今後共露軍カ哈爾賓方面ニ侵入シ来ルカ如キハ事実不可能ト考ヘ居レリ尚露支問題ニ関シテハ軍事行動ニ関スル限リ自分ニ於テ主トシテ裁決シ交渉ヲ中央政府ニ一任シ居レルカ目下停頓状態ニアリ

前電ノ通転電セリ

275 昭和4年8月22日 在上海重光総領事より幣原外務大臣宛(電報)

蔣介石は中東鉄道紛争への日本の介入を警戒について

上海 8月22日後発
本省 8月22日後着

第九八九号

露支紛争ニ関スル国民政府ノ態度ニ付支那当局ノ言説又ハ新聞発表等ヲ綜合スルニ左ノ如ク観測セラル御参考迄

一、国民政府ニ於テハ東支鉄道露国役員ノ赤化宣伝ヲロ実トシ同鉄道ヨリ露国ノ勢力ヲ徹底的ニ排除シ国民政府ニ於テ之ニ代ラントスルノ決意ハ非常ニ鞏固ニシテ列国ニ対シテハ一国ノ基礎ヲ危クスル赤化運動ハ当然防止ノ権利アル事ヲ根拠トシテ露国ノ孤立セル国際地位ニ乗シ支那ニ有利ナル状勢ヲ作ル事ヲ努ムルト共ニ露国側ノ内政上ノ不安及東支トノ聯絡杜絶ニ依ル「ウスリー」線並ニ浦潮地方ノ困難等ヲ豫期シ結局其ノ目的ヲ達成シ得ル事ヲ信シ居ルモノノ如シ

二、(2) 然ルニ本問題ハ蔣ニ於テ同時ニ之ヲ対内関係ニ利用シ之ニ依リ国内ノ輿論ヲ統一シ追テハ動モスレハ策動ヲ事トスル国民党左派圧迫ノ具ニ供スルト共ニ特ニ張學良等東三省当局ヲシテ進退両難ニ陥ラシメ以テ東三省ヲ完全

ニ其ノ掌中ニ収メン事ヲ企テ居ルモノノ如ク特ニ援助ヲ名トシテ兵ヲ北方ニ進メ以テ同地方ノ実権ヲ収メントシ居レルカ何レニスルモ東三省ニ対スル南方勢力ノ侵入ハ結局事実トナリテ現ルヘキヤニ観測セラル

三、前記ノ如ク蔣等ハ楽観的態度ヲ以テ時局ヲ見居リ仮令事態紛糾シ其ノ解決ニ長時日ヲ要スルトスルモ結局支那ニ有利ニ帰スヘキヲ信シ居ルカ為本問題ニ関シ列国殊ニ日本ノ介入ヲ排除セン事ニ腐心シ居リ従テ寧ロ日本ノ行動ヲ牽制シ又ハ掣肘スルノ意味ヲ以テ頻リニ臆測ヲ以テ日本ノ態度ヲ非難シ盛ニ支那人間ハ勿論外人方面ニ対シテモ北満ニ於ケル日本ノ野心又ハ露国トノ連繋等ニ付宣伝ヲ為シ居リ進テ再ヒ排日貨運動ノ再現ヲ以テ脅迫シ居ル有様ニシテ国民政府ノ企図スル処ハ先ツ北満ニ於テ其ノ目的ヲ達成シ満洲ニ於テ自己ニ有利ナル立場ヲ実現シ得ル迄ハ日本側ノ介入ヲ各種ノ手段ヲ以テ防止セント努メ居ルモノト認メラル

支、南京、奉天、哈爾賓、天津、青島、漢口、廣東ヘ転電セリ

276 汪中国公使が中東鉄道管理局長は理事会の推薦によるものにしてソ連の任命は違法との見解表明について

昭和4年8月24日　吉田外務次官 汪中国公使　会談

露支問題ニ関スル幣原外相ノ質問ニ対スル国民政府ノ回電ヲ得タリトノコトニテ八月二十四日汪公使ハ吉田次官ヲ来訪シ左ノ如ク語レリ

一、露支問題ニ関シ支那政府当局ハ第三国ノ干渉ヲ歓迎スルヤ否ヤノ問題ニ対シテ国民政府ハ平和解決ヲ希望スルヲ以テ第三国ノ干渉ト雖モ敢テ拒ム所ニ非ス然レトモ露支鉄道問題ニ関シテハ露支協定ニ規定アリテ露支両国ノ交渉ニ於テ之ヲ解決シ第三国ノ干渉ヲ許ササルコトニ明定シアルヲ以テ国民政府ハ此ノ際本件ニ対シテノ意見ヲ明示スルノ自由ヲ有セス

二、千九百二十四年ノ露支及奉露協定ヲ失効ト看做スヤ否ヤノ問題ニ付テハ国民政府ハ今尚之ヲ有効ナリト認メ居レリ然レトモ管理局長ノ任命ハ素東支鉄道理事会ノ推薦ヲ俟テ之ヲ任命スヘキモノニシテ露国政府カ今日主張スルカ如ク理事会ノ推薦ヲ俟タスシテ自ラ之ヲ任命セントスルカ如キハ協定違反ニシテ協定ヲ有効ト看做ス支那政府ノ承認スルコト能ハサル所ナリ云々

277 朱紹陽の満洲里引揚と中東鉄道交渉頓挫の事情について

昭和4年8月24日　在中国堀内臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

北平　8月24日後発
本省　8月24日後着

第九七一号

東[1]支問題露支直接交渉ハ朱紹陽ノ満洲里引揚ト共ニ一頓挫ヲ来シ爾来国境方面ニ於テ露国側ハ愈第二段ノ示威手段ニ出テツツアルカ如ク之ニ対シ奉天側ニ於テモ軍隊ノ北満集中ヲ行ヒ事態一層悪化ノ徴アル一方内政方面ニ於テ各派勢力ノ関係最近複雑ヲ加ヘ来レル模様ナルニ付当方面ヨリ見タル時局観測何等御参考迄

一、蔡「メ」間ノ豫備交渉ニ於テハ漸次露支間ノ主張相当接近シタルカ如ク報道セラレタルニ拘ラス朱紹陽ノ満洲里ニ来着スルヤ俄然両者ノ合致点ヲ見出シ難キニ至リ遂ニ朱ノ引揚トナリシハ実ハ最初東省側カ蔡ヲ代表トシテ妥協的ナル其ノ主張ヲ以テ折衝セシメ居ルニ慊ラス南京政府ハ無理押ニ朱ヲシテ強硬主張ヲ以テ之ニ臨マシムルニ至リタル結果ナルコト当時ノ経過殊ニ朱ノ北満ニ於ケル不人気等ニ顧ミ之ヲ想像シ得ヘク従テ右豫備交渉ノ経緯ハ謂ハハ奉天対南京間ノ内面的掛引ヲモ暴露セルモノト見ラルヘシ

二、今其ノ経緯ヲ見ルニ元来東省側カ東支鉄道ニ対シ執リタル措置ハ固ヨリ南京側ノ指金乃至少クトモ其ノ承認ノ下ニ行ハレタルモノナルヘキモ東[2]省側トシテハ一部ノ強硬論者ニ誘ハレ且従来ノ東支進出ノ成功ニ顧ミ極メテ容易ニ掌中ニ収メ得ラルヘシトノ豫想ノ下ニ強制管理ヲ断行シタル処露ノ出方案外強硬ナルニ狼狽シ斯テハ奉天限リニテ急速解決ヲ計ルニ如カスト為シ蔡ヲシテ「メ」ト会見セシメ一時頗ル妥協的ナリシカ他方南京側トシテハ此ノ際コソ東支ヲ完全ニ自己ノ掌中ニ収ムルト共ニ東省ノ外交権ヲ回収シ名実共ニ東省

ヲ其ノ勢力下ニ置クノ端緒ヲ開クヘキ好機ナリトシ曩ニ孫科ヲ今又何成濬ヲ派シテ東省側ニ圧迫ヲ加ヘアワヨクハ国民政府カ裁撤ニ窮シ居ル兵ヲ東省ニ入レ東省側ヲシテ強硬政策ニ出テシムルコトヲ策スル等南京側ノ東省ニ対スル圧迫ハ漸次露骨トナルト共ニ東省ノ立場ハ自然内外共ニ困難ヲ加フルニ至レルカ如シ而シテ今後万一露支間ニ相当規模ノ軍事行動始マル事トモナラハ露国側ノ鋭鋒ニ当ルヘキモノハ主トシテ東省ナルカ故ニ南京側ノ東省ニ対スル勢力ハ自ラ増大スヘク従テ東省トシテハ事ノ茲ニ至ラサルニ先立チ何トカ問題ヲ片附クル必要ニ迫ラレ張學良ハ之カ牽制策トシテ反蔣軍閥ニ対シ策動ヲ試ミツツアルヤニモ観測セラル

三、[3] 最近諸方面ノ情報ニ依レハ學良カ密ニ閻馮トノ諒解ヲ取付ケントシツツアルハ即之カ為ニシテ又表面対露強硬策ヲ唱フルモ内実妥協的態度ニ出テントシ居ル（奉天発閣下宛電報第二三二号乃至蔡運升ノ談話）模様ナル事モ結局ハ馮閻ト提携シテ或ル程度迄南京側ノ圧迫ヲ緩和スルト共ニ速ニ露支争議ノ結末ヲ付ケント焦慮シ居ルニ非スヤトモ察セラル

四、東支問題ノ解決迄ニハ猶幾多ノ曲折アルヘキカ同問題ハ今ヤ複雑ナル内政問題ニ転化シツツアルカ故ニ今春ノ馮閻合作以来一抹ノ暗翳ヲ見ツツアル内政全局ノ大勢ニ引摺ラルヘク従テ其ノ解決ハ相当永引クヘシト思ハル其ノ間露国側ニ於テモ支那内政上ノ這般ノ事情ヲ利用シ奉天側ト南京側トノ離間ヲ計リツツアル一方固ヨリ開戦ノ意図ハ無カルヘキモ兎モ角国境方面一帯ニ対シ破壊的示威運動ニ出テ其ノ結果同方面ノ支那軍カ漸次増加スルニ伴ヒ或ハ本式ノ衝突トナルノ懼ナキヲ得サルモ恐ラクハ其ノ以前ニ於テ東省側ハ閻馮等トノ連衡ヲ仕組ミ南京側ヲシテ此ノ上干渉ヲ困難ナラシメ主トシテ東省ノ手ニ依リ急速解決ヲ計ルノ方策ニ出テ露モ亦何等カ妥協案ニ依リ直接交渉ヲ開始スルノ運ヒニ至ルニ非スヤト観測セラル

上海、南京、奉天、哈爾賓、吉林ヘ転電セリ

278 昭和4年8月26日 幣原外務大臣 汪中国公使 会談

中国公使は中東鉄道紛争に関し不戦条約に基く調停には異存ないが鉄道問題自体に第三国の干渉は拒否と回答について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣汪支那公使会談要録

昭和四年八月二十六日汪支那公使幣原大臣ヲ来訪シ先日御質問ノ二点ニ関シ国民政府ヨリ回電ニ接シタルヲ以テ二十四日貴大臣御不在ニ付吉田次官迄不取敢御通知致シ置キタルカ貴大臣ニ繰返シ申上ケ度ク今日来訪シタル次第ナリト前置キシ該電報ハ国民政府カ貴大臣ノ示サレタル御厚意ニ対シ謝意ヲ表スル旨ヲ冒頭シ

(一)支那側ハ第三国ノ干渉ヲ歓迎スルモノナリヤ否ヤトノ貴問ニ対シテハ支那ハ本件紛争ノ平和的解決ヲ希望スルモノナルカ故ニ列国ニ於テ不戦条約ノ趣旨ニ依リ好意的調停ヲサルルコトニハ何等異存ナシ然レトモ東支鉄道問題自体ニ付テハ露支及奉露協定ニ依リ同鉄道ニ関スル一切ノ争議ハ露支両国ノ交渉ニ於テ解決シ第三国ノ介入ヲ許ササルコトトナリ居ルヲ以テ国民政府ハ此点ニ付意見ヲ述フルノ自由ヲ有セス

(二)支那ハ露支及露奉協定ノ効力ヲ認ムルモノナリヤトノ貴問ニ付テハ国民政府ハ露国ニ於テ先ツ両協定ヲ無視スルノ行動ニ出テタルニ鑑ミ之カ効力ヲ否認スル理由アリト考フル次第ナルモ今日両協定ノ無効ヲ主張セントスルモノニハ非ス然レトモ管理局長ノ任命ハ理事会ノ推薦ヲ俟テ之ヲ任命スヘキモノニシテ露国政府ノ今日主張スル如ク理事会ノ推薦ヲ俟タスシテ自ラ之ヲ任命セントスルカ如キハ協定違反ニシテ国民政府ノ承認スル能ハサル所ナリトノ趣旨ヲ申来レリト述ヘタリ

依テ幣原大臣ハ右ハ在南京岡本領事ヨリ電報アリタル周龍光談話ノ趣旨ト正確ニ合致セサル所アリ岡本来電ニ拠レハ第一点ニ付テハ若シ露支間ニ戦端開始セラルル場合関係列国ニ於テ不戦条約ノ趣旨ヲ徹底セシムル為何等カノ処置ニ出ツルコトアルモ支那側トシテハ已ムヲ得サルモノト認ムルモ東支鉄道問題自体ニ対シテハ第三国ノ干渉又ハ仲介ヲ絶対ニ希望セストノコトナリ又第二点ニ付テハ支那側ハ管理局長任命ノ手続問題ニ重キヲ置カルルモノノ如クナル処自分ノ了解スルカ如クムハ露国ハ局長ヲ露支及露奉協定所定ノ手続ニ拠ラス露国ニ於テ任意ニ之ヲ任命センコトヲ主張スルモノニハ非サルヘク従テ任命ノ手続カ両協定ニ規定

セラレアル所ニ拠ルヘキコトハ問題トナリ居ラサルカ如シ岡本来電ニ拠レハ支那ハ決シテ露人ノ局長ヲ忌避スルモノニ非ス唯露人局長カ赤化宣伝ヲ行ヒ又ハ鉄道収入ヲ之ニ流用スル点ニ付此際両国間ニ論議ヲ尽シ何等カノ条件ヲ附シテ適当ナル露人局長ノ就任ヲ承認セントスルモノト見受ケラレ問題ハ単ナル手続ノ点ニ非スシテ任命ニ対スル条件ノ問題ヲ含ムモノト了解ス何レニスルモ第一ノ点ニ付露支開戦ノ場合ニ列国ニ於テ不戦条約ニ依リ露支両国ニ対シ戦争ヲ中止セシムル為何等カノ措置ヲ執ルニ至ラハ戦争ノ原因タル東支鉄道問題自体ノ解決方法ニ付テモ自然ニ容喙スルコトアルハ免ルヘカラサル所ナリト思考ス東支鉄道問題自体ニ対スル列国ノ容喙ニ付テハ国民政府ハ意見ヲ述フル自由ヲ有セストノコトナレハ之ハ強イテ御聞キスルノ要ナキモ以上ノコトハ貴国政府ニ於テ覚悟シ置クノ必要アルヘシ又第二ノ点ニ付テハ露国政府ノ意嚮ニ付確タル報道ヲ有スル次第ニアラス従テ確言ハ致シ兼ヌルモ露国側ノ重視スル所ハ支那側ヲシテ協定所定ノ管理局長ニ露人ヲ任命スルノ原則ヲ豫メ確認セシメントスルニ存シ特定ノ露人ヲ今直チニ局長ニ任命スルコトヲ承認セシメントスルモノニハ非サルヤモ知ルヘカラス果シテ然ラハ此際支那ニ於テ直チニ右原則ヲ確認スルトモ追テ露国側ヨリ候補者ヲ持出ストキハ固ヨリ支那側ニ於テ露国側ト意見ヲ交換シ将来ニ対スル保障トシテ相当ノ条件ヲ要求シ得ヘキ筋合ナリト考フ之ヲ要スルニ此際支那側ヨリ露支及露奉協定所定ノ手続ニ依リ露人ヲ管理局長ニ任命スヘキコトヲ宣言スルニ於テハ目下行詰リノ状況ニ在ル露支両国間ノ交渉ニ一歩ヲ進メシムル可能性アルニ非スヤトノ印象ヲ有ス尤モ此点ハ未タ露国側ノ意向ヲ確メタルニ非サルカ故ニ固ヨリ正確ヲ保シ難シト述ヘラレタル処汪公使ハ貴大臣ノ謂ハルル如ク露国側差当リノ要求カ原則ノ確認ナラハ結構ナリト答ヘタリ

尚此点ニ付テハ幣原大臣ヨリ汪公使ニ対シ追テ露国大使ノ意向ヲ確メタル上ハ貴公使ニモ内話スヘシト約シ置カレタリ

279　昭和4年8月28日　幣原外務大臣　トロヤノフスキーソ連大使　会談

ソ連側の管理局長任命問題に関する中国側の対応を伝え交渉の進展方希望について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣露国大使会談要録

昭和四年八月二十八日幣原大臣露国大使ヲ招致セラレ最近支那公使ト為シタル会談ノ要旨ヲ貴大使内密ノ御参考迄御話致置クコト可然ト認メ来訪ヲ求メタル次第ナリト前置キシ

八月二十日汪公使本大臣ヲ来訪シ近頃露国側ニ於テ支那側ハ露人ヲ管理局長ニ任命スルコトニ付曩ニ蔡運升カ「メリニコフ」ニ与ヘタル言質ヲ破レリトノ宣伝ヲ為シツツアリトノ報アル旨ヲ告ケタルカ自分ハ之ニ対シテハ直接意見ヲ述フルコトナク唯自分一己ノ考トシテハ何故支那ニ於テ露支及露奉協定ノ規定スル露人管理局長ノ任命ヲ躊躇スルヤ了解シ難ク従テ此点ニ付テハ支那ニ於テ該協定ノ効力ヲ認ムルヤ否ヤヲ確ムルコト根本問題ナリト認メ自分一己ノ参考迄右ニ関スル支那側ノ所見ヲ求メタル処汪公使ハ南京政府ニ電照ノ上八月二十六日再度自分ヲ来訪シ同政府回電ノ趣旨ヲ伝ヘタリ右ニ拠レハ其意味必スシモ明瞭ナラサルモ支那ハ露国側ニ於テ先ツ支露、奉露両協定無視ノ行動アリタルニ鑑ミ之カ効力ヲ否認スル法理上ノ理由アリト認ムルモ事実上今直チニ両協定ノ無効ヲ主張スルモノニ非ス又両協定所定ノ手続ニ従ヒ露人ヲ局長ニ任命スルコトニハ異議ナキモ右手続ヲ経ス露国側ニ於テ任意ニ露人ヲ任命スルコトニハ同意ヲ与ヘ難シ且従来「エムシャーノフ」及其ノ部下ノ露人ハ赤化宣伝ヲ事トシ鉄道収入ヲ之ニ流用シタル事実アルニ顧ミ新ニ露人局長ヲ任命スルニ当リテハ此点ニ付露国側ト充分意見ノ交換ヲ為スノ要アルヘク此ノ手続ヲ経スシテ露人ヲ局長ニ任命スルコトハ之亦承認スルヲ得スト為スモノノ如シ依テ之ニ対シテハ自分ハ管理局長ノ任命手続カ協定ニ準拠スヘキハ露国側ニ於テモ異議ナク別ニ問題トナリ居ラサルモノト了解シ居リ唯露国側ニ於テ支那側トノ直接交渉ノ開始ニ同意セサルハ支那側カ協定条項ニ従ヒ露人ヲ局長ニ任命スルコトニ同意セサルカ為ナリト了解スル処若シ然リトセハ支那側ニ於テ此際協定ノ条項ニ従ヒ所定ノ手続ヲ踏ミ露人ヲ局長ニ任命スルコトニ異議ナキ旨莫斯科政府ニ声明シ特定露人ノ任命ニ付テハ更ニ露支両国間ニ協議スルコトトシ露国ニ於テ之ニ異議ナシトセハ支那側ニ於テ異存アルヘキヤト問ヒタル処汪公

使ハ自分一己ノ私見トシテハ支那側ニ於テモ異存ナキコトト了解スト述ヘタリ

ト告ケラレタリ（幣原大臣ハ支那側ニ於テ第三国ノ干渉ヲ歓迎スルヤ否ヤノ問題ニハ全然言及セラレサリキ）

之ニ対シ露国大使ハ

要スルニ露国側ノ最モ必要トスル所ハ支那側ニ於テ露国ト談判ヲ開始スルニ誠意ヲ有スルヤ否ヤヲ確ムルニ在リ支那側最近ノ態度ヲ見ルニ世界輿論ノ前ニ露国ヲ非難スルノ宣伝ヲ事トシ真面目ニ問題ヲ解決セントスルノ誠意ヲ有スルヤ疑ハシク今回ノ汪公使ノ答弁ニ於テモ露支及露奉協定ノ効力ヲ否認スル法理上ノ根拠ハアルモ事実上今直チニ其ノ無効ヲ主張セントスルモノニハ非スト為シ法理上ノ議論ヲ留保シ居ルハ其ノ誠意ヲ缺ク証左ト為スヲ得ヘシ従テ露支直接交渉ヲ開始スルモ徒ラニ支那側宣伝ノ具ニ供セラルルニ止マリ何等纏マリタル成果ヲ得ルコト能ハサルニ非スヤトノ虞ヲ抱ク次第ナリ而シテ支那側ニ於テ直ニ談判開始ノ誠意ヲ示ス為ニハ自分一己ノ考ニテハ具体的ニ特定露人ヲ管理局長ニ任命スルノ問題ヲ談判開始前ニ決定スルコト必要ニ非スヤト認ム尤モ莫斯科政府ハ大局ヨリ見テ或ハ自分ノ考ヨリモ一層寛大ナル政策ヲ採ルモノナルヤモ知レスト述ヘタリ

依テ幣原大臣ハ

特定露人任命ノ具体的問題ニ付テハ問題ノ性質ヨリ見テ露支両国間ニ於テ協議ヲ遂ケタル上決定セラルヘキモノナリト考フ支那側ハ恐ラク「エムシャーノフ」等従来ノ言動ニ顧ミ赤化宣伝ヲ為ササルコト等ニ付将来ノ保障ヲ要求スヘク此等ノ問題ハ露支両国間ニ談判ヲ為スニ非サレハ決定シ得スト主張スルナラム就テハ支那側ニ於テ先ツ原則トシテ千九百二十四年ノ協定ノ効力ヲ認メ該協定所定ノ手続ニ依リ露人ヲ局長ニ任命スルコトヲ確認スルニ於テハ直チニ露支交渉ヲ開始スルコトトシ特定露人局長任命ノ如キ具体的問題ハ其ノ交渉ノ一部トシテ順次商議スルコトトセハ露国側ニ於テ如何ナル支障アルヘキヤト問ハレタル処露国大使ハ

元来「エムシャーノフ」等ニ於テ赤化宣伝ヲ為シタル証拠ハアルヘキ筈ナク露国政府ハ東支鉄道ヲ赤化宣伝ノ具トスルカ如キ意図ヲ有セサルヲ以テ支那側ニ於テ赤化宣伝防止ニ付保障ヲ求ムレハ露国側ハ欣ンテ之ニ応スヘシ

唯自分トシテハ支那側ニ於テ誠意ヲ示ス為ニハ露人ヲ局長ニ任命スル原則ノ承認ヲ為スノミナラス露支交渉ト離レテ先ツ具体的ニ特定露人任命ノ問題ヲ決スルコト必要ナリト考フル旨再言セリ

依テ幣原大臣ハ

然ラハ支那側ニ於テ露人ヲ局長ニ任命スルコトニ付原則トシテ承諾スル場合ニハ直チニ露支直接交渉ニ入リ該交渉ニ於テ最初ニ議スヘキ問題ヲ特定露人ノ局長任命問題トシ其ノ点ニ付決定ヲ見サルトキハ談判ヲ中止シ決定ヲ見ルトキハ引続キ爾餘ノ問題ノ商議ニ移ルコトトシ不可ナリヤ

ト問ハレタル処露国大使ハ

莫斯科政府ハ或ハ夫ニテ可ナリト謂フヤモ知レサルモ自分トシテハ既ニ申述ヘタル通支那側ノ誠意ニハ信頼シ難キ故直ニ直接交渉ニ入ルハ危険ナリト思考スル旨繰返シタリ

依テ幣原大臣ハ

若シ支那側ニ於テ全ク誠意ナキモノナラハ露支及露奉協定ノ効力問題ニ対スル其ノ態度ヲ明白ニセサル筈ナリ支那ハ従来該問題ニ付テハ何等態度ヲ明ニシタルコトナキヲ以テ若シ誠意ナクハ右ノ態度ヲ持続スル方有利ナルニ拘ラス今般自分ノ質問ニ答ヘ其ノ態度ヲ明ニシタルハ少クトモ談判開始ニ対スル誠意ノ一端ヲ示シタルモノト謂フヲ得ヘシ

ト述ヘラレタル処露国大使ハ暫ラク考ヘタル後

貴大臣ノ御説明ニ依リ露支交渉ノ前途ニ大分望ヲ嘱シ得ル様感知セリ何レ莫斯科政府ノ所見一層明瞭ニ分明セハ御知ラセスヘシト約束セリ

280　昭和4年8月29日　在独国長岡（春一）大使より幣原外務大臣宛（電報）

中国が独国に対ソ交渉再開斡旋を依頼について

ベルリン　8月29日後発
本　省　8月30日前着

第一一六号（極秘）

二十九日東方局長「トラウトマン」ハ佐久間ニ対シ二十七日当地支那公使ヨリ支那政府ハ細目ノ点ヲ除キ東支局長ノ任命及露支露奉両協定ノ定ムル状態復活ニ主義トシテ同意

シ其ノ基礎ニ於テ露支交渉ヲ開始シタキニ付右露政府ニ取次カレタキ旨申出タルヲ以テ独逸政府ハ之ヲ応諾シ二十七日夜露側ニ取次ク為在露大使ニ訓電シ置キタルカ露ヨリ回答ニ接シ次第更ニ内報スヘシ右ハ日本政府ノ御参考迄ニ極秘トシテ御話スル次第ニシテ尚明三十日当地米国大使館参事官ニ会見ノ機会ニ於テ米国側ニモ内報スル考ナリト語レリ

英米仏露ヘ転電シ伊白ヘ暗送セリ

281　昭和4年8月30日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛(電報)

カズロフスキー極東部長独国斡旋による中ソ交渉の現状につき談話について

モスクワ　8月30日後発
本　省　8月31日後着

第四二八号
往電第四二五号ニ関シ[1]
三十日「カズロフスキー」極東部長ハ酒匂ニ対シ「カラハン」ノ命ニ依リ内話スル次第ナリト前提シ二十八日夕在当地独逸大使ハ「リトビノフ」ヲ往訪シ南京政府ヨリ蘇政府ニ対スル公式提議ヲ伝達セルカ右ハ両国政府ノ共同宣言案ニシテ（英文）其ノ趣旨ハ

一、北京及奉天両協定ニ基キ東支鉄道ニ関スル一切ノ紛糾ヲ調整スル為会議ヲ開催ス

二、両国政府ハ東支鉄道ニ於ケル現下ノ事態ハ前記両協定ニ準拠シテ之ヲ調整スヘキモノナルコトヲ認ム右調整ハ前記会議ニ於テ行ハルヘキモノトス

三、蘇政府ハ新局長及新副局長タルヘキモノヲ南京政府ニ対シ推薦スヘシ

四、蘇政府ハ露支協定第六条ノ規定ヲ厳守スルカ為蘇聯邦人民タル東支従業員及労働者ニ対シ必要ノ訓令ヲ発スヘシ

五、[2]両政府ハ夫々一九二九年五月一日以降逮捕セル他ノ一方ノ人民ヲ総テ釈放スヘシ

ト言フニアリ右ニ付「リトビノフ」ハ二十九日夕独逸大使ノ来訪ヲ求メ前記提議ニ対スル蘇政府ノ修正意見大要ヲ認メタル覚書（英文）ヲ手交シ尚口頭ヲ以テモ附加説明シ南京政府ヘ伝達取計方依頼セルカ其ノ要旨ハ

一、前記三ニ関シ蘇政府ハ旧局長及副局長カ従前通其ノ職ニアルヘキモノナリトノ主張ヲ支持ス

何トナレハ支那側カ「エムシヤノフ」及「エイスイモンド」ヲ解職シ国外ニ追放セルハ何等ノ理由ナキモノト認ムルヲ以テナリ

尤モ支那側ニ於テ面子ヲ保持セムカ為飽迄新局長及副局長ノ任命ヲ希望スルモノナルニ於テハ蘇側トシテハ支那側ニ於テモ新督弁ヲ任命スヘキ条件ノ下ニ（呂督弁ノ更迭ノコトナリト説明セリ）新局長及副局長ヲ推薦スルノ用意ヲ有ス尤モ右任命ハ共同宣言ニ署名ノトキヨリ遅カラス行ハルヘキモノトス

二、前記四ニ関シ蘇側ハ支那側ニ於テモ相互的ニ協定第六条ノ規定ヲ厳守スヘキ条件ノ下ニ於テ之ヲ諾シ得ヘシ（支那側カ白系露人ノ団体乃至個々ノ行動ヲ取締ルコト等ヲ意味スル次第ナリト説明セリ）

ト言フニアリト述ヘ尚酒匂ノ問ニ対シ会談ノ場所等ノコトハ未タ問題トナリ居ラス又蘇側トシテハ合理的ト認ムル修正ノミヲ申出テタル次第ニ付支那側ニ誠意サヘアラハ本件ノ解決近キニアルモノト認メ居レリト答ヘタル趣ナリ

在欧米各大使ヘ転電セリ

282　昭和4年8月(31)日　在奉天林総領事より幣原外務大臣宛(電報)

国民政府の対ソ交渉再開の理由について

奉　天　発
本　省　8月31日後着

第五三五号
往電第五三三号ニ関シ
昨三十日午后劉光挨拶ノ為本官ヲ来訪シ露支問題其ノ他ニ付腹蔵ナキ談話ヲ為シタル処同人ノ言ヲ綜合スルニ今回国民政府カ急ニ対露態度ヲ一変シテ伯林ニ於テ交渉再開ヲ試ムルニ至リタル主要ナル動機ハ㈠露支開戦ニ当リ南方軍隊ヲ北満ニ輸送スルニ際シ馮、閻両人カ背後ニアリテ内乱ヲ醸成スル懼アルコト㈡張學良カ南軍ノ満洲侵入ヲ好マサルコト㈢東三省ノ軍隊ハ訓練ト統一トヲ缺キ且作戦ノ用兵ニ長スル人材ナキ為露国ヲ敵トシテ戦フ資格ナキコト㈣南方軍隊ヲ北満ニ輸送スルモ服装及習慣等ノ関係上厳寒ニ当リテ実戦ニ適セサルコト等ノ事情ニアルカ若シ尚劉ノ談ニ依

ルニ支那側ハ右諸理由ニ依リ此ノ際露国ト戦ヒ能ハサルニ付差当リ和平解決ヲ希望シ将来之等ノ障碍除去セラレタル後国境方面ノ防備ヲ厳ニシ漸次露国ニ対セントスル方針ニ決セルモ万一不幸ニシテ和平解決不調ニ終リ露国カ愈武力解決ヲ断行スルニ至ラハ露軍侵入ノ経路ハ満洲里方面ニアラスシテ黒河及三江口方面ナルヘク結氷期ニ入リ橇ヲ用ユルトキハ之等地方ヨリ三日間ニシテ哈爾賓ニ到着シ得ルヲ以テ支那側ニ於テモ軍事計画上豫メ之カ対策ヲ講スル必要アリトナシ劉ハ張學良ノ命ニ依リ右防禦作戦ニ関スル使命ヲ帯ヒ明一日征露第一軍長王樹常ト共ニ哈爾賓出張ノ豫定ナル趣ナリ

（上海ヨリ南京ヘ哈爾賓ヨリ齊齊哈爾、滿洲里ヘ転電ヲ請フ）支、上海、哈爾賓、吉林、長春ヘ転電セリ

283　昭和4年8月31日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛（電報）

独国の斡旋による中ソ交渉の進展状況について

モスクワ　8月31日後発
本　省　9月1日後着

第四三〇号

東支問題ニ関シ外務部ハ支那側ヨリ二十八日独逸大使ヲ通シ左記㈲ノ共同宣言書案ノ提示ヲ受ケ之ニ対シ蘇側ハ二十九日㈲ノ通リノ修正案文ヲ同大使ニ手交シタル旨並ニ㈲ノ通リ「リトビノフ」カ同大使ニ声明セル旨三十一日ノ新聞紙ニ発表セリ右為念電報ス

甲、一、双方ハ双方間ニ於ケル一切ノ争議問題ヲ一九二四年ノ協定ニ準シテ決定スヘキコト殊ニ東支鉄道買収ノ条件ヲ北京協定第九条ニ準シテ決定スヘキコトヲ声明ス

双方ハ前項ニ記述シタル一切ノ争議問題ノ決定ヲ目的トスル会議ニ対スル全権代表ヲ相当ノ方法ニ於テ直ニ任命ス

二、双方ハ紛争後発生シタル東支鉄道ニ於ケル事態ハ一九二四年ノ北京及奉露協定ニ準依シテ変更セラルヘキモノナルコトヲ斯ル一切ノ変更カ前条ニ記述シタル会議ニ於テ決定セラルヘキ了解ノ下ニ認ム

三、蘇政府ハ東支鉄道理事会カ任命スヘキ新タナル同鉄道管理局長及副管理局長ヲ推薦ス蘇政府ハ蘇聯邦ノ国籍ヲ有スル東支鉄道従業員ニ対シ右従業員カ一九二四年ノ協定第六条ニ含マルル条件ヲ厳格ニ遵守スヘキ為訓令ヲ透徹セシム

四、双方ハ現下ノ出来事ニ関聯シ又ハ一九二九年五月一日以後ニ逮捕セラレタル一切ノ者ヲ直ニ釈放ス

乙、一、（支那側案通）

二、（同上）

三、蘇政府ハ東支鉄道理事会カ直ニ任命スヘキ東支鉄道管理局長及副管理局長ヲ推薦ス

蘇政府ハ蘇聯邦人民タル東支鉄道従業員ニ対シ又支那政府ハ地方官憲及機関ニ対シ是等ノモノカ一九二四年ノ協定第六条ニ含マルル条件ヲ厳格ニ遵守スヘキ為訓令ヲ透徹セシム

四、（支那側案通）

丙、蘇側宣言案ノ手交ト共ニ「リトビノフ」ハ独逸大使ニ対シ蘇聯邦政府ハ条約ニ厳格ニ準依シテ当時適法ニ任命セラレ且職能ヲ履行シタルモノニ代テ新管理局長及副局長ヲ任命スヘキ何等ノ理由ヲ認メサル旨ヲ声明セリ

右ト共ニ「リトビノフ」ハ若シ支那政府ニシテ条約ニ依テ定メラレタル東支鉄道ニ於ケル秩序ノ破壊ニ対シ直接的責任カ帰属スル現在ノ督弁ニ却テ新督弁ヲ任命スル場合ニ於テハ蘇聯邦ノ不変ノ平和政策ニ準依シ且支那政府ノ希望ニ迎合シテ外務人民委員部ハ新管理局長及副局長任命ノ問題ヲ「ソビエト」政府ニ提出スヘキ旨ヲ声明シタリ尚「リトビノフ」ハ管理局長及副局長ノ任命ハ共同宣言文ニ対スル署名ト同時ニ行ハルヘキモノナルハ勿論ナルコトヲ声明シタリ

欧米大使ヘ転電セリ

284　昭和4年8月31日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛（電報）

カラハンが中国側提議を評価し中東鉄道売却問題に言及について

モスクワ　8月31日後発
本　省　9月1日後着

第四三二号

往電第四二八号ニ関シ
三十一日「カラハン」カ応訪ノ酒匂ニ答ヘタル要領左ノ通リ

一、南京提議ハ趣旨ニ於テ蘇側ノ主張ヲ容レタルモノト認メ得ヘク蘇側トシテハ満足ニ考フルト共ニ平和的解決ノ途開カレントスルヲ欣フ次第ナリ蘇側ノ修正ハ何レモ合理的ノモノナルニ付支那側ニ於テ之ヲ受諾スヘキモノト信シ居レリ初メ東支ノ乗取ヲ企ミタル南京カ斯ル態度ニ出テ来レルハ貴説ノ如ク対内及対外関係ニ支配セラレタルニ依ルモノト認ムルモ本件ニ関シ示サレタル幣原外務大臣ノ公正ニシテ露支双方ニ好意アル態度ハ南京ヲ反省セシムルニ至レル一因ナルヘク此ノ点ハ蘇側ニ於テ「アプレシエート」シ居ル次第ニ付右東京ニ報告セラレタシ

二、会議地ハ未タ問題トナリ居ラサルモ蘇側トシテハ莫斯科タルヘキヲ主張スル底意ナリ又会議ハ九月十五日頃開催シタク日取リノ点ノミハ独逸大使ニ伝ヘ置ケリ

三、蘇側修正ニ対スル南京ノ回答ニ付先程入手セル独逸来電ニ依レハ在独支那公使ハ多分本三十一日中ニハ南京ヨリノ回電ニ接スヘキ見込ナリト語リタル趣ナリ

四、東支買収問題ハ会議ノ重要条件ニシテ日本其ノ他ニ興味アルヘキ処蘇側トシテハ右ニ付支那側ト何時ニテモ好意ヲ以テ商議ヲ為ス用意アルト共ニ之ニ関スル露奉協定ノ規定ハ厳格ニ解釈シ譲ラサル積リナリ同問題ニ関シ貴説ノ如ク「支那ノ資本ヲ以テ」ナル字句ハ論議ニ値スル点ナルヘキモ当該規定ハ同協定商議ノ当時自分ニ於テ篤ト熟慮ノ結果成レルモノニシテ借款ノ如キハ支那ノ資本ト認メサル趣旨ナリシナリ乍併借款ト雖モ種々ノ場合ヲ想像シ得ヘク又蘇側トシテモ当時ト現時トハ意見ニ相違無キヲ保シ難シ従テ支那側ノ具体的提議ニ応シ詮議決定スルノ外無ク支那側カ国際財団ヨリ成ル借款ヲ以テ買収セムトスルカ如キ場合ニ於ケル蘇側ノ意見ニ付テハ実際ニ於テ未タ何等定マリタルモノ無シ尚先年北平ニ於テ王正廷ト会談ノ際王ハ「ロマノフ」紙幣ヲ以テ買収資金ノ一部ニ当テム事ヲ提議セル事アリ当時之ヲ一蹴シ置ケルカ今更右ニ類スル申出無キモノト考フ

次ニ事実問題トシテ考フルニ支那現下ノ財政ハ到底自力ヲ以テ買収ヲ許ササルハ明カナリ借款ニ付テモ担保並条件ニ困難アル事亦明カナルノミナラス国際政局上ヨリ見テ何国モ斯ル借款ニ応セムトスルモノ無キヤニ観測セサルヲ得ス即チ腹蔵無キ意見ヲ述フレハ南京カ事新シク買収問題ヲ今回ノ提議中ニ特筆セルハ蘇側ノ主張ニ聴従シタル事トナラサル様繕ヒタルモノニテ単ニ面子ヲ保持セムカ為ニ過キサルモノト認メサルヲ得ス従テ果シテ買収ヲ実現セムトスル真意ニ出テタルモノナルヤ否ヤ甚タ疑ハシク自分トシテハ餘リ重キヲ置キ居ラサル次第ナリ

在欧米各大使ヘ転電セリ

285　昭和4年9月2日　幣原外務大臣トロヤノフスキーソ連大使　会談

ソ連側が中東鉄道紛争解決に対する日本の態度に謝意表明について

露支紛争ニ関スル幣原大臣露国大使会談要録

昭和四年九月二日露国大使幣原大臣ヲ来訪シ独逸政府ヲ通シタル露支交渉ノ成行ヲ報シ両国ノ紛争カ大体在露田中大使発電報第四二八号所報ノ通解決ノ緒ニ着キタル旨ヲ告クルト共ニ右ハ帝国政府ノ露支両国ニ対スル公正ナル態度カ南京政府ノ反省ヲ促スニ至リタルニ因ルモノト認メラルル次第ニシテ本日露国政府ノ訓令ニ依リ玆ニ謝意ヲ表スルモノナリト申述ヘタリ

依テ幣原大臣ハ露国政府ニ於テハ今回新露人管理局長ノ任命ニ関聯シ東支督弁呂榮寰ノ罷免ヲ要求シ居ル模様ナルカ呂ニシテ有力ナル人物ナリトセハ支那側ニ於テ之カ罷免ヲ承諾スルコト困難ナルヘシト思考セラルル処貴見如何ト問ハレタル処

露国大使ハ一体「エムシャーノフ」ハ赤化宣伝ヲ行ヘルコトナク支那側ニ於テハ右ニ関スル証拠ヲ握レリト主張シ居ルモ斯ル証拠ナトアル訳ナシ「エ」ハ真面目ナ人ニテ宣伝ナトスル男ニ非ス若シ支那側ニ於テ呂榮寰ノ罷免ヲ欲セスムハ「エ」ノ更迭ヲ申出サレハ宜シカラム今度ノ露国政府ノ正式会談開催ニ関スル条件ハ非常ニ寛大ナルモノナレハ支那側ニ於テ余リ文句ヲ附ケス之ヲ承諾セムコトヲ期待スル次第ナリトテ暗ニ南京政府ヘ右露国側ノ意向ヲ伝達アラムコトヲ希望スル口吻ヲ示シタルモ幣原大臣ニ於テハ単ニ之ヲ聴取スルニ止メラレタリ

286

昭和4年9月11日　在独国長岡大使より幣原外務大臣宛（電報）

中東鉄道交渉ソ連修正案への中国側回答内容について

ベルリン　9月11日後発
本　省　9月12日前着

第一二八号

十一日「トラウタマン」[1]（トカ）ノ求ニ依リ佐久間ヲ同官ノ許ニ遣ハシタル処同官ハ十日当地支那公使館ヨリ公文ヲ以テ南京政府回答ヲ送付シ露政府ヘ伝達方依頼シ来リタルヲ以テ即日右伝達方在露独大使ヘ電訓シ置キタリト語リ右南京政府回答写ヲ呉レタルカ其ノ訳文左ノ如シ

(一)国民政府ハ紛争ヲ公正ニ解決スル為露政府ト交渉ヲ開始スルノ用意アル旨反覆声明セリ故ニ国民政府ハ露政府カ共同声明ヲ其ノ両当事者ニ依リ同意セラレタル後署名スルノ用意アル旨表明シタルコトヲ「アプレシエート」シ且両国代表者カ両国間一切ノ懸案ノ最終的解決ヲナシ得ル為能フ限リ早ク会議ヲ開クコトニ全然同意ス

(二)[2]国民政府ハ共同宣言案第三条ノ「リコメンド」ナル語ノ前ニ「インミヂエート」ナル語ヲ挿入セントスル露政府ノ提議ニ異議無キモ（当館註、露修正案ニハ「インミヂエートリコメンド」ナル語ヲ「アポイント」ナル語ニ懸ケ居ルヲ支那側ニ於テ「リコメンド」ナル語ニ懸ケントスル趣旨ナリ）新局長及副局長ノ任命ヲ右宣言署名又ハ会議開催ノ為ノ先決条件ト為サントスルノ提議ニ対シテハ同意シ得サルヲ遺憾トス蓋シ右ノ如キ処理方法ハ既ニ露政府ノ受諾セル宣言案及第二条ノ定ムル一般原則ニ反スヘケレハナリ

(三)露政府ノ提議セル他ノ修正ニ関シテハ国民政府ハ之等修正ヲ会議ノ審査ニ附スルヲ適当ト認メ且会議カ右修正ニ同意ナル場合ニハ国民政府ニ於テ之カ採択ニ反対セサルヘシトノ意見ナリ

(四)国民政府ハ会議地ヲ露政府ノ提議セルカ如ク莫斯科トセス之ヲ伯林ト為サンコトヲ提議シ且又宣言ノ署名モ両国代表者ニ依リ伯林ニ於テ行ハルヘキコトヲ希望ス

聯盟、英、米、仏、露ニ転電、伊、白ニ暗送セリ

287

昭和4年9月16日　幣原外務大臣トロヤノフスキーソ連大使　会談

幣原外相がソ連側修正案に対する中国側拒否後の対応振り在日ソ連大使に勧告について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣露国大使会談要録

昭和四年九月十六日露国大使幣原大臣ヲ来訪シ

支那側ノ共同宣言案ニ対スル露国側ノ修正案ニ付最近支那側ヨリ回答アリ右ニ拠レハ支那ハ露国ノ重要視スル修正提議ヲ全部拒絶シ来レリ之ニ対シ露国政府ニ於テ如何ナル態度ヲ執ルヤ未タ承知セサルモ自分ノ見ル所ニ依レハ支那側ニハ問題解決ノ誠意全然ナキモノノ如ク最早支那側ト平和的解決ヲ講スルコトハ無益ナリト考ヘラルト述ヘタリ

依テ幣原大臣ハ

初メ支那側カ共同宣言案ヲ提出シタル際之ヲ発表セサル様露国側ニ依頼シタルニ拘ラス露国ハ之ヲ発表シタル模様ナル処其ノ当否ハ茲ニ之ヲ論議セサルヘキモ事実ニ於テ其レ以来支那側ハ自国ノ通牒ヲ露国側ニ於テ公表スルノ危険アルヲ覚悟シ従テ国民ニ対シ努メテ強硬政策ヲ示スカ如キ通牒ヲ露国側ヘ発セサルヲ得サル立場ニ在ルヘク面倒ハ茲ニ存スルニ非スヤト考フ貴大使ハ支那ニ誠意ナシト言ハルルモ自分ノ印象ニ誤ナクンハ支那側ニ問題ノ解決ヲ延引セシムル何等ノ必要モ理由モナク又其ノ内政上ノ理由ヨリ見ルモ支那側ニ於テ無関心ニ問題ノ解決ヲ遷延スヘシトハ思ハレス自分ハ露支間ノ交渉ハ之ヲ書面ヲ以テ為スカ故ニ勢ヒ双方ノ態度カ硬化スルヲ免レサル次第ト考フル処露国ハ支那ニ対シ最早何等ノ回答ヲ発セスシテ成行ニ放任セラルル意思ナリヤト問ハレタル処露国大使ハ数日中ニ回答スルコトトナルヘシト答ヘタリ

依テ幣原大臣ハ

若シ右露国ノ回答アリタルニ対シ支那側ヨリ露国側ニ於テハ支那ノ意思ヲ良ク了解シ居ラサルモノアリト認メ東支鉄道ニ関シ露支紛議ノ実質的争点ハ別トシ差当リ共同宣言案ニ付意思ノ疏通ヲ図ル為両国代表者カ何処カニテ非公式ニ会合シタシト提議シ来リタリトセハ露国ハ之ヲ拒絶スヘキヤト問ハレ現ニ英露両国間ニハ国交回復ニ先チ「プロセヂュア」ノ問題ヲ協定セムカ為ニ両国代表者

会合ノ運ニナリ居ル先例モアルコトヲ指摘セラレタルニ露国大使ハ支那ハ英国ト異リ交渉ノ誠意アルモノト認メ難キニ付露国政府ハ右非公式会合ヲモ拒絶スヘシト答ヘタリ

依テ幣原大臣ハ

然ラハ露国ハ今後如何ナル方法ヲ以テ平和的解決ヲ期セラレムトスルヤ将又全ク望ヲ絶タレタル次第ナリヤト問ハレタルニ露国大使ハ聊当惑ノ色ヲ浮ヘタル後依然簡単ナル共同宣言案ノコトナレハ支那側ヨリ露国修正案ヲ其儘承認スルコトヲ書面ニテ申入ルレハ可ナルヘク支那カ之ヲ承認シ得サル理由ナシト繰返シ答ヘタルニ付

幣原大臣ハ

如何ニ簡単ナル共同宣言案ナレハトテ書面ノ応酬ニテ円満妥結スルコトハ事実上困難ナルヘシト述ヘラレタル処露国大使ハ支那(編注)ノ立場ニ関スル貴大臣ノ御意思ハ正シキコトト存スルモ支那ノ態度ハ万事真摯ヲ缺ク故自分ハ依然支那トハ何等ノ交渉モ無益ナリトノ印象ヲ有スル次第ナルカ尚篤ト考ヘ見ルヘシト述ヘタリ

編注　以下、「尚篤ト考ヘ…」に至る間に、「自分ハ支那ニ交渉ノ誠意アルモノト信シ難キヲ以テ露支代表者ガ会見スルトモ無益ナルヤニ考フ乍去貴大臣ハ支那ノ真相ニ付一層正確ナル報道ヲ有セラルヽコト故、貴大臣ノ所説ハ十分根拠ノアルコトナルヘク自分モ」との書き込み訂正あり。

府トシテ此ノ儘暫ク成行ヲ見ルコト有利ナリトノ意ヲ洩ラセリ

尚副局長ノミノ任命ニ関スル南京側ノ追加提議ノ経緯ニ付「カ」ノ語ル所ニ依レハ始メ王正廷ハ独逸参事官「フイシエル」ニ対シ右提議ノ意味ニテ試ミニ蘇政府ノ意向ヲ「サウンド」サレ度キ旨口頭ヲ以テ依頼シ「フ」カ斯ル不確実ナルコトハ出来難キ旨拒絶シタル為王ハ已ムヲ得ス右提議ノ文句ヲ「フ」ニ「デイクテイト」シタルモノノ由ニテ少シク正式ノ提議ト趣ヲ異ニスルモ蘇政府トシテハ南京政府正式ノ提議ト看做シタルモ自分ノ観測ニ依レハ右ハ恐ラク王限リノ意見ニシテ南京政府ノ承認ヲ得タルモノニアラサルヘシト更ニ右追加提議ニ関シ本使ヨリ若シ南京カ副局長ノ代リニ局長ノ即時任命ヲ提議シタリトセハ貴方ハ其ノ程度ニテ商議開始ヲ承諾シタルナルヘシト述ヘタルニ対シ「カ」ハ稍々躊躇ノ後矢張リ蘇政府トシテハ両者ノ同時任命ヲ主張セシナルヘシト答ヘタリ

聯盟、英、米、仏、独ニ転電シ伊、白ヘ暗送セリ

288

昭和4年9月18日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛(電報)

カラハンが正副管理局長の任命問題に対するソ連の対応振り言明について

モスクワ　9月18日後発
本　省　9月19日後着

第四七五号

往電第四七三号ニ関シ

十八日「カラハン」ニ会見シタル処「カ」ハ局長及副局長任命ノ主張ハ現状回復ノ最少限度トシテ蘇政府ハ今般モ之ヲ固執スヘシト述ヘ更ニ南京ノ政情ハ近頃益々困難ヲ加ヘ蔣介石以下ノ地位ハ動揺シツツアリト認メラルルニ付蘇政

289

昭和4年9月18日　在ハルビン八木総領事より幣原外務大臣宛

張学良ハルビン学生軍の組織禁止について

機密第七五六号　(9月26日接受)

昭和四年九月十八日

在哈爾賓
総領事　八木　元八〔印〕

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

哈爾賓学生軍ノ組織禁止ニ関スル件

哈爾賓学生軍ノ組織及之ニ対スル張學良ノ禁止命令ニ関スル当地満鉄事務所情報別写御参考迄茲ニ送付ス御査閲相成度

本信写送附先　在支公使　在奉天、吉林各総領事

(別　紙)

学生軍組織禁止ニ関スル件

哈爾賓各学校学生等カ時局ニ鑑ミ学生軍ヲ組織シツツアリシカ今日迄其計画成リタルハ東北商船学校及特別区第一工科高級中学校、第三中学校、同三十日特別区第一中学校、

九月四日特別区第二中学校同十日医学専門学校等ナリ而シテ哈爾賓学生聯合会ハ之等各学校カ単独ニ学生軍ノ組織スルコトハ勢ヒ意見ノ分岐、種々ノ不便ヲ免レストナシ九月十日午后五時各学校代表ヲ召集シテ協議ノ結果哈爾賓学生軍ヲ組織スルコトヲ決議セリ

然ルニ東北辺防軍司令長官張學良ハ学生軍組織ノ意思ハ固ヨリ嘉スヘキモ辺防軍ノ配布(ママ)ハ極メテ鞏固ニシテ別ニ学生軍援助ノ必要ナク而モ徒ラニ学業ヲ荒廃スルハ毫モ益ナク況ンヤ青年学子ハ均シク血気未タ定マラサル者ニシテ勇敢ナル作戦ノ胆力ナク又慰労、宣伝等ニ関シテハ既ニ各法団ニ於テ其責任ヲ負担シ居ルヲ以テ又学生工作ノ必要ナシト

シ九月十一日電報ヲ以テ特別区行政長官張景惠ニ対シ学生軍ノ組織ヲ禁止スル様電報ヲ発シタリ張景惠ハ右ノ電報ニ接スルトキ教育庁長張國忱ヲ召致シテ張學良ノ電報ヲ示シ同庁長ハ更ニ各学校ニ飭シテ学生軍組織ノ停止ヲ命シタリ各学校学生等ハ此禁止命令ヲ聞キ頗ル不満十三日午後二時張有恒、于遇春二名ハ哈爾賓学生聯合会ヲ代表シテ教育庁長ニ至リ右禁止命令ノ取消方ヲ要求シタルモ庁長不在ノタメ同庁呂科長応対シ「学生軍ノ組織ハ庁長ノ非常ニ賛成スル処ナルモ張學良カ許可セサルニ於テハ何ントモ致シ方ナキヲ以テ暫ク命ニ従ヒ辨理スヘク後日本庁ハ必ラス張行政長官ト円満ニ商議シ更ニ遼寧張司令官ニ電請シテ其許可ヲ受クル様取計ラフヲ以テ諸生ハ須ク各同学ニ勧告シ焦急スル勿カルヘシ」云々ト答ヘタリ

290　昭和4年9月27日　在独国長岡大使より幣原外務大臣宛(電報)

トラウトマン東方局長日独共同の中東鉄道紛争調停打診について

ベルリン　9月27日後発
本　省　9月28日前着

第一三七号

二十六日「トラウトマン」ハ本使ニ対シ支那側ヨリ露支紛争解決ノ妙案ニ付意見ヲ求メ来レル処目下ノ情勢ニテハ別ニ名案モ出テス又独逸側単独ニテハ「サジエスト」スル意思ナキ処若シ日本側ニ何等カ名案アリテ日独共同シテ紛争解決ヲ計ルヲ得ハ結構ナリト述ヘ尚日本政府ハ紛争迅速解決ヲ真実ニ希望シ居ラルル次第ナリヤト問ヘルヲ以テ本使

ハ日本ハ勿論衷心ヨリ右迅速解決ヲ望ミ居リ現ニ幣原外務大臣ハ右目的ノ為在本邦露国大使及支那公使ト累次会談斡旋セラレ居ラルル次第ナリト答ヘ置ケリ

291　昭和4年9月28日　幣原外務大臣トロヤノフスキーソ連大使　会談

ソ連の中東鉄道正副管理局長任命問題解決策について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣、露国大使会談要録

昭和四年九月二十八日露国大使幣原外務大臣ヲ来訪シ

近来「ウスリー」方面国境ニ於テ白系露人及支那人便衣隊ノ侵入事故頻発シ居ル処右ノ事態継続スルニ於テハ露国側ニ於テモ断乎タル報復的処置ニ出ツルノ已ムナキニ至ルコトアルヘシト述ヘタリ

依テ幣原大臣ハ

便衣隊ニ付テハ何等承知セサルモ最近ノ情報ニ拠レハ白系露人ハ別ニ組織的活動ハ為シ居ラス支那官憲ニ於テモ相当之ヲ取締リ居ル模様ナリト述ヘラレ其ノ序ヲ以テ自分ノ了解スル所ニ依レハ東支問題ニ関シ露支両国間ノ主張今尚相違シ居ルハ単ニ管理局長任命問題ト露支協定第六条遵守ノ問題トニ過キサル処此丈ケノ問題ニテ両国互ニ譲ラス争ヲ続ケ居ルハ不幸ナリ宣伝禁止(編注)ハ協定ニ明定セラルル所ニシテ支那側ニ於テモ露国ノ修正提案ヲ容ルルコト左程困難ナラサルヘシト思考ス他方管理局長問題ニ付テハ先ツ以テ支那側ヲシテ露国人正副管理局長任命ノ原則ヲ認メシメ次テ露国側ヨリ特定ノ正副局長候補者ヲ挙ケ其ノ任命ニ付支那側ト談合ヲナシ双方ノ了解成リタル場合直チニ共同宣言案ニ署名スルコトトスルモ或ハ一方法ナルヘキカト思考ス

ト述ヘラレタル処露国大使ハ露国側トシテハ多分右ニ異議ナカルヘシト述ヘタリ

同日偶々支那公使幣原大臣ヲ来訪シタルニ依リ右露国大使トノ会談ノ内容ヲ同公使ヘ伝ヘ置カレタリ

編注　「宣伝禁止」の箇所に「治安攪乱運動ノ禁止」との書き込み訂正あり。

292　昭和4年10月24日　幣原外務大臣　汪中国公使　会談

幣原外相が正副管理局長任命問題を譲歩し紛争の早期解決を勧告について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣汪支那公使会談要録

昭和四年十月二十四日汪支那公使幣原大臣ヲ来訪シ

十月二十三日在南京独逸参事官ハ支那軍隊カ十月十一、十二両日ニ亘リ同江「ラハスス」ニ於テ露国軍隊ヲ砲撃セリトノ抗議ヲ外交部ヘ伝達シタル処同事件ハ一ツニ露国側ノ挑発ニ因レルモノニシテ支那側ノ之ニ応射セルハ全然自衛手段ニ出テタルニ過キス従テ平和ヲ破壊セル全責任ハ露国側ニ於テ負フヘキモノナリトノ趣旨ヲ記セル南京政府ヨリノ訓電写ヲ持参シ同件ニ対スル幣原大臣ノ意見ヲ承知シ度旨申述ヘタリ

依テ幣原大臣ハ

「ラハスス」事件ニ付テハ別ニ詳報ニ接セサルコトニモアリ自分トシテハ露支両国ノ何レカ是ニシテ何レカ非ナルヤニ付何等意見ヲ述フルコトヲ得サル次第ナルカ大局ニ立脚シテ東支問題ニ対スル感想ヲ卒直ニ述フレハ現ニ露支両国間主張ノ相違シ居ルハ正副管理局長任命問題ト支那官憲ニ対スル治安擾乱運動禁止方発令問題トニ限ラレ其ノ中意見ノ一致ヲ見ルコト相当困難ナリト認メラルルハ前者ニ過キスト了解スル処此些細ナル争点ノ為露支両国ノ確執解ケサルハ誠ニ遺憾ニシテ斯クテハ今後トモ今回ノ如キ不幸ナル事件繰返サレ多数ノ死者ヲ出スコトナルヘク又極東露領各地ニ監禁セラレ居ル数千ノ支那人ノ境遇ハ厳寒ノ候ニ入リ一層悲惨ナルモノアルヘシ南京政府ニ於テモ自国民ノ此ノ辛苦ノ状ヲ察シ一日モ速カニ紛争ノ解決ヲ図ラレンコト希望ニ堪ヘス思フニ局長任命問題ハ之ヲ露国側ヨリ見レハ原状回復ヲ交渉開始ノ先決条件ト為シ居ルニ鑑ミ譲歩困難ナル問題ナルヘク又之ヲ支那側ヨリ見ルモ同様ニ譲歩ヲ苦痛トスル事情ノ存スルコトト推察スルモ第三者タル米国々務長官ニ於テモ「ステータス、クウォ、アンテ」ニ回復シタル上ニテ紛争解決方ヲ話合フコト至当ナルヘシトノ見解ヲ有スル位ニテ右ハ国交ニ関スル全問題ノ解決ヲ遅延セシムルニハ餘リニ微小ナル争点ト考ヘラルルカ故ニ此際支那側ニ於テ体面論等ニ累ハサルルコトナク速カニ此ノ争点ヲ解決セラルルコト可然ト思考ス

ト述ヘラレタリ

尚其際幣原大臣ハ餘談トシテ支那公使ニ対シ

近来奉天側ニ於テハ結氷期ニ於ケル露軍ノ侵撃ヲ慮リ紛争ノ急速解決ニ焦慮シ居ル様子ナル処南京政府ニ於テ今直ニ妥協的態度ニ出ツルコトヲ不便トセラルル事情アルニ於テハ此際露国トノ交渉ハ奉天側ニ一任シ速ニ紛争ノ解決ヲ図ルコトモ一策ナルヘキカト思考ス

ト述ヘラレタル処汪公使ハ右ハ良案ト考フルニ付貴大臣ノ所言トシテ南京政府ヘ報告シ差支ナキヤト問ヘリ依テ幣原大臣ハ右ハ単ニ自分一己ノ思付ヲ述ヘタルニ止ルヲ以テ日本外務大臣ノ意嚮トシテ南京政府ヘ報告セラルルコトニハ同意シ難シト述ヘラレタル処汪公使ハ貴意ノ存スル所ハ了解セリ本件ニ付テハ何レ東京滞在中ノ湯爾和トモ良ク相談シ見ルヘシト答ヘタリ

293　昭和4年11月9日　幣原外務大臣　トロヤノフスキーソ連大使　会談

管理局長任命問題等の小争点に拘ることなく紛争解決促進方幣原外務大臣勧告について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣露国大使会談要録

昭和四年十一月九日露国大使幣原大臣来訪ノ際幣原大臣ヨリ露支争議解決方ニ関シ其後支那側ヨリ何等申出アリタリヤト尋ネラレタル処露国大使ハ無シト答ヘタリ

依テ幣原大臣ハ露国大使ニ対シ先日支那公使来訪セルニ付露支両国ノ主張今尚相違シ居ルハ僅ニ管理局長任命問題ト支那官憲ニ対スル治安擾乱運動禁止方発令問題トニ限ラルル処斯ル微小ナル争点ノ為両国ノ確執解ケス互ニ多数ノ自国民カ拘禁セラレ悲惨ナル境遇ニ在ルハ不幸ナルニ付速カニ右争点ノ解決ヲ計ランコトヲ希望シ置キタルカ（十月二十四日幣原大臣汪公使会談要録参看）其後同公使トノ会談（十月三十一日及十一月四日幣原大臣汪公使会談要録参看）ニ徴スルモ支那側ニ於テモ格別異存ナキ様見受ケタリ露国側ニ於テハ支那政府ニ問題解決ノ誠意ナシト言ハルルモ実際ニ於テハ独逸ニ在ル支那公使カ事情ニ疎キ為南京政府ハ之ニ「ミスリード」セラレ其ノ間ニ種々ノ行違ヲ生シ居ル

モノノ如ク一概ニ誠意ナシトシテ支那側ヲ咎メ得サル様思考スト軽ク注意シ置カレタリ

294　昭和4年11月13日　在上海重光総領事より幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長がドイツの斡旋による中ソ紛争解決交渉の経緯、問題点を説明について

上　海　11月13日後発
本　省　11月14日後着

第一二九三号

十一月十二日東支鉄道問題ニ関シ王外交部長トノ会談要領左ノ通[1]

一、先ツ本官ヨリ客月二十五日頃ト記憶セラルルカ貴下ハ声明書ヲ以テ露支交渉ノ経過及決裂ノ次第ヲ発表セラレタルカ其ノ以後本件ニ付何等カノ発展アリシヤト尋ネタル処

王部長ハ自分ノ知レル限リニ於テハ何等ノ進展無シト答ヘタルニ付

本官ハ東京ニ於テハ汪公使モ度々幣原外相ヲ往訪シ有益ナル談話ヲ交換セラレ居ルハ同公使ノ報告ニテ御承知ノ通ナルカ何分電信往復ノコトナレハ充分事態ヲ尽ササル点モアルヘシトテ累次ノ御電報ノ要旨ヲ説明シ要スルニ前回本件ニ関シ貴下ヨリ御説明ヲ受ケタル後ノ発展トシテハ支那政府ノ声明書ニアル通十月九日ノ被拘禁者相互解放ニ関スル独逸政府ノ提議ニ対シテハ露国政府ハ之ヲ拒絶シテ最初ノ主張ヲ維持シ貴下モ他ノ諸問題ト一括シテ会議ニ於テ議決スル事ヲ提議シ遂ニ一致ヲ見スシテ今日ニ及ヒタルモノニシテ右ノ外何レニ対シテモ独逸政府ヨリ何等提案ナカリシ次第ニテ尚双方主張ノ差ハ結局僅ニ正副局長任命ノ点ト白露人取締ノ点トニ帰著スルモノト了解セラルト述ヘタル処王部長ハ此ノ問題ニ付テハ充分事態ヲ明カニシ日本政府ノ御参考ニ供シ度キ考ナルカ或ハ汪公使ノ説明不充分ナリシヤモ知レストテ詳細ノ説明ヲナシタルカ其ノ要領ハ十月九日ノ独逸政府ノ提案ハ「エド、メモアール」ノ形式ニテ南京ニテ独逸参事官「フイツシヤー」ヨリ手交ヲ受ケタリ自分ハ右提議ニ対シ拒絶モセサレハ亦受諾モセサル立場ニアリ

右提議ハ曩ニ問題トナリ居タル解決（共同宣言）案四項[2]目（即チ㈠総テノ東支繋争問題ハ双方ノ代表会議ニ依リ解決スヘク㈡右会議ニ於テ露支協定第九条ニ依リ鉄道ノ回収方法ヲ講スルコト㈢露国政府ハ新局長ヲ「ノミネート」シ理事会ノ決議ニ依リ之ヲ任命スルコト㈣双方ノ被拘禁者ヲ解放スルコト）ノ一項目ナルニ付寧ロ全部ニ付テ審議スルコト然ルヘキ旨ヲ回答シ置キタリ

然ルニ之ト殆ト時ヲ同シウシテ伯林ニ於テ蔣公使ハ独逸政府ト非公式且極秘裡ニ私的意見ノ交換ヲ行ヒタル結果新ニ五項ヨリ成ル解決案ヲ立案シテ政府ニ上申シ来レリ右五項ハ前回ノ解決案四項ニ加フルニ露支双方ハ国境ニ於ケル紛争ヲ避クル為国境ヨリ三十哩以外ニ相互ニ軍隊ヲ引揚ケルコトノ一項ヲ以テスル外前記第三項露国正副局長任命ノ点ニ関シ露局長ハ支那ノ任命スル副局長ト協同シテ処理ス（joint management）特ニ人事及経理ニ関シテハ支那人副局長ノ「カウンターサイン」ヲ要スル趣旨ヲ定メタルモノナリ右上申ニ対シ自分ハ露国政府ノ承諾ヲ条件トシテ即時ニ之ニ承認ヲ与ヘタリ然ルニ之ト略同時ニ露国政府ハ被拘禁者相互解放ニ関スル独逸ノ提案ニ対シ考慮ノ餘地ナキ旨ヲ明カニシ之迄露国ノ主張セル意見ヲ変更スルコトハ其ノ提案カ直接若ハ間接ニ孰レヨリ来ルヲ問ハス之ヲ承諾スルコト能ハサルコトヲ回答シ此ノ上交渉ノ餘地ナキコト明カトナレルヲ以テ右新解決案モ其ノ儘「ドロップ」サルル運命トナリ

自分ハ交渉ノ経過ヲ公表スルニ至レル次第ニシテ右公表ノ内容ニ対シテハ露西亜政府ハ今日迄何等反駁スルコトナク黙認シ居ルモノナリ云々ト述ヘタリ[3]

二、依テ本官ハ日本政府ノ得タル情報ニ依レハ独逸政府ハ十月十九日ノ提案以外ニ何等ノ提案ヲ試ミタル事実ナク又露国モ公式ニモ非公式ニモ何等新ニ解決案ノ交渉ヲ何レヨリモ受ケタルコトナシトノコトナルカ此ノ辺ノ事情ヲ明カニスルコト有益ナルヘシト述ヘタルニ

王部長ハ第二回ノ解決案ナルモノハ前述ノ通単ニ伯林ニ於テ蔣公使ト独逸政府側トノ私的談合ニ成リタルモノニ過キサルニ付素ヨリ独逸政府ノ提案ト称スヘキモノニ非サルモ独逸政府ハ之ニ付テ同シク非公式ニ且極秘裡ニ露国側トモ聯絡ヲトリ居タルモノト想像セラルル節アリ（此ノ点ニ関シ本官ヨリ右ハ独逸政府ヨリ聞キタルコトナリヤト質問セルニ然ラサルモ蔣公使ヨリノ電報ニ其ノ

意味ノコトヲ指摘シ居レリト答ヘタリ）何レニスルモ露国ノ意嚮ハ判然セルヲ以テ第二ノ解決案ハ其ノ儘トナレル次第ナリト説明セリ

三、尚王部長ハ進ンテ支那ト露国トノ主張ノ差異ニ付テ説明申シタシト前提シ支那政府カ白露人ノ運動ヲ充分取締ルコトニ付テハ始ヨリ何等ノ異議ナク且現ニ白露系ノ蠢動ヲ見ルハ迷惑至極ニ付之カ取締ニ充分ノ努力ヲ払ヒ居ル次第ナリ従テ露支間ノ主張ノ差異ハ単ニ局長任命ノ問題ノ一点ニ懸ル次第ナルカ其ノ意見ノ差異カ実ニ根本問題ニ関スル訳ナリ

御承知ノ通第一回解決案提案ノ際ニ同第三項トシテ露国カ新局長ヲ「ノミネート」シ理事会ノ決議ニ依リ之ヲ任命スト定メ即時任命ヲ認メサリシハ露国カ新局長ノ地位ヲ濫用シテ従前ノ如キ共産党ノ運動ニ利用スルカ如キ不信行為ノ無キコトヲ見定メタル上理事会ニ於テ局長ノ任命ヲ決議シ得ル様ノ餘地ヲ存シタル次第ナルカ右提案ニ対シ露国ハ新局長ノ新ノ文字削除方ヲ主張シ旧局長ノ重任シ得ル餘地ヲ存セント企テ且局長任命ヲ即時（Immediately）ニ実現スル為ノ文字挿入ヲ主張シ前述支那側ノ趣旨ヲ覆サント計リタリ若シ露国ノ修正ヲ容ルルニ於テハ仮令新ニ局長ヲ任命ストスルモ右局長ハ直ニ其ノ地位ニ就クコトトナリ事実上従前通ノ職権ヲ行ヒ従テ其ノ結果右局長ハ従来ノ如ク権限ヲ濫用シ支那ノ国ノ存立ノ基礎ニ関スル運動ヲ継続シ得ルコトトナリ支那政府ハ之カ取締ニ多大ノ困難ヲ感シ幾度raidsヲ繰返スモ同シコトナルヘシ現ニ東支鉄道ニ関スル露支協定ニ依レハ「ジョイント、アドミニストレーション」ト言フコトトナリ居ルニ拘ラス従来ノ露国局長ハ或ハ理事会ニ諮ルコト無ク或ハ幹事会ノ意嚮ヲ無視シ職権濫用ノ行動多カリシ実情ニテ例ヘハ支那側職員ノ関知スルコト無ク三百万元程ノ運転材料ヲ露国ニ註文セルコトアルカ其ノ支払資金ハ露国ニ送ラスシテ上海ニ送リ種々ノ運動資金ニ充テタルコトカ哈爾賓ニ於ケル領事館等ノ捜索ノ結果明瞭トナレリ

其ノ他最近東支鉄道ノ総収入ハ年々増加シ居ルニ拘ラス純収入ハ減少（編注）ノコトトナリ居ルカ如キ又露人局長カ共産党ノ秘密会議席上ニ於テ共ニ逮捕サレタルカ如キハ此等ノ事実ヲ証明スルモノニシテ此ノ点ハ日本モ共同ノ戦線

ニ立ツ訳ト思考ス支那ハ現ニ自ラ自国ヲ「コントロール」スル為ニ各方面ニ奮闘シツツアリ若シ支那側ニ於テ国内ニ於ケル共産運動取締ヲモナスコトヲ得サルニ於テハ国家ノ基礎ヲ危クスル所以ナルニ付前記露国ノ修正ハ之ヲ拒絶セサルヲ得サリシ次第ナルカ元々支那側ハ露支協定ニ従ヒ条約ノ文字通「ジョイント、マネージメント」ノ事実ヲ挙ケ得ルニ於テハ鉄道職員ニ依ル右共産運動取締ヲ実行シ得ル訳ナルニ付第二回ノ解決案ニ於テハ露国カ局長ノミナラス副局長ヲ「ノミネート」スルコトトシ尚露人局長カ支那ノ副局長ト共同シテ職務ニ当ル（特ニ人事及金銭ノ出納ニ付）コトトナリ居ルト同時ニ右露人正副局長ハ第一回解決案ノ場合ト異リ事実上即時ニ任命スルコトノ餘地ヲ存スル趣旨ヲ以テ作成セラレタリ次第ナルカ此ノ解決案ニ対シテ支那政府ハ主義上同意ヲ与ヘタルハ前述ノ通ナリ云々ト説明セリ尚前記ノ点ハ露支主張ノ根本ノ差点ニシテ条約上ノ権利ヨリ言フモ国家ノ存立ノ点ヨリ言フモ譲歩シ能ハサル重要点ニシテ露国ニ於テ欲スルニ於テハ戦争ヲ堵（賭カ）シテモ争フ覚悟ナリ此ノ点ハ張學良ニ於テモ充分了解シ居リ現ニ必要ナル手段ヲ執リツツアリ而シテ若シ露国カ支那ノ内乱ヲ助成シ其ノ成功ニ期待ヲ繋クトモ右ハ必ス失敗スヘシ云々ト述ヘタリ

支、奉天ヘ転電シ南京ヘ暗送シ哈爾賓ヘハ奉天ヨリ暗送アリタシ

編注　「収入ハ」の後に「寧ロ」との書き込み訂正あり

295　昭和4年11月20日　在奉天林総領事より幣原外務大臣宛（電報）

邢士廉の対ソ直接交渉による解決希望および条件など談話について

奉　天　11月20日後発
本　省　11月20日後着

第六九七号
往電第六九三号ニ関シ
本二十日邢士廉カ特ニ極秘ナリト前提シテ森岡ニ語レル処左ノ通
過般東支問題ニ関シ奉天ニ於テ巨頭会議開催ノ際ハ南京政

府ノ威力相当尊重スヘキ事態ニアリタルヲ以テ其ノ意思ヲ考量シテ暫ク現状ノ儘形勢観望ノ事ニ決シタル処地方的交渉ノ主張者タル張作相カ引続キ当地ニ止マリテ単独交渉急速解決ヲ力説シ居ルト同時ニ戦局上国民政府ノ信望次第ニ失墜シ露国側ノ態度益々硬化スルニ至リタル結果張學良モ愈単独交渉開始ノ決心ヲ為シ最近国民政府ニ対シ正式ニ諒解ヲ求メタルニ王正廷ヨリ南京側ニ於テハ戦事重大ニシテ本件ヲ顧ミルノ遑ナキニ付東支問題解決ニ関スル根本妥協条件並ニ交渉ノ辨法大綱ノ決定ハ張學良ニ一任シ度尤細目ニ関シテハ今後随時南京側ニ協議アリタシトノ諒解ヲ与ヘ来レリ依テ奉天側ニ於テハ従来ノ如ク独逸ヲ経由スル事ナク成ルヘク速ニ直接露国政府ニ接近ヲ計ル筈ナルカ妥協条件ハ露国側従来ノ主張ニ係ル共同宣言発表前ニ正副局長任命就任ノ件ヲ承認シ必要ニ依リテハ呂榮寰ヲモ免職スヘク交渉地点ハ哈爾賓ノ豫定ニシテ最初露国政府ニ接近ノ方法トシテハ哈爾賓ヨリ無電ヲ以テ「チタ」駐在露国代表ニ妥協ノ申込ヲ為スコトトナルヘク支那交渉代表者トシテハ顧維鈞ハ当分出馬ヲ肯セサル事情アルヲ以テ露語又ハ仏語ニ堪能ナル人物ヲ他ニ物色シ適任者ナキ時ハ南京ヨリ派遣ヲ受クル腹案ナリ露国ヘノ妥協申込ハ早ケレハ向フ四、五日内ノ見込ニシテ自分一己ノ観測ニ依レハ呂榮寰免職ノ場合ハ後任ニハ十中八九高紀毅任命セラルヘシ云々

上海ヨリ南京ヘ哈爾賓ヨリ滿洲里、齊々哈爾ニ転電セシム

北平、上海、吉林、哈爾賓、天津、長春、在露大使ヘ転電セリ

296 昭和4年11月25日 在米国出淵大使より幣原外務大臣宛(電報)

スチムソン国務長官が中ソ関係の悪化に鑑み不戦条約に基づく措置を米国単独にて行う旨意志声明について

ワシントン 11月25日後発
本省 11月26日後着

第四四九号（至急）

往電[1]第四四八号ニ関シ

二十五日国務長官ノ求メニ応シ往訪シタル処長官（「ジョンソン」同席）ハ米国側来電ニ依レハ最近露国ノ態度ハ着々硬化シ来リ漸次支那ノ領土ニ侵入シ現ニ海拉爾ニ迄爆

弾ヲ投下シ居ル趣ニテ支那側ハ興安嶺以東ニ撤退セル様子ナル処「ジョンソン」ノ語ル所ニ依レハ日本側ノ報道モ大体右ヲ「コンフアム」スルモノノ如ク（長官ト会談ノ直前「ジョンソン」ヘ面会シ貴電第三八四号ノ趣旨ヲ告ケ置キタリ）事態極メテ重大ナリト認メラル抑々東支問題発生ノ当日自分ハ支那ノ遣口ヲ不都合ト認メ右趣旨ニテ支那側ノ注意ヲ喚起シタルコトアル処今回ハ其ノ曲露国側ニアルモノノ如シ而シテ事茲に到リタル上ハ米国トシテハ不戦条約ノ関係上之ヲ黙過スルコト甚タ困難ニシテ何トカ措置ヲ執ラサルヘカラサルヘシト思考シ不取敢御相談ノ為貴大使ヲ煩ハシタル次第ナリト述ヘタリ依テ本使ハ最近露支間ノ形勢悪化シ来レルコトハ大体事実ノコトト思ハルルモ自分ノ有スル報道ハ主トシテ支那側ノ情報ニ基キタルモノニシテ果シテ如何ナル程度迄正確ナルヤ判断シ難ク将又差当リノ措置ニ付テハ只今別段考モ浮ハサルカ仮リニ露支両国ニ対シ再ヒ警告ヲ発スルトシテモ支那ノ現状及露国側ノ態度ニ鑑ミ何処迄効果アルヤ疑問ト思考スルカ貴長官御心配ノ次第早速東京ニ報スルト共ニ本国政府ノ有スル最近ノ情報時局ニ対スル本国政府ノ措置振リ等ヲ尋ヌルコトトスヘシト告ケ置キタリ

(二)長官ハ前回仏国ヲ介シ露国側ニ警告ヲ与ヘタル処却而干渉呼ハワリサレ迷惑シタルコトアリ

今[2]回ハ何等警告ヲ為スカ如キ場合新聞等ニ依リ直接輿論ニ訴フルノ外適当ナル方法ナカルヘシト考ヘ居ル処右ニ対スル貴見如何ト述ヘタルニ付本使ヨリ露支両国ハ一種ノ低能国トモ称スヘク彼等ニ対シ輿論ニ依ル警告ヲ与フルモ幾許ノ効果アルヘキヤ甚タ疑問ナルノミナス仮ニ右警告ヲ与ヘ何等効果ナキカ如キコトトナラハ却テ不戦条約ノ価値ヲ毀損スルカ如キ結果ヲ来ササルヘキヤト一応ノ意見ヲ述ヘ其ノ点ハ兎ニ角トシ米国トシテハ右警告ヲ為ス積リナルヤ又右ハ関係国ト協議ノ上之ヲ行ハムトスル次第ナリヤト尋ネタルニ長官ハ列国ト協議スルニ於テハ自然時ヲ要スルノミナラス又或ハ何レカノ国ヲ「エンバラス」スルカ如キ懸念モアリ旁今回ハ全ク不戦条約ノ成立ニ就キ特殊ノ関係ヲ有スル米国ノ立場ヨリシテ単独ニ行フ方適当ナルヘキカトモ考ヘツツアリ尤モ貴大使ノ御問合セニ対スル貴国政府ノ御返事ハ相成ルヘクハ待チタキ考ナルモ御承知ノ通ノ米国国情上取急キ単独措置ニ出ツルノ已ムヲ得サルニ至ルカ如キ

コトトナルヤモ計リ難キニ付其ノ辺特ニ御諒解ヲ得タシト述ヘ尚米国トシテ満洲ニ対シ直接ノ利害関係ハナキモ不戦条約ノ手前今回ノ如キ事態ノ発生ニ対シ無関心タルヲ得サル次第ニ付愈々単独措置ニ出ツルカ如キコトアリトスルモ不戦条約ノ関係以外何等他意アルニ非サルニ付日本側ニ於テ万々誤解セサラムコトヲ切望スト繰返シ最後ニ尤モ叙上御話シタルコトハ之ヨリ大統領トモ協議シ何分ノ決定ヲ為ス筈ニ付改メテ御知ラセスルコトトスヘシト述ヘタリ

(三)右会談後更ニ「ジョンソン」ト話合タルカ其ノ際同次官補ノ口吻ニ依レハ長官ハ支那各地米国代表者ノ来電及本朝ノ新聞電報等ヲ読ミ相当驚キ不取敢本使ニ相談シタルモノノ如ク未タ本使以外ノ外国使臣ニハ何等会談ノ運ニ至ラサル模様ナリ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

仏ニ転電シ仏ヲシテ英、伊、独、露ニ転電セシム

297　昭和4年11月26日　在米国出淵大使より幣原外務大臣宛(電報)

スチムソン国務長官が不戦条約に基く中ソ両国への警告に列国の同調方希望について

別電　十一月二十六日発在米国出淵大使より幣原外務大臣宛第四五一号

スチムソン国務長官の各国駐在米国大使への訓令写

ワシントン　11月26日後発
本　省　11月27日前着

第四五〇号（至急）

往電[1]第四四九号ニ関シ

二十六日午後「ジョンソン」国務長官ノ命ニ依リ本使ヲ来訪シ

昨日本件ニ付御相談シタル後長官ハ大統領ト篤ト懇談ヲ遂ケタルカ其ノ結果専ラ大統領ノ意嚮ニ従ヒ唯今日、英、仏、伊（独ヲ除ク）ニ於ケル米国代表者ニ対シ別電第四五一号ノ趣旨ヲ任国政府ニ申入ルル様電訓シタル旨ヲ内報シ尚「ネビル」代理大使ニ対シ直ニ外務大臣ニ面会ヲ求メ二十八日中ニ華府ニ到着スル様日本側回答振リ電報スヘキ旨指示シアル旨ヲ述ヘタリ右ニ対シ本使ヨリ態々来訪内報シ呉レタル事ニ対シ感謝ノ意ヲ表シタル後自分ハ露支間ノ形勢ニ関シ其ノ後何等ノ報道ニモ接シ居ラサルカ貴方ニテハ

新ラシキ情報ヲ入手セラレタルヤト尋ネタル処「ジョンソン」ハ左シタル報道ニ入手シ居ラスト答ヘタリ

次[2]テ本使ヨリ「ネビル」ニ対シ二十八日中ニ華盛頓ニ接到スル様回電セヨ他ノ(ママ)御註文ハ日米間ノ距離ノ関係ニモ顧ミ無理ナルヘシト述ヘタルニ「ジョンソン」ハ之ニ気付キタルモノノ如クナリシモ二十八日ヲ限ル訳ニハ非ス実ハ国務長官ハ本二十六日夜紐育ニ先約アリタル為正午同地ニ向ケ出発セルカ引続キ感謝祭ヲ「ニユウ、イングランド」ニテ済マシ二十九日（金曜日）ノ夜帰華スル筈ナルニ付夫迄ニ「ネビル」ノ回電接到スレハ好都合ト存スト述ヘ居リタリ

将又別電第四五一号米国政府声明書全文ハ「ネビル」ヨリ閣下ニ手交スル筈ナリ

別電ト共ニ仏ヘ転電シ仏ヲシテ英、伊、独、露ニ転電セシム

（別　電）

ワシントン　11月26日後発
本　省　11月27日後着

第四五一号（至急）

露支紛争ノ最近ノ状況ヲ観ルニ右ハ不戦条約ノ精神ニ悖ルモノト認メラルルニ付米国政府ニ於テハ露支両国ニ対スル警告ノ意味ノ声明書ヲ公表シ尚適当ノ方法ニ依リ両国政府ニ対シ之ヲ忠告スル考ナリ就テハ貴国政府ニ於テモ右ニ賛同セラレ字句ノ如キハ各国政府ノ随意ナルモ其ノ精神ニ於テ同一ナル声明書ヲ発シ且同シク露支両国政府ニ対シ忠告ノ措置ヲ採ラムコトヲ希望ス而シテ右声明書公表ノ日取リハ更ニ御相談ノ上成ル可ク来週始メノ中一定ノ日ニ決シタク夫レ迄本件ハ絶対秘密ニスルコトトシタシ尚公表ノ上ハ世界的輿論ヲ作ル見地ヨリ五国政府ハ各々其ノ締約国中不戦条約ニ加入セルモノニ対シ適当ノ方法ニ依リ之ヲ通知スルコトト致シタシ

298　昭和4年11月26日　在満洲里田中（文一郎）領事より幣原外務大臣宛

満洲里のソ連軍占領状況、中国の動向、邦人の保護等について

機密公第二八八号　（12月18日接受）

昭和四年十一月二十六日

在滿洲里
領事　田中　文一郎〔印〕

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

「ソ」聯邦軍ノ当市占領当時本官ノ執リタル措置振ニ関スル件

一、戦闘行為停止ニ就テ

十一月十七日以来ノ「ソ」聯邦側ノ総攻撃ニヨリ当地ノ事態ハ極メテ切迫シタル折柄十一月二十日朝六時元交渉員代辦臚濱県知事齊肇豫ハ本官ヲ来訪シ扎賴諾爾ハ前日露軍ニ占領セラレ齊々哈爾ヨリノ援軍ハ到着ノ見込無キニ付当地軍部ハ昨夜当地ヲ撤退スルコトニ決シ既ニ撤退ヲ開始セルニ付テハ露軍ニ対シ停戦方申出ニ就キ仲介ノ労ヲ採ラレ度尚露軍ノ入市迄ハ市内ノ秩序維持ノタメ自分隷下ノ県警察及保衛団ヲ以テ之ニ任シタキニヨリ右ニ対シテ相当援助ヲ与ヘラレ度且露軍入市ノ際右警察ノ所有武器ヲ日本領事ノ手ニ於テ一時保管シ置カレ度旨ヲ申出タリ

右ニ対シ本官ハ事態ノ急ナルニ鑑ミ大体右申出ヲ承諾シ市内ノ秩序維持ニ対シテハ支那官憲ニ於テ其衝ニ当リ之カ諮問機関並ニ補助機関トシテ内外人代表者ヨリナル委員会ヲ設ケ具体案ヲ作製スルコト可然旨答ヘ本邦人側ヨリ三人ノ代表者ヲ出シ本官ハ直接委員会ニハ参加セス何等必要ノ場合ニハ其相談ニ応シ差支ナキ旨ヲ答ヘ置キタリ同委員会ハ支那側ハ齊委員長外二名露人側二名（内一名ハ「ソウエト」公民）等当館ニ参集シタルカ事態急変シ其直接ノ職務ヲ行フヲ得サリシカ支那兵武装解除敗兵整理休戦ノ意志表示ノ方法等ニ尽力シ又本官ノ停戦申込其他ニ関シ補助ヲナシ好成績ヲ収メタリ

戦闘行為停止ニ就テハ支那側ノ依頼ノ外折柄当館ニ会集セル前記委員会ノ露人側代表ノ希望モアリ露軍ノ攻撃ハ夜ノ明クルト共ニ初マリ砲弾ノ市内ニ落ツルモノ相継キ十数台ノ飛行機モ爆弾投下ヲ初メタルニ依リ六千市民ノ安全ヲ図ルヲ念トシ本官ハ藤野書記生ヲシテ「ソ」聯邦軍ニ対シ滿洲里居住内外人ノ依頼ニヨリ㈠露軍ハ平和ナル滿洲里市民ニ対スル戦闘行為ヲ停止セラレ度㈡右ニ関シ詳細ノ事項交渉ノ為委員ノ会同地及場所ヲ指定アリ度㈢支那兵ハ市内ヨリ既ニ撤退セリトノ三ケ条ヲ申入シムルコトトシタリ然ルニ右一行ノ出発セサルニ先チ歩兵第十五旅長兼東省鉄路護路軍哈滿（ママ）司令梁忠甲ハ退路カ敵ニ阻マレ目的ノ方面ニ行クコトヲ得サルニヨリ引返シ来レリトテ幕僚及敗残ノ将校兵士二千餘ト共ニ帰リ来リ来館ノ上本官ニ対シ事態愈々斯ノ如クナリタルニ付武器ヲ引渡スニ付右露軍ニ申入方可然取計アリ度旨申出タリ

依テ本官ハ其決意ヲ確メタル上之ヲ承諾シ一方ニハ人ヲシテ同司令ニ対シ支那軍部ヨリモ直接軍使ヲ露軍ニ送ルコトヲ勧説セシメ他方露軍ヘノ申入条件中前記第三項ヲ支那軍ハ武装ヲ解除シ戦意ナキヲ示シ居レリトノ意味ニ変更シ藤野書記生ニ邦人猪口三造支那側代表趙氏ヲ同行シ至急出発セシムルコトトセリ一行ハ市消防用自動車ニ乗リ日丸ノ国旗ヲ掲ケ九時二十分銃砲丸ノ飛来スル中ヲ侵シテ第八十六待避駅ニ向ヘリ

第八十六待避駅ニ於ケル露軍ノ前線指揮官ハ藤野一行ヲ直チニ接見シ当方ノ申出ヲ聴キ後方ニ在ル滿洲里方面「ソウエト」諸兵司令部ト打合ノ上㈠支那側ニ於テ戦闘行為ヲ停止スルナラハ「ソウエト」側モ停止スヘキモ支那軍ノ一部隊タリトモ戦闘行為ヲナスニ於テハ「ソウエト」側モ之ニ応戦スルコトアルヘシ㈡戦闘行為停止ニ関シ交渉ノタメ支那側ヨリ梁司令及齊県長出張アリ度尚藤野書記生モ右紹介ノタメ同行セラレ度旨ヲ答ヘ邦人及支那人ヲ留置キ藤野ノミヲ帰滿セシメタリ而シテ此時分即チ十時頃ヨリ「ソウエト」側ノ砲撃及爆撃ハ漸次止ミタリ

本官ハ「ソウエト」側ノ回答ヲ直チニ梁司令ニ伝ヘタルカ支那委員一行ノ出発前ニ当地扎賴諾爾ノ中間ニアリタル当方面「ソ」軍最高幹部タル赤軍諸兵集団司令部（司令官軍団長「ウオストルツエフ」）ヨリノ軍使来リ

梁司令及齊県長ト会見ノ上第八十六待避駅方面ニアル露軍司令部ハ本件ノ如キ重要問題ヲ決定スヘキ権限ナキニ付前記司令部ト交渉スルコトトナリタル趣ナルニ付本官ハ右軍使ニ面会ヲ求メ第八十六待避駅ニ藤野ヲ派遣セルニ至レル事情ヲ説明シ今露支両国当事者間ニ直接交渉開始ノ運ニ至レルニ於テハ当方ノ任務ハ終了シ本件ニ就テハ今後関係ナキ旨ヲ述ヘ第八十六待避駅ニ止レル当方代表者ヲ引取シムル方法ヲ講シタリ

（此際梁司令及齊県長共当館ニ在リ露軍々使トノ会見ハ当館ニ於テスルハ便ナラサルコトヲ申聞ケタルモ梁氏等ハ自分等ハ今行クニ所ナク且ツ戸外ニ於テ会見スルモ衆人環視ノ裡ニテ面白カラス尚周囲ニ密集セル兵士等ノ動揺モアル

ニ依リ是非当館内ニ於テ会見ヲ許容セラレ度旨申出タルニ付露軍々使ニモ差支ナキヤヲ確メタル上双方共武器ヲ携帯スルコトナク当館応接間ニ於テ会見シタリ当方ハ此際臨席セサリキ）

二、支那側ニ対シ執リタル措置

㈠梁司令ハ停戦ニ関シ移牒方依頼ノタメ来館シタル儘当館ヨリ容易ニ辞去セス露軍トノ交渉ニ際シテモ護路軍参謀長ヲ代理トシテ遣ハシタルヲ以テ「ソ」聯邦側ニ於テハ司令自ラ交渉ニ当ルニアラサレハ交渉ヲ為サストテ司令ノ出席ヲ要求シ来レル由ナリシヲ以テ本官ハ同司令ニ対シ此種交渉ニハ司令自ラ其衝ニ当ルコト当然ニシテ残存軍隊及市民ノ生命ノ安全ヲ期スル為ニモ司令ノ出席ヲ必要トスル旨ヲ勧説シタル結果同氏ハ午後四時頃漸ク辞去セリ

㈡梁司令ニ附随シテ逃ケ帰レル支那兵約二千ハ当館ヲ唯一ノ安全地ト思惟セルモノノ如ク狼ニ追ハレタル羊群ノ如ク当館ノ周囲街路ニ充満蝟集シ居リシカ彼等ハ未タ武装ノ儘ナリシヲ以テ館員及当館ニ在リシ前記委員等ヨリ武装解除ヲ安全ナリトシ司令部員ニ対シ武装解除方ヲ勧説シタル処折柄ノ砲弾ノ落下ニ震駭シ居タル支那兵等ハ直チニ所ヲ撰ハス小銃弾薬手榴弾等ヲ投ケ出シ武装ヲ解除セリ

然シ彼等ノ不安ハ容易ニ去ラス依然当館ノ周囲ニヒシメキ居レルヲ以テ午後一時本官ハ玄関ニ立チ出テ之等兵士ニ対シ露国側ハ支那側ノ希望ヲ入レテ攻撃ヲ停止シ既ニ露支両国当事者間ニ交渉モ行ハレ居リ兵士等ノ生命ノ安全モ抵抗セサル限リ保証セラレ居ルヲ以テ安心シテ所属隊長ノ指定スル場所ニ赴キ静穏ヲ旨トシ成行ヲ待チ決シテ暴行ヲナスヘカラス然ラスシテ支那側ヨリ一発ニテモ発砲スルニ於テハ露軍ヨリモ之ニ応射スルコトトナリ生命ノ安全ニモ影響ヲ来スヘシトノ意味ヲ演説シタリ之ニ依リ彼等モ大ニ安心シタルモノノ如ク感謝ノ意ヲ表シ漸次散開セリ

此間一部ノ兵士ハ掠奪放火ヲ初メタルヲ以テ本官ハ尚未タ当館玄関ニ座リ込ミ居タル支那司令部員並ニ将校等ニ対シ掠奪ヲ取締リ兵ヲ纏メテ兵営其他適当ノ地ニ於テ恭順ノ意ヲ表スルノ必要ヲ強硬ニ力説シタリ将校等モ漸ク之ニ従ヒ当館ヲ去リシカ其取締及指揮ノ効果少カリキ

㈢支那軍ノ解除セル武器ニ就テハ本官ハ交渉ニ参加セス且ツ露支当事者ノ交渉モ成立セサル間即チ午後二時ニ「ソ」聯邦軍入市シ占領ノ形トナリタルヲ以テ当方ノ関与スヘキ限ニアラストナシ戸外ニアルモノハ先方ノ自由収容ニ任セ当館玄関ニ支那将校等ノ遺留セル短銃其他ノ武器ハ支那将校ノ遺留品トシテ同日午後五時頃「ソウエト」軍憲ニ引渡シタリ

二十日事態急ヲ告クルヤ支那要人ヨリ其婦女ノ保護方願出アリタルニ付本官ハ一時当館舎筋向ノ映画館ヲ借リ受ケ之ニ収容シタルモ露軍ノ攻撃激烈トナルヤ彼等ハ自然ニ其処ヲ立出テ当館構内ニ避難セントシテ附近ニ集リ来リ邦人其他ノ出入ノ度毎ニ其跡ニ従ヒ構内ニ潜入セルモノ数百人アリ夕方ニ至リ露軍ノ入市ニヨリ市内ノ秩序着キタルニヨリ露人ノ大部分及一部支那人ノ帰宅スルモノアリタルモ尚残留シテ邦人ノ収容所タル当館隣接ノ劇場内ニ夜ヲ過シタルモノ三百人弱アリタリ二十一日朝之等ニ対シ市中モ秩序着キ既ニ平静ニ帰シタレハ危険モナカルヘキニ付各自帰宅シタル方宜シカルヘシト勧説シタル処何レモ同日中ニ立去リタリ無国籍露人中ニハ当館ニ庇護ヲ願出タルモノアリタルモ本官ハ当地ノ事情トシテ到底最後マテ庇護シ得可クモアラス又本人自身ノ立場ヨリスルモ逃ケ匿ルル様ノコトナク各々自宅ニアリテ他意ナキヲ示ス方得策ナルヘシト説キ聞カセ之ヲ拒絶セルニヨリ当館ニ潜伏セル支那人及白系露人等ハナカリキ

尚邦人ニ対シテモ露国側ノ疑惑ヲ招カサル様此際露支人ヲ隠匿スル様ノコトナキ様訓諭シ置キタリ

三、邦人ノ保護ニ就テ

十九日朝九時半（編注）一砲弾二道街日本「ホテル」ノ客間ニ落下シ為メニ邦人旅客一名負傷シ女子一名即死シ爾来市中ニ落下スル砲弾増加セルヲ以テ本官ハ当館隣接ノ劇場ヲ借入レ希望邦人ノ避難ヲ許シタルカ午後四時頃ニ至リ市外ニ歩兵ノ接戦ヲ見ルニ至リタルヲ以テ砲弾ノ小康ヲ待チ邦人ノ当館ヘ避難スル様命令ヲ発シタリ

右避難民ニ対シテハ二十三日朝現下ノ事情ヲ説明シ食糧及燃料ノ節約方ヲ訓示シタル上帰宅差支ナキ旨ヲ示達セリ

海拉爾ノ居留民ニ就テハ本月十一日及十二日強盗事件アリタルヲ以テ右調査ノタメ十五日伊藤巡査部長ヲ出張セシメ置キタル処十七日午前九時電信鉄道等ノ交通聯絡全ク絶ヘ

タルヲ以テ事情不明ナリ尚「ソウエト」側軍憲ニ就キ居留民ノ安否通報方依頼シ置キタルモ未タ何等ノ回報ナシ

扎賴諾爾ニハ邦人九名居住シ居ル処二十日「ソウエト」軍司令部ヨリ孰レモ安全ナル旨通知アリタルカ同地ハ戦禍ヲ蒙ルコト甚シキ趣ナルニ付軍部ノ許可ヲ取付ケ二十六日署員一名及民会評議員一名ヲ同地ニ遣シタル処同地邦人ハ全部無事ニシテ六名ハ現地ニ滞留シ婦女子三名ノミ当地ニ引揚クルコトトナリタリ

右報告申進ス

本信写送付先　在露大使　在支公使　在浦鹽総領事

編注　「半」の箇処に「十分」との書き込み訂正あり

299　昭和4年11月27日　幣原外務大臣　汪中国公使　会談

幣原外相が中国の中東鉄道紛争の国際聯盟への提訴に疑義表明について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣、汪支那公使会談要録

昭和四年十一月二十七日汪支那公使幣原大臣ヲ来訪シ王外交部長ノ電訓ニ依ル趣ヲ以テ

最近露国ハ満洲里方面ニ於テ侵略的行動ヲ開始シ「ジャライノール」、「ハイラル」方面迄兵ヲ進メ来タレリ依テ支那政府ハ自国防衛ノ方法ヲ取ルト共ニ国際聯盟ニ訴フルコトニ決シタリ日本ハ国際聯盟ニ於テ常任理事国タル地位ヲ有シ居ラルルニ付若シ本問題カ聯盟ニ附議セラレタル場合ハ支那ニ対シ同情的態度ヲ取ラレンコトヲ望ム

ト述ヘタリ

依テ幣原大臣ハ

自分ハ固ヨリ本問題ニ付支那ノ国際聯盟ニ訴フルコトヲ阻止スヘキ立場ニ在ラサルモ之ヲ支那ノ為ニ計ルニ本問題ヲ聯盟ニ附議スルコトカ果シテ支那ニ取リ有利ナリヤ否ヤニ付テハ多大ノ疑問ヲ有ス惟フニ聯盟ニ於テ支那ノ訴ヲ受理セハ露国代表者喚問ノ要アルヘキ処非聯盟国タル露国ハ資本主義国ノ集団ト認ムル聯盟ノ喚問ニ応スルコトナカルヘシ然リトテ聯盟ニ於テ兵力ヲ以テ露国ヲ圧迫シ之ニ応セシムルコトハ実際行ハレ得ヘキコトニ非ス従テ支那ノ出訴ハ聯盟ヲ困惑セシムルニ止マリ聯盟トシ

テハ結局支那ニ於テ先ツ露国ト直接交渉ヲ試ミンコトヲ勧告スルノ外ナカルヘク斯クノ如キ勧告ハ毫モ支那ノ立場ヲ有利ナラシムルニ足ラサルヘシ今ヤ支那ハ日本ト共ニ聯盟ノ一員トシテ聯盟ノ権威ヲ高カラシムルコトニ努ムヘキニ拘ラス徒ラニ聯盟ヲ困難ナル立場ニ陥ラシメ而カモ支那自身ニ実利ヲ齎ラササルカ如キ措置ヲ執ラントスルハ如何ナル訳ナリヤ自分ハ支那ノ為ニ考ヘテ本問題ヲ聯盟ニ付託スルノ得策ナルコトヲ信スルコト能ハス王部長ノ電訓ニ対スル所見ハ右ニ止メ此上ハ全然友人間ノ私談トシテ附言シ度キコトアリ先日王部長ハ日本領事ニ対シ支那側ハ露国ノ主張スル管理局長ノ即時任命ニハ異存ナキモ唯右ニハ露人局長ハ支那人副局長ト協同シテ職務ニ当ルヘク特ニ人事及会計ニ関シテハ支那人副局長ノ副署ヲ要ストノ条件ヲ附スルコト絶対ニ必要ニシテ然ラサレハ管理局長カ宣伝ノ為恣ニ金銭ヲ使用シ支那ノ治安ヲ擾乱スル懸念アリト語ラレタル趣ナルカ先日露国大使ニ会見ノ際右ノ如キ条件ノ下ニ局長ノ即時任命ヲ承諾シ得ルヤト尋ネタル処露国大使ハ何レノ銀行、会社ト雖モ支配人カ二人併立シテハ円満ニ業務ヲ遂行シ得サルヘシト述ヘタリ露人局長ノ専横ヲ制スル方法ヲ講スルノ必要ハ固ヨリ之レアルヘキモ右局長問題ニ関スル露国大使ノ所言ハ理由アルコトト考ヘタル次第ナルカ前述ノ王部長ノ意見ハ殆ント最終的ノモノト思ハレタルニ依リ同大使トノ話合ハ其儘打切リ置キタリ此際貴公使ニ於テ露支両国間ニ於ケル当面ノ争点ニ付自分ノ忌憚ナキ意見ヲ問ハルルナラハ自分ハ露国ハ徹頭徹尾原状回復ヲ主張シテ譲ラス他方支那ハ

一九二四年協定ノ効力ヲ認メルモノナルニ鑑ミ支那側ニ於テ先ツ無条件ニテ露人局長ノ即時任命ヲ承認シ其ノ専横ヲ防止スル方法等ニ付テハ追テ露支両国間ノ直接交渉ニ依リ之ヲ協定スルノ外ナシト考フルモノナリ

ト述ヘラレタル処汪公使ハ

実ハ露人管理局長ノ専横ヲ防止スル為ニハ理事会存スルモ理事会ハ露支人五名宛ヨリ成リ意見ノ一致ヲ見得サル為右ノ目的ヲ達スル上ニハ甚タ非実際的トナリ居ル次第ナリ

ト述ヘタルニ依リ幣原大臣ハ

然ラハ外ニ実際的方法ヲ考案サルレハ宜シカルヘク何レ

ニスルモ先ツ交渉ヲ開始スルニ非サレハ其ノ方法ニ付協定スル途ナカルヘシ

尤モ以上ノコトハ日本政府ノ意見トシテ勧告スル次第ニハ非サルニ付誤解ナカランコトヲ望ム

ト述ヘラレタル処汪公使ハ

貴意ノ在ル処ハ良ク了解セリ尚之ハ全クノ私談ナルカ最近湯爾和ヨリ張學良トシテハ速カニ紛争ノ解決センコトヲ希望シ居ルヲ以テ恐ラク遠カラス張カ中心トナリテ露国ト直接交渉ヲ開始スルノ運トナルヘシ其ノ節ハ幣原大臣ノ好意的斡旋ニ俟ツ外ナキ次第ナルカ同大臣ニ於テハ如何ナル程度迄斡旋ノ労ヲ取ラルル御意嚮ナリヤ確メラレタシトノ通信ニ接シタル処右ニ付貴大臣ハ如何ニ考ヘラルルヤ

ト述ヘタリ

依テ幣原大臣ハ

裏面ニ於テ露支両国政府ノ話合ヲ進渉セシムル為御世話スルコトハ喜コンデ之ヲ為スヘキモ表面ニ立チテ仲介又ハ斡旋ヲ為スコトハ却テ悪結果ヲ齎スヘシト考フルニ依リ之ヲ欲セス何レニスルモ自分カ仲介又ハ調停ニ立ツコト世間ニ知ルルニ於テハ其ノ効用ヲ失フニ至ルヘシト注意セラレタリ

300　昭和4年11月27日　幣原外務大臣　ネヴィル米国臨時代理大使　会談

幣原外相が米国による中ソ両国への公式警告は回避すべき旨意見表示について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣、米国代理大使会談要録

昭和四年十一月二十七日午後六時「ネヴィル」米国代理大使幣原大臣ヲ来訪シ在米出淵大使発幣原大臣宛電報四五一号ノ趣旨ヲ述ヘ右ニ対スル幣原大臣ノ意見ヲ求メタリ

依テ幣原大臣ヨリ

新聞報ニ拠レハ支那政府ハ満洲里方面ニ於ケル露軍最近ノ行動ニ付露国ノ罪ヲ鳴ラシテ列国政府ニ訴フル覚悟ナルコトヲ公言シツツアルニ当リ列国ヨリ露、支両国ニ対シ公ニ警告ヲ発スルニ於テハ露国ハ列国カ支那ノ訴ニ耳ヲ仮シテ之ニ偏頗ナル好意ヲ表スルモノナリト推測シ露国ノ態度ハ一層硬化シテ紛争ノ平和的解決ハ益々困難トナルノ虞ナキヤ此点ハ目下露、支両国共ニ其ノ国民的感情極メテ激発シ易キ事態ニ在ルニ顧ミ自分トシテハ私カニ憂慮ナキ能ハス如之露国側ハ元来先決問題トシテ原状回復ヲ要求シ一旦原状ノ回復セラレタル上ハ直ニ露、支直接交渉ニ依リテ一切ノ紛争ヲ解決セントスルノ用意アルコトヲ再三声明シタルニ拘ラス支那側カ右先決問題ノ要求ニ無条件ノ同意ヲ与ヘス遷延ヲ重ネテ今日ニ至リタルニ憤慨シ交渉促進ノ為今回ノ挙ニ出テタルモノト認メラルルヲ以テ此際日本政府ヨリ右公式警告ヲ露国ニ与フルトキハ露国ハ之ニ対シ然ラハ支那ニ於テ如何ニ遷延策ヲ執ルトモ露国トシテ無期限ニ隠忍スヘキコトヲ求メラルルヤ将又日本政府ニ於テ別ニ支那ノ遷延策ヲ阻止スルノ方法ヲ講セラルヘキヤト反問シ来ルヘク其ノ場合ニハ自分トシテ答ニ窮セサルヲ得ス尤モ自分ハ従来本問題ニ関シ絶ヘス露国大使及支那公使ト接触ヲ保チ両国ノ直接交渉ヲ促進センカ為屢々非公式ニ腹蔵ナク双方代表者ニ意見ヲ開陳セル行懸アリ今後モ同様ノ努力ヲ続クル積リニテ米国政府提議ノ趣旨ニハ全然賛成スルモノナルモ其ノ目的ヲ達スル方法トシテハ公ノ警告ヲ与フルカ如キ形式ハ成ルヘク之ヲ避ケ目立タサル非公式懇談ニ於テ露、支両国ノ注意ヲ喚起スルコトトシタシ尚事実上ニ於テ露軍ハ其後進撃ヲ続クル模様ナク既ニ露国国境内ニ引揚ケツツアリトノ報道サヘアリ他ノ一方ニ於テ東三省官憲ハ南京政府ノ承認ヲ得テ露国ト直接交渉ヲ開始セントスル計画モ準備進行中ナルヤニ聞及ヒタリ

ト述ヘラレ何レニスルモ右ハ自分ノ当座ノ思付ナルカ更ニ熟考ヲ加フヘシト述ヘラレタル処米国代理大使ハ然ラハ二、三日中ニ今一回貴見ヲ伺フコトトシタシト述ヘ辞去シタリ

301　昭和4年11月28日　在奉天森島総領事代理より幣原外務大臣宛(電報)

張学良が中国側の敗北を自認について

奉　天　11月28日後発
本　省　11月29日後着

第七一九号

張學良ハ本日昨二十七日附ヲ以テ各法団及新聞社等ニ扎來

諾爾方面ノ戦況ニ関シ通電ヲ発シ居ル処其ノ内容中支那軍ハ勇敢ニ戦ヒタルモ露軍ハ武器及兵数ニ於テ勝リ居ル為遂ニ扎來諾爾ニ於テハ一旅ノ三分ノ二ヲ失ヒ又滿洲里方面ノ軍隊ハ退路ヲ絶タレ行衛不明ナリ等戦敗ヲ明カニ告ケ国防ニハ全力ヲ尽スモ一地方ノ兵力ヲ以テ全露ノ軍隊ニ当リ居ル窮状ヲ述ヘ居ル等支那側常例ノ通電トシテハ極メテ其ノ型ヲ破リ居ル点ヨリ見ルニ學良カ単独交渉ノ已ムヲ得サリシ申訳ニナス底意ナルヤト思料セラル

支、上海、南京、哈爾賓ヘ転電シ長春、吉林ヘ暗送セリ

302 昭和4年11月(29)日 在英国松平大使より幣原外務大臣宛(電報)

中ソ紛争に関する米国提議への英国の反応について

ロンドン 発
本 省 11月29日前着

第四四七号

二十七日下院ニ於テ一議員ヨリ政府ハ露支紛争ヲ不戦条約ニ依リ解決スルノ意向アリヤト質問シタルニ対シ外相ハ不戦条約ハ戦争廃棄ヲ誓約シタルノミニテ右違反ヲ処理スヘキ機関ヲ有セス但シ支那政府ハ国際聯盟ニ訴ヘントスルモノト了解シ居ル旨ヲ答ヘ又前外相「チャンバーレン」ヨリ本件ニ就キ何等提議アリタルヤト質問シタルニ対シ外相ハ先般本件ノ当初ニ於テ米国ヨリ交渉アリタルニ対シ英国政府ハ本件平和的解決ヲ期スル何等共同動作ニ参加ヲ辞セスト回答シ置キタルカ其ノ後同国ヨリ何等ノ交渉ナキモ或ル他ノ一政府ヨリ電報ニテ申出テアリタルカ共同動作ヲ執リ得ル場合ニハ之ニ参加スルノ用意アリ尚英国側ヨリ米国ニ対シ交渉ヲ「イニシエイト」スルコトニ関シテハ更ニ考慮スヘシ目下考ヘ居ルハ米露ヲ含ム不戦条約国トノ共同行為ナリト答弁シタリ

露ニ転電セリ

303 昭和4年11月29日 在独国長岡大使より幣原外務大臣宛(電報)

不戦条約に基く米国の中ソ両国への警告提案に関する独国の対応について

ベルリン 11月29日後発
本 省 11月30日前着

第一六九号

往電第一六八号ノ成行ニ付二十九日「トラウトマン」ノ東郷ニ語ル所左ノ通リ

二十八日午後在当地米国大使館ヨリ東支紛争事件ニ付不戦条約ヲ引用シ共同シテ一種ノ警告ヲ発セントスル提議ニ接シタルカ独逸政府トシテハ最近労農政府ニ取次キタル南京政府声明(往電第一六六号)ノ結果ニ付通報ヲ受ケ居ラサルノミナラス「リトビノフ」張學良間ノ取極等ノ事情モアリ事態ヲ突止メタル上ナラテハ回答シ難ク在東京独逸大使ヘモ貴大臣ノ御意向ヲ確ムヘキ旨訓令セルニ付此等事態ノ明カトナリタル上米国ヘハ回答シタキ考ナリ

露、米ヘ転電シ英、仏、伊、白、土ヘ暗送セリ

304 昭和4年11月30日 幣原外務大臣フォレッチ独国大使 会談

幣原外相が中東鉄道紛争の国際聯盟への提訴および米国提議に付不同意の旨表明について

露支紛争ニ関スル幣原外務大臣、独逸大使会談要録

昭和四年十一月三十日「フオレッチ」独逸大使幣原大臣ヲ来訪シ

二十六日支那政府ヨリ独逸政府ニ対シ辺境方面ニ於ケル事件ハ之ヲ第三国人ヲ議長トスル調査委員会ノ審査ニ附シ右委員会ノ調査終了ヲ見ル迄露支両国ハ其軍隊ヲ国境ヨリ三十哩ノ距離ニ撤退セシムヘク調査委員会ノ審査ノ結果ニ依リ本事件ハ之ヲ第三国ノ裁定ニ委ストノ趣旨ノ提案ヲ露国政府ヘ転送方依頼シ来リタルニ依リ独逸政府ハ之ヲ露国政府ヘ取次キ置キタルカ右ニ対シテハ未タ露国側ヨリ何等回答ニ接セス然ルニ支那政府ハ更ニ同一事件ニ付国際聯盟ニ訴フルコトニ決シタル旨申越シタルニ依リ独逸外相ハ右ニ対シテハ「イヴェイシヴ」ニ応酬シ置キタリ他方在伯林米国大使ヨリモ独逸政府ニ対シ露支両国ニ対シ公ニ警告ヲ発センコトヲ提議シ来リタルニ依リ独逸外相ハ米国大使ニ前記支那政府提案ヲ露国政府ヘ伝達シタル事実ヲ伝ヘ従テ其ノ結果ヲ見ルコト然ルヘク此際露支両国ニ向ヒ公式ニ警告ヲ発スルコトハ時期尚早ト認ムル旨米国大使ヘ回答シタリ

ト述ヘ右ニ対スル幣原大臣ノ意見ヲ求メタリ

依テ幣原大臣ハ独逸大使ニ対シ
支那政府ハ一方ニ於テ問題ノ解決ヲ調査委員会ニ附セン
コトヲ露国政府ニ提案スルト同時ニ他ノ一方ニ於テ同一
問題ヲ国際聯盟ニ付託セントスルハ抑モ如何ナル意味ナ
リヤ自分ノ了解ニ苦シム所ナリ実ハ我方ニ対シテモ先日
支那側ヨリ本件ヲ聯盟ニ付託スルコトニ決シタル旨申出
テタルニ付之ニ対シ明白ニ「デイスカレッジング」ナル
回答ヲ与ヘ置キタリ
トテ往電合第七〇七号ノ趣旨ヲ伝ヘラルルト共ニ(編注一)
他方米国政府ノ提議ニ対シテハ自分ハ独逸外相ヨリモ一
層「スペシイフイツク」ナル意見ヲ述ヘ置キタリ
トテ往電合第七〇〇号ノ趣旨ヲ内話シ置カレタリ(編注二)

編注一、二　往電合第七〇七号及び往電合第七〇〇号は共に「在米出淵大使宛」との書き込みあり。

305　昭和4年11月30日　在奉天森島総領事代理より幣原外務大臣宛(電報)

張学良はソ連側の要求に全面譲歩との邢士廉談話について

奉天　11月30日前発
本省　11月30日前着

第七二七号
往電[1]第七二三号ニ関シ
二十九日邢士廉ハ森岡ニ左ノ通内話セル処従来同人ノ談話ハ極メテ正確ナル上ニ忌憚無キ所見ヲ交ヘ居ルニ付此ノ点特ニ御含ヲ請フ
過般来蔡運升ヲシテ交渉再会ニ関シ露国政府ノ意向ヲ探ラシメタル結果大体ノ見当付キタルヲ以テ本月二十六日張學良ヨリ奉天発無電ヲ以テ露国政府ニ対シ正式ニ露国政府カ在露独逸大使ニ手交セル共同宣言修正案即㈠一九二四年ノ協定ニ基キ東支鉄道原状回復㈡新正副露国管理局長ノ即時任命㈢逮捕セル露支両国人民ノ即時釈放ノ三条件ヲ全部承認シテ速ニ平和解決ヲ計リ度キ旨申入レタル処昨二十八日露国外相代理ヨリ學良宛返電アリ右ハ露国政府ニ於テ同時ニ公表セル模様ニテ既ニ本日ノ新聞ニモ掲載セラレタルカ露国側ハ右奉天側ノ電報ヲ故意ニ曲解シテ第二項ヲ旧正副管理局長ノ復職ヲ承認セルカ如クニ引掛来タリタル為此ノ点ニ関スル態度決定ニ付昨日来學良ハ要人ヲ集メテ協議中ナルト同時ニ南京ヘモ電報照会ヲ発セリ
但[2]シ支那側ニ於テハ武力的ニ露国ニ対抗スル事不可能トナリタル今日更ニ露国ノ要求ヲ拒絶セハ益々事態ヲ紛糾セシメ結局東三省ノ存立ヲ危殆ナラシムル虞アルヲ以テ十中八九露国側ノ主張ヲ無条件ニ承認シテ即時代表ヲ哈府ニ派遣スルニ至ルヘク南京トノ協議ハ形式ニシテ王正廷カ如何ニ異議ヲ唱フルモ學良ハ之ニ頓着無ク専断決行ノ方針ナリ奉天側ヨリ哈府ニ派遣スヘキ代表ハ目下ノ処三、四名ノ豫定ニテ蔡運升丈ハ決定セルモ他ノ顔振ハ詮議中ニシテ南京ハ周龍光ヲ加ヘ度キ意向ノ如キモ本件ハ遷延ヲ許ササル事情ナルカ奉天限リニテ勝手ニ任命シ至急出発セシムヘク王正廷ニ対シテハ事後承認ヲ求ムレハ足レリ尚南京側ハ現在尚東北側ノ苦心ヲ察セスシテ露支問題ヲ国際聯盟ノ調停ニ依頼シ度シト言ヒ又東支問題発生後毎月百万元宛軍費援助ヲ約束シナカラ今回初メテ二百万元送金シ来レルニ過キサル等誠意ノ認ムルヘキモノ少ナキヲ以テ本件善後処置ニ関スル限リ南京側ニ発言権少ク従テ奉天側ハ多ク南京ノ意思ヲ尊重スルニ及ハス云々

306　昭和4年11月30日　在英国松平大使より幣原外務大臣宛(電報)

英国が不戦条約に基づく中ソ両国への米国警告案に同意について

ロンドン　11月30日後発
本省　12月1日後着

第四五三号
米宛閣下発電報第四五一号ニ関シ
三十日館員ヲシテ「ウエルズレー」次官ニ確メシメタル処英国政府ハ不戦条約ニ基ク露支両国ニ対スル警告声明ノ件ニ同意ノ旨米国政府ニ回答シタル趣ナリ
米、露ニ転電シ、仏ニ暗送セリ

307　昭和4年12月(1)日　在米国出淵大使より幣原外務大臣宛(電報)

スチムソン米国国務長官が不戦条約に基く中支、上海、南京、哈爾賓、吉林、齊齊哈爾、長春、露、漢口、廣東、天津ヘ転電セリ

ソ両国への警告実施の意向表明について

ワシントン　発
本　省　12月1日後着

第四五七号
往電第四五〇号ニ関シ[1]
二十九日夜国務長官帰還セルニ付貴電第三九二号軍縮問題ニ関スル御訓令執行ノ為三十日会見セル処長官ハ軍縮問題ニ付テハ緩リ御話シタキニ付月曜日午前改メテ会見スルコト致度シ本日ハ取急キ露支問題ニ関シ御話致シタシト話頭ヲ転シ幣原大臣ノ御意見モ一応御尤ト思考スルモ自分ノ見ル所ニテハ「ジヤライノール」ニ於テ露支間ニ戦闘行為行ハレ被害者ヲ出シタルコトハ殆ト疑フヘカラサル事実ナリ而シテ其ノ後露軍ハ自国領内ニ撤退シタルヤノ報道アルモ現ニ二十九日興安嶺附近ニ於テ飛行機爆弾投下ノ事実アリ旁露国側ハ高圧手段ヲ停止セルモノトハ認メ難ク将又奉露間ニ談合付キタルヤニ伝ヘラルルモ反対ノ報道モアリテ時局ハ依然トシテ楽観ヲ許サス既ニ「ジヤライノール」ニ於テ戦闘行為ニ出テタル以上右ハ不戦条約違反タルコト明瞭ナリ依テ自分トシテハ是非曲直ノ孰レニアルヤハ別問題トシ是非共此ノ際両国ノ注意ヲ喚起シ世界ノ輿論ニ訴フルコトヲ要ストノ考ナリト述ヘ本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ハ「ジヤライノール」附近ニ於テ戦闘行為行ハレタルコトハ事実ナルカ如キモ其ノ後時局著シク緩和セル次第ニテモアリ此ノ際警告ヲ発スルコトハ時機ヲ得サルヤニ思考ス幣原大臣ノ意見モ長官ノ提議ニ主義上賛成ナルモ今ハ警告ノ時機ニ非スト謂フニ他ナラス兎ニ角暫ク時局ノ推移ヲ注視スルコトトシテハ如何ト告ケタルニ長官ハ米国側トシテハ国論指導ノ都合モアリ此ノ上時機ヲ遷延スルコト困難トスル次第ナリト述ヘタリ
右[2]ニ対シ本使ヨリ米国政府ハ再ヒ日本政府ノ考慮ヲ求メラレタキ御考ナリヤト尋ネタルニ長官ハ今日ニ於テハ日本以外ノ関係国ハ略々自分ノ提議ニ同感ヲ表シ居ルモノト認メラルル次第ニテモアリ兎ニ角此ノ際ハ過日御話シタル自分当初ノ意見通リ米国単独ニテ本件声明書ヲ発スルコトト致サムカトモ考ヘ居リ（往電第四四九号㈡参照）実行ノ運ヒトナルヤモ知レサルニ付御諒承ヲ請フ尤モ何ノ途不戦条約ノ権威保持方ニ関シテハ此ノ上トモ日本政府ノ御協力ヲ請フ積リニ付其ノ旨特ニ幣原男ニ御伝ヘアリタキ旨申添ヘタリ
尚右会談列席ノ「ジョンソン」ノ語レル所ニ依レハ伊太利ハ英国同様五国共同ニテ声明スルコト然ルヘキ旨回答シ越シタル趣ナリ
仏ニ転電シ仏ヲシテ英、伊、独、露ニ転電セシム

308　昭和4年12月2日　在米国出淵大使より幣原外務大臣宛（電報）

スチムソン国務長官が米国の措置は不戦条約の権威のためであり満洲に容喙する意向なき旨表明について

ワシントン　12月2日後発
本　省　12月3日前着

第四六一号（至急）
往電第四五九号ニ関シ[1]
二日軍縮問題会談ノ機会ニ国務長官ハ本二日朝声明書発表ノ筈ナリシモ仏国側ノ希望ニ従ヒ明三日朝ノ新聞ニ発表シ同時ニ露支両国ニ対シ之ヲ通告スル事ニ決定シ日英仏伊独以外ノ不戦条約加入国ニ対シテモ昨一日夜本件通報ヲ了シタリト述ヘ尚今回ノ問題ニ付日本政府ノ御同意ヲ得サリシハ遺憾ナルモ幣原大臣カ卒直ニ所見ヲ開陳セラレタルハ自分ノ深ク多トスル所ナリ将又此ノ機会ニ同大臣ニ極メテ明瞭ニ御伝ヘ願度キハ今回ノ米国側措置ハ毫末モ満洲問題ニ容喙スル考ヘニ非ラスシテ全ク不戦条約権威保持ノ見地ニ出テタル次第ナル事ナリ呉々モ日本側ニ於テ誤解無カラン事ヲ望ムト述ヘタリ
尚[2]後刻「ジョンソン」ニ面会ノ節同官ハ本使ノ問ニ答ヘ仏ハ米国ト全然同文ノ声明書ヲ明三日ノ新聞紙ニ発表スルト共ニ之ヲ露支ニ通告スル事ニ決定セリ又伊ハ同シ意味声明書ヲ以テ同様ノ措置ヲ執ル筈ナリ英、独ニ付テハ判明セスト語リ又五国以外ノ不戦条約加入国五十五個国政府ニ対スル通報ハ直接華府ヨリ往電第四五一号ト同趣旨ノ電報ヲ発シタル次第ナルカ之等ノ国中米国側ト同様ノ措置ニ出ツルモノアルヤモ知レスト述ヘタリ
仏ニ転電シ仏ヲシテ、英、伊、独ニ転電セシム

309　昭和4年12月4日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛（電報）

ソ連側は米英などの声明を友好的措置と認めずと回答について

モスクワ　12月4日後発
本　省　12月5日前着

第五八七号

三日仏国大使ハ自国及米国ヲ代表シ又諸威公使ハ英国ヲ代表シ夫々在英大使発閣下宛電報第四五五号ト同一内容ノ声明書ヲ「リトヴイノフ」ニ手交シタルニ対シ蘇政府ハ即日前記大公使経由夫々左ノ要旨ノ回答ヲ発シタル旨四日公表アリタリ[1]

一、蘇聯邦ハ建国以来平和政策ヲ執リ居ルモノニシテ自衛手段ノ外曾テ軍事行動ニ出テタルコトナシ蘇聯邦ハ不戦条約ノ有無ニ拘ラス此ノ平和政策ヲ行ヒ来リ今後モ之ヲ遂行セムトスルモノナリ

二、南京政府ハ最近数年外交手段ニ依リ争議ヲ解決スルノ通則ヲ脱シ或ハ国際法ニ違反シ或ハ支那ト対等ノ立場ニ立チテ締結セル蘇聯邦トノ条約ヲ破棄スル等蘇聯邦ニ対シ挑戦的政策ヲ執レリ

三、共同経営ニ関スル現存協定ニ違反シテ東支ヲ奪取セルコトハ右政策ノ極点ナリ

四、右南京政府ノ行為カ仮ニ米国英国又ハ仏国ニ対シ行ハレタリトセハ右諸国ノ政府ハ之ヲ以テ不戦条約ノ除外例ヲ利用スル為ノ充分ナル理由ト為シタルナラム蘇政府ハ曩ニ右除外例ヲ認メサルコト並ニ之ヲ利用スル意思ナキコトヲ声明セリ

五、[2]南京政府ハ不法ニ東支ヲ奪取セルノミナラス国境ニ沿ヒ動員ヲ行ヒ反革命派ノ露人ヲ包容セル支那軍隊ハ屢々蘇聯邦領土ヲ攻撃シ良民ノ生命財産ニ危害ヲ加ヘタリ蘇政府屢次ノ警告ニ不拘右攻撃ハ却テ頻繁トナレリ之極東軍カ国境防衛ノ為良民保護ノ為対抗措置ヲ執ルノ已ム無キニ至レル所以ナリ斯ノ如ク正規軍ノ行動ハ自衛ノ為絶対必要ニ出テタルモノニシテ不戦条約ニ違反スルモノニ非ス蘇政府ニ対シ本日声明ヲ発セル列国カ有スル在支兵力コソ不戦条約ニ反セスト云フコト能ハサルモノナリ

六、蘇奉間ニ幾多条件ノ協定ヲ見蘇支紛争ニ迅速ナル解決ノ望ヲ与フル直接交渉行ハレ居ルニ当リ米国政府カ右交渉ニ対スル圧迫ト認メラルルモ何等弁解ノ餘地ナカルヘク友好的好意ト認ムルコトヲ得ス

七、不戦条約ハ個々ノ国家ノ集団ニ対シ条約ノ擁護者タル職権ヲ与フルモノニ非ス蘇政府ハ如何ナル国家タルヲ問ハス独断又ハ協議ノ上斯ノ如キ権利ヲ私スルコトニ付曾テ同意ヲ表シタコトナシ

八、蘇政府ハ蘇満紛争カ奉天政府カ現ニ同意セル条件ニ基キ蘇支間ノ直後交渉ニ依リテノミ解決セラルヘキモノナルコト並蘇政府ハ第三国カ此ノ交渉又ハ紛争ニ干渉スルコトハ許容スルコト能ハサルヲ声明ス

九、蘇政府ハ好ンテ之ト正式関係ヲ有セサル米国政府カ之ニ対シ勧告及指示ヲナスコトヲ可能ト認メラレタルコトニ付意外トセサルヲ得ス

（本項ハ仏英宛ノモノニハ省略シアル由）

英米仏ニ転電シ独ニ郵送セリ

編注「国家」の後に「及国家」との書き込み訂正あり。

310　昭和4年12月4日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

中国側米・英・仏の不戦条約に基く通告に対し同意表明について

南　京　12月4日後発
本　雀　12月4日後着

第一二〇五号

貴電合第七一四号ニ関シ

四日周龍光ノ本官ニ語ル処ニ依レハ三日在英支那公使及在支米国公使代理ヨリ英米両国政府ハ不戦条約第二条ニ基キ露支両国カ各国境ニ於ケル軍隊ヲシテ即日軍事行動ヲ停止セシメ両国間ノ紛争ハ平和的方法ニ依リ解決セン事ヲ希望スル旨ノ電報通告ニ接シタルカ本四日朝仏国政府ヨリモ同様ノ通告ニ接シタル趣ナリ尚四日ノ当地新聞ニ依レハ三日夜国民政府ハ英、米両国政府ノ本件善意的提議ニ対シ賛成及感謝ノ意ヲ表スル旨回答セル趣ナリ

右ニ関シ四日ノ中央日報ハ社説ニ於テ支那ノ不戦条約国ニ希望スル処ハ不戦条約ヲ完全破壊セル国家ニ対シ如何ナル制裁ヲ加ヘ以テ条約ノ威厳ヲ保障スヘキヤニアリテ決シテ他人ノ手ヲ借リテ露支両国間ノ問題ノ解決ヲ希望スルモノニ非ス此ノ限界ハ極メテ明ニシテ混同スルヲ得スト論シ居

レリ

支、上海、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

311　昭和4年12月4日　在ソ連田中大使より幣原外務大臣宛(電報)

カラハン奉天側と和議進行中における米国等列国の声明は不可解との見解表明について

付記一　十二月三日付

ソ連、奉天政府間中東鉄道問題紛争調整に関する議定書

二　十二月二十二日付

ソ連、中国政府間中東鉄道問題紛争調整に関する議定書

モスクワ　12月4日後発
本　省　12月5日後着

第五八八号

四日[1]「カラハン」ト会見東支事件ニ付談話ヲ交換セルカ其ノ要点左ノ如シ

一、蔡ハ「ニコリスク」ヨリ一旦帰奉シ往電第五八六号「プロトコール」ノ承認ヲ得呂督辦ノ革職ヲ終リタル後多分七、八日頃哈府ニ到着「シマノフスキー」ト監禁者ノ釈放問題及次ノ正式会議ノ場所及時日ニ付商議スル筈ナリ正式会議ハ蘇政府トシテハ莫斯科ヲ希望ス

二、現在尚満洲里及其ノ附近ノ占領ヲ継続シ居レリ之カ撤退時機ハ未定ナリ（本使カ正式会議終リ迄占領スル意思ニ非サルカト引懸ケタルニ対シ先ツ斯ル長期ニハ亘ラサルヘキモ急速撤退スルノ意ナシト答ヘタリ）占領地域ハ正確ニハ承知セサルモ海拉爾ハ一旦占領セルモ直ニ撤退セル筈ナリ（本使ハ占領ハ已ムヲ得ストスルモ我領事ト日本政府及在外公館トノ直接通信ヲ許ササルハ甚タ迷惑ナリト述ヘタルニ対シ其ノ点ハ良ク諒承セリ数日中ニハ軍部トノ間ニ便法ヲ協定シ得ルコトトナルヘシト答ヘタリ）

三、[2]往電第五八七号「ソ」政府声明書第七項ニ関スル本使ノ質問ニ対シ不戦条約調印国ノ一部カ条約違反ト認メラルル一国ニ対シ警告其ノ他ノ処置ヲ採リ得ヘキコトヲ認ムルニ於テハ之カ一種ノ慣例トナリ或ル数国カ不戦条約ニ規定セル以上ノ権利ヲ行使スルコトヲ認ムルノ結果トナリ延テ或ル種共同機関ノ設置ヲ促スヘク斯ノ如キ傾向ハ「ソ」政府カ飽迄阻止セント欲スル処ナリ惟フニ日本ノ意嚮モ同様ナルヘシト述ヘタリ

依テ本使ハ然ラハ「ソ」政府ハ不戦条約加盟国カ条約違犯ト認メラルル国ニ対シ条約ノ規定ヲ引用シ単独ニ警告等ヲナスコトモ不可ナリトスルヤ又ハ「ソ」政府ハ条約違反国ニ対シ自ラ進テ警告等ヲナスコトアルヘキヤト問ヒタルニ対シ前者ノ可否ハ速答シ得ス後者ニ付テハ「ソ」政府トシテハ平和破壊ノ危険アリト認メタル場合ニハ必スシモ不戦条約ヲ引用セス「ソ」聯邦ノ利害ニ基キ一般平和保持ノ見地ニ立チ適当ノ警告ヲナスコトハアリ得ヘシト答ヘタリ

尚「カ」ハ今回ノ米英仏ノ声明カ恰モ奉天側ト和議進行中ニナサレタルハ甚タ不可解ナル愚案ト云フノ外ナク日本ノ賢明ナル態度ハ蘇政府ノ多トスル処ナル旨ヲ述ヘタリ

英、米、仏ニ転電シ、独、伊ヘ暗送ス

(付記一)

千九百二十九年十二月三日「ニコリスク、ウスリースキー」市ニ於テ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦及奉天政府間ニ調印セラレタル東支鉄道問題ノ紛争調整ニ関スル議定書

一、奉天政府ノ名ニ於テ外交委員蔡氏ハ呂東支鉄道督辦カ督辦ノ職務ヲ解カルルコトヲ声明ス

在「ハバロフスク」市外務人民委員部代表者「シマノフスキー」氏ハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ノ名ニ於テ「ソヴィエト」聯邦ハ呂東支鉄道督辦ノ職務ヲ解カレタル後外務人民委員代理「リトヴィノフ」ノ在莫斯科独逸大使ニ対スル八月二十九日ノ声明ニ基キ「エムシヤーノフ」及「エイスモンド」両氏ノ代リニ新タナル人ヲ東支鉄道管理局長及副管理局長ノ職ニ就カシムル用意アルコトヲ声明ス

後ノ場合ニ於テハ聯邦政府ハ「エムシヤーノフ」及「エイスモンド」両氏ヲ東支鉄道ニ於ケル他ノ職ニ任命スルノ権利ヲ留保ス右ニ付テハ蔡氏ハ「シマノフスキー」氏トノ面談ニ於テ同意ヲ与ヘタリ

二、外交委員蔡氏ハ奉天政府ノ名ニ於テ奉天政府ハ極力支那及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ紛争ノ解決

ニ協力シ且今後ノ紛糾ノ一切ノ原因ヲ排除センコトヲ希望シ千九百二十四年ノ奉天及北京協定ヲ全体ニ於テ又部分ニ於テ厳守スヘキコトヲ声明ス

在「ハバロフスク」外務人民委員部代表者「シマノフスキー」ハ奉天政府カ千九百二十四年ノ協定（複数）ヲ厳守スヘシトノ蔡委員ノ声明ヲ政府ノ名ニ於テ満足ヲ以テ聴取シ自己ノ側ヨリ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ常ニ支那及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ニ存在スル協定（複数）ノ基礎ニ立ツモノナルヲ以テ同協定（複数）ヲ全体ニ於テ又部分ニ於テ厳守スヘキハ勿論ナルコトヲ声明ス

本議定書第一点及第二点ニ記載セラルル声明ハ双方ニ依リ受諾セラレタルモノト認ム

千九百二十九年十二月三日

「ニコリスク、ウスリースキー」ニ於テ

外務人民委員部代表者　「シマノフスキー」（署名）

外交委員　　蔡　　（署名）

（付記二）

千九百二十九年十二月二十二日「ハバロフスク」ニ於テ調印セラレタル東支鉄道問題ノ紛争調整ニ関スル「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦及支那政府間議定書

自己ノ政府ニ依リテ夫々妥当ニ全権ヲ委任セラレタル左記署名者ハ左記事項ニ付協定セリ

一、聯邦政府ノ豫備条件第一点ヲ双方ハ全ク本年十月二十七日附外務人民委員臨時事務取扱「リトヴィーノフ」氏ノ電報及同年十二月三日附「ニコリスク、ウスリースキー」議定書通リ紛争迄存在シ且奉天及北京協定ニ準拠スル状態ノ復活ト諒解ス

鉄道ノ「ソ」支共同管理時代ニ発生セル一切ノ係争問題ハ来ルヘキ「ソ」支会議ニ於テ解決セラルヘキコト

右ニ従ヒ左記措置ハ遅滞ナク之ヲ実行スルコト

(イ)従前ノ条約上ノ基礎ニ於テ東支鉄道理事会ノ業務ヲ復活シ理事会「ソヴイエト」理事（複数）ハ職務ヲ執行スルコト今後支那理事長及「ソヴイエト」副理事長ハ「ソヴイエト」奉天協定第一条第六点ニ従ヒ共同シテノミ行動スルコト

(ロ)「ソヴイエト」市民及支那国民ヲ長トスル職務ノ従前ノ比例ヲ復旧シ「ソヴイエト」聯邦市民タル課長及副課長ノ職権ヲ復旧スルコト（又ハ「ソヴイエト」側ヨリ推薦セラルル場合速カニ新候補者ヲ任命スルコト）

(ハ)千九百二十九年七月十日以後東支鉄道理事会及管理局ノ名ニ於テ発セラレタル鉄道ニ関スル命令及指令ハ合法ナル鉄道理事会及管理局ニ依リテ夫々確認セラレサル場合ハ無効ト認ムルコト

二、千九百二十九年五月一日以後及紛争ニ関聯シ支那官憲ニ依リ逮捕セラレタル「ソヴイエト」市民ハ全部例外ナク何等カノ部類ニ之ヲ分ツコトナク速カニ釈放セラルルコト右ノ内ニハ千九百二十九年五月二十七日哈爾賓領事館臨検当時逮捕セラレタル「ソヴイエト」市民ヲ含ムコト

「ソヴイエト」政府モ亦紛争ニ関聯シテ逮捕セラレタル支那国民及抑留セラレタル支那兵卒及将校ヲ速カニ全部例外ナク釈放ス

三、千九百二十九年七月十日以後解職セラレ又ハ自ラ辞職セル「ソヴイエト」聯邦市民タル一切ノ労働者及事務員ニ対シ其ノ解職迄従事セル職務ニ直ニ復シ且鉄道ヨリ彼等ニ支払ハルヘキ金額ヲ受領スルノ権利及機会ヲ与フルコト

被免者及辞職者中前記権利ヲ行使セサル者ニ対シテハ速カニ労銀年金等ノ完全ナル計算ヲ為スヘキコト

缺員ノ補充ハ夫々合法ナル理事会及管理局ノ命令ニ依リテノミ行ハルルコト

尚紛争中鉄道事務ニ採用セラレタル「ソヴイエト」聯邦市民ニ非ラサル一切ノ旧露国人ハ無条件ニ且遅滞ナル解（クビ）職スルコト

四、支那官憲ハ直ニ露国白党部隊ノ武装ヲ解除シ且之カ組織者及煽動者ヲ東三省領域ヨリ追放スルコト

五、「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦及支那間ノ外交及領事関係ノ完全ナル範囲ニ於ケル回復ニ関スル問題ハ「ソ」支会議迄未解決ノ儘トシ双方ハ東三省ノ領土ニ於ケル「ソヴイエト」領事館及「ソヴイエト」極東地方ノ之ニ相当スル地点ニ於ケル支那領事館ノ速カナル再開ヲ可能且必要ト認ム

「ソヴイエト」政府カ本年五月三十一日「支那官憲ハ国

際公法及国際慣例ノ一般ニ採用セラレタル規準ヲ考慮ニ入ルルコトヲ明カニ欲セス又為シ能ハサルコトヲ一切ノ自己ノ行為ニ依リ示シタルヲ以テ自己ノ側ヨリモ爾今莫斯科ニ於ケル支那代表部及「ソヴイエト」領土内ニ於ケル支那領事館ニ関シテ右規準ニ拘束セラルルモノト思料セス今後此等代表部及領事館ニ対シ国際公法ノ能フル治外法権ヲ認メス」ト声明シタルコト及双方ハ国際公法及国際慣例ノ原則ニ合致スル基礎ニ於テ其ノ間ニ領事関係ヲ回復スルノ意嚮ナルコトヲ考慮ニ入レ奉天政府ハ東三省ノ領土ニ於ケル「ソヴイエト」領事館ニ対シ国際公法及国際慣例ニ依リ与ヘラルル一切ノ不可侵権及特権ヲ保障スヘキコトヲ約シ固ヨリ右不可侵権及特権ヲ犯ス如何ナル強力行為ヲモ抑制スヘキコトヲ声明ス

他方「ソヴイエト」政府ハ本年五月三十一日ヨリ国交断絶迄ノ間ニ於テ支那領事館ニ対シ制定セラレタル特別制度ヲ廃シ本点第一項ニ依リ復活セラルル極東地方ニ於ケル支那領事館ニ対シ国際公法及国際慣例ニ依リ与ヘラルル一切ノ特権及不可侵権ヲ賦課ス

六、領事館ノ復活ト共ニ紛争前東三省地方ニ存在セル一切ノ「ソヴイエト」経済機関ノ正常ナル活動ヲ回復スルコトヲ得

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦領域内ニ存在シタル支那商企業ニシテ東支鉄道ニ於ケル紛争ニ関聯シ其ノ業務カ停止セラレタルモノモ亦復活スルコトヲ得

両国間ノ通商関係ニ関スル問願ハ総テ「ソ」支会議ニ於テ之ヲ解決スヘキモノトス

七、双方ノ協定及利益遵守ノ実際的保障ニ関スル問題ハ来ルヘキ会議ニ於テ之ヲ解決ス

八、一切ノ係争問題ヲ調整スヘキ「ソ」支会議ハ千九百三十年一月二十五日莫斯科ニ之ヲ開催ス

九、支那及「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦ノ国境ニ於テ直ニ平和状態ヲ回復シ引次テ双方ヨリ軍隊ヲ召還スルコト

一〇、本議定書ハ署名ノ時ヨリ効力ヲ生ス

千九百二十九年十二月二十二日

「ハバロフスク」ニ於テ調印

「ソヴイエト」社會主義共和國聯邦全権

外務人民委員部代表者

「シマノフスキー」（署名）

支那共和國全権外交委員

蔡　（署名）

312　昭和4年12月5日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

米、英などの不戦条約に基く通告に対する外交部の回答および中央日報の対日批判について

別　電　十二月五日発在南京上村領事より幣原外務大臣宛第一二一三号

右外交部の回答要領

南　京　12月5日後発

本　省　12月5日後着

第一二一二号

往電第一二〇五号に関シ

五日ノ新聞ハ英米通告及之ニ対スル外交部ノ回答ヲ掲クルト共ニ（回答要領別電第一二一三号ノ通）外交部ハ四日午前在支仏国公使及同日午后在伊支那代理公使ヨリモ仏伊両国ノ通告ニ接シタル旨ヲ報スルト共ニ同様通告ニ接シタル露国ハ英米両国ニ対シ露国側主張ノ条件ニ基キ直接談判スル以外露支問題解決ノ方法無ク如何ナル国ト雖モ之ニ干渉スヘキ筋合ニ非サル旨三日附ヲ以テ回答セル趣報道シ置ケリ

尚五日ノ中央日報ハ「冷淡ニ似テ其ノ実熱心ナル日本ノ態度」ト題シ大要左ノ如ク論シ居レリ

一片ノ通告カ万能膏ノ効能アルカ如ク直ニ露国ノ暴挙ヲ阻止シ得ヘシトハ決シテ思ハサルモ而モ日本ハ何故ニ此ノ一片ノ空文ニ吝ニシテ英米仏各国トノ共同戦線ヨリ離レ全ク孤立ト為ルヲ惜マサルヤ日本ハ露支問題発生後熱スル時ハ何国ヨリモ熱シ冷カルナル時ハ何レノ国ヨリモ冷カナル極メテ奇妙ナル態度ニ出テ恰モ天下ハ我ニ任セヨ（ママ）」ト為シ支那問題自ラ出テテ調停ニ当ラサルヘカラストノ態度ヲ示セリ斯ノ如キハ支那ヲ侮辱スルモノニシテ決シテ支那ノ諒解ヲ得ル事能ハス要スルニ日本ハ支那カ露支交渉ニ成功シタルノ日ハ将来日本ニ対シテモ同様ナル態度ニ出ツヘキヲ慮リ内心焦慮シ居ルモノナリ云々

別電ト共ニ北平、上海、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

（別　電）

南　京　12月5日後発
本　省　12月5日後着

第一二一三号

貴翰閲悉露支問題発生以来本国政府ハ終始和平ヲ保持シ露国側ニ対シ自衛手段以上何等軍事的敵対行為ヲトリタルコトナク右ハ事実ノ証明スル所ナリ本国政府ハ支那カ不戦条約調印国ナルヲ以テ八月二十日各加盟国ニ対シ支那ハ其ノ領土主権ヲ保持シ外来ノ侵害ヲ防禦スル自衛行動ノ外不戦条約第二条ノ規定ヲ確守シ平和的方法ヲ以テ紛争ヲ解決スヘキ旨並維持可能ノ範囲ニ於テ露国政府ト今回ノ紛争解決ノ商議ヲナス準備ヲ有スル次第ヲ説明シタルカ右声明ハ実ニ御来示ノ趣旨ト完全ニ符合ス蓋シ支那政府ハ夙ニ該条約ヲ信シ終始遵奉シテ変ル所ナキヲ以テ重ネテ之ヲ声明ス云々

313　昭和4年12月(7)日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

王正廷が日本の列国共同声明への不参加に懸念表明について

南　京　発
本　省　12月7日後着

第一二二一号

七日ノ各新聞ニ依レハ王正廷ハ六日新聞記者団ニ対シ㈠国民政府ハ曩ニ張學良ニ対シ相当ノ範囲内ニ於テ露国側代表ト交渉シ差支ナキ旨訓令セルカ現在如何ナル程度迄交渉進捗シ居ルヤ外交部ニハ未タ報告ナシ㈡英、米、仏、伊等不戦条約国八ケ国ハ平和的解決ヲ主張セル電報ヲ寄越セルカ新聞報道ニ依レハ日本ハ之ニ参加スルコトヲ欲セサル趣ニシテ自分ハ甚タ気遣ニ思フ尚最近佐分利公使逝去モ不思議ト思フ旨語リタル趣ナリ

支、上海、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

四　済南事件解決交渉（含南京・漢口両事件解決交渉）

314　昭和4年1月5日　在南京岡本領事より田中外務大臣宛（電報）

中国側は済南事件解決交渉再開を希望する旨の周外交部第二司長の談話について

南　京　1月5日後発
本　省　1月6日前着

第七号*

上海発閣下宛電報第一号ニ関シ

本五日他用ヲ以テ周龍光ニ面会シタル際周ハ本官ニ対シ一日王部長ヨリ上村領事ニ話シタル事項ハ其ノ儘貴国政府ヘ報告セラルルコト勿論差支ナキモ之カ為王部長カ恰モ日支懸案交渉ヲ打壊シ引テ田中内閣ノ倒レムコトヲ希望シ居レルカ如ク誤解セラレテハ王部長トシテ甚タ迷惑スル旨語リタル後抑々支那側トシテハ曩ニ王部長矢田総領事間ニ将来ノ保障ノ点ニ付談合纏リ居ル事実ニ鑑ミ既ニ保障問題解決スル以上撤兵ハ不可能ニアラスト諒解シ居ル処其ノ後貴国政府ヨリハ此ノ点ニ関シ何等反対ノ意思表示ヲセラレス従テ保障問題ノ関スル限リ貴国側ニハ御異存ナキモノト承知シ居レルニ拘ラス撤兵問題ニ関シ今以テ何等御申出ナキハ不思議ト言フヘク即チ撤兵ノ誠意ナキニアラスヤト疑フ次第ニシテ仮ニ右王矢田間ノ談合ニ満足セラレサルニ於テハ支那側トシテ此ノ点ニ関シ正式、非公式ヲ問ハス再ヒ交渉ヲ開始シ而シテ撤兵時期ヲ決定スルコトト致シ差支ナキ次第ニシテ此ノ点特ニ政府ニ報告サレタク王部長モ自分ニ対シ何等日本側ヨリ申出ナキヤト再三尋ネタリ即チ将来ノ保障問題解決ニ依リ撤兵時期ヲ決定シ後細目協定ニ入ルノ段取リトナシタキ意嚮ニシテ之以外ノ方途ニ出テ能ハサル破目トナレル次第ナリ

右ハ支那側カ曩ニ矢田総領事王正廷間ニ談合纏マリタル保障問題ノ交渉カ其ノ後帝国政府ノ御訓令ニ依リ立消トナリタル事情ヲ知ラサルニ依ル誤解ニ基クモノト認メラルルモ本官ハ勿論単ニ聞流スニ止メタリ何等御参考迄